

---

神奈川県立近代美術館

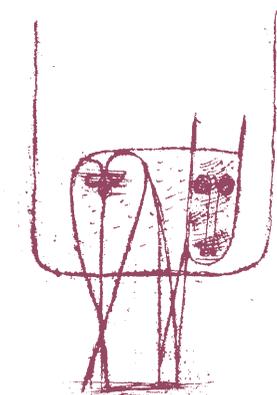
---

年2008報

---

ANNUAL REPORT

---



---

神奈川県立近代美術館

---

年2008報

---

ANNUAL REPORT

---

# 目次

あいさつ	5
展覧会活動	
葉山館	6
鎌倉館	11
鎌倉別館	15
会期・観覧者数一覧	18
教育普及活動	
受講・参加プログラム(講演会・ギャラリートーク・ワークショップ等)	19
研修等受入プログラム(実習・研修・団体観覧等)	22
美術館活用推進委員会	22
美術図書室	22
美術館紹介・広報 掲載実績	23
刊行物(展覧会図録を除く)	24
2008年度の教育普及活動を振り返って[稲庭彩和子]	26
作品蒐集管理活動	
購入・寄贈状況	28
寄託状況	28
新収蔵作品一覧	28
館外貸出作品一覧	49
修復報告	54
修復作品一覧	56
調査研究活動	
研究・調査報告	57
当館蔵の中原悌二郎《老人の頭像》(1910年)石膏原型について[水沢勉]	57
知られざる佐野繁次郎の佐伯祐三評[橋秀文]	59
鎌倉別館収蔵庫の空気環境調査と考察[伊藤由美]	61
調査研究・執筆等の発表	64
講師派遣・外部委員等就任	64
運営・管理報告	
概況(沿革・所掌事務・施設の状況)	66
収入・支出の状況	66
組織・職員一覧	67

## あいさつ

年報2008年度版をお届けいたします。

年度ごとに刊行するこの年報は、そのたびに巻頭で述べさせていただいているように、私ども神奈川県立近代美術館が毎年どのような活動を行っているか、その概略を報告するものです。基本的な方向は変わるものではありませんが、実際に行われる事業については、年ごとにそれまでの経験を活かして工夫を重ねています。毎年繰り返して述べるのですが、美術館の活動は、国内に限らず全世界的に、美術館の存在を支える社会に対して広く門戸を開くことをますます要請されるようになっていきます。さまざまな動機から美術館を訪れる多様な人々の、美術に関する多様な求めに応える美術館のあり方が、国を問わず、地域を問わず探られています。

私どもの美術館も、神奈川県という地域の特性を念頭に置き、同時に視野を広くもちつつ、誰もが気軽に訪れることができ、しかもさまざまな楽しみ方ができるあり方をつねに模索しながら、少しずつ活動の幅を広げてまいりました。神奈川県の財政状況は、さらに悪化し、なかなか明るい兆しが見えてこないなか、私どももまた、美術館活動を充実させていくのに苦心しております。しかし、美術館を場に展開される活動は、人々の生活を充実させる文化領域のなかでなくてはならないものと思ひ、私どもは、今何が必要かということを中心に、質の高い美術領域の活動を探り、可能な限り県民をはじめ多くの方々に豊かな時間を提供し、快い刺激を与えていく努力を払っています。

創意と工夫も困難への方策のひとつと考え、展覧会もいざずらに観客数を指すことなく、広範な視点で社会や時代に必要な内容をもつものを志向し、普及活動の領域でも、子供たち、青年層、成人の方々と、広く目配りをしていろいろな方向から美術に、そして美術館に親しみ、参加することで何かを得ることができるよう心がけています。また、コレクション作り、資料収集についても、美術作品、資料を多くの方々に役立つものとし、将来の人々に残していくことを使命と考え、美術作家、収集家をはじめとするさまざまな方のご支援のもとに充実に努めています。さらには、そうした活動を支えその水準を高め、つねに良質のものを提供するために美術館職員の調査研究をはじめとする諸能力の研鑽についても心がけております。

この年報を通して、活動の実際に関連するもろもろの情報を記録し、美術館の一年を知っていただきたいと思ひます。そして、できるだけ多くの方々にお知らせするために、美術館のホームページでも、この年報の内容をご覧いただけるようにしました。幾多の視点からのご意見、批評、激励は、美術館活動を一層有益なものとするに欠かせないと考えております。

2010年3月

神奈川県立近代美術館館長 山梨俊夫

## 展覧会活動

616

コレクション全館展示—10,000点からの精華400点 葉山館開館5周年記念 百花繚乱の絵画

The Abundance of the Collection

日本近代を中心に集められた1万点に近い収蔵品から、選りすぐりの絵、普段紹介の難しい絵を合わせ、当館のコレクションの豊かさを、質とともに量としても紹介。葉山館、鎌倉館、鎌倉別館で同時に開催した。各館それぞれのテーマに沿って、総計400点ほどの作品で構成。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2008年4月1日(火)～5月18日(日)

\*前年度の3月29日より継続

休館日：祝日を除く月曜日と4月30日(水)、5月7日(水)

開催日数：41日 \*前年度からの通算開催日数：43日

出品総点数：442点(第1部：葉山館279点、第2部：鎌倉館111点、  
第3部：鎌倉別館52点)

総観覧者数：20,380人(当年度分のみ)

\*前年度から通算すると21,372人

担当学芸員：山梨俊夫、奥野美香

### 関連記事

▼展評・解説など：

奥野美香「北から南から」『新美術新聞』2008年4月1日号、美術年鑑社、2008年4月、8面

秋山亮太「57年の精華一挙に 神奈川県立近代美術館 百花繚乱の絵画」『朝日新聞』2008年4月23日朝刊、34面

▼展覧会紹介：

尹貴淑「県立近代美術館葉山 5周年記念展 百花繚乱 大家の美 今春、所蔵作品を3館で紹介」『神奈川新聞』2008年1月1日朝刊、14面

総計12紙/誌(14回)

▼情報掲載：17紙/誌(25回)

### パンフレット

25.7×18.2cm、16ページ、無料配布  
編集・発行：神奈川県立近代美術館

### 開催にあたって

第一部：葉山館 解説／出品リスト

第二部：鎌倉館 解説／出品リスト

第三部：鎌倉別館 解説／出品リスト

### 関連企画

1) スタンプラリー：3会場すべてのスタンプを集めた方にはプレゼントを用意

2) ちいさなワークショップ・アートの旅に出かけよう

4月20日(葉山館)、4月27日(鎌倉館)、5月11日(葉山館) 各日2回実施

3) 館長が案内する美術館全館ツアー 「コレクション」のありかたを探る

第1回：4月5日 山梨俊夫(当館館長)×北澤憲昭(美術評論家) 第2回：5月3日 山梨俊夫×本江邦夫(多摩美術大学教授・府中市美術館館長)

4) ギャラリートーク 4月12日(鎌倉別館) 4月19日(葉山館) 5月10日(葉山館)

5月17日(鎌倉館)



ポスター



パンフレット表紙

### 担当学芸員コメント

葉山館、鎌倉館、鎌倉別館ごとのテーマおよび作品選定・展示プランを通してコレクションの全体像が浮かび上がり、かつ普段目に触れる機会がない作品も楽しんでもらえるよう工夫した。来館者がそれぞれの建物を訪れることで、当館のコレクションの多様さを感じることでなればとの思いから、美術館全館をめぐるツアーやスタンプラリーなど、三つの建物を連動させた関連企画も行った。また、美術館キット「Museum Box 宝箱」を使った鑑賞を全館で行うことができる貴重な機会となった。(奥野美香)

626

マティスとボナール 地中海の光の中へ

Matisse et Bonnard : Lumière de la Méditerranée

20世紀の巨匠アンリ・マティス(1869-1954)とピエール・ボナール(1867-1947)。南仏の光の中で輝く色彩と造形を追求して〈絵画への賛歌〉をうたい上げたふたりの画家を、その交友に照明をあてて紹介する。

主催：神奈川県立近代美術館、東京新聞  
 後援：フランス大使館  
 協賛：光村印刷株式会社  
 協力：全日本空輸  
 会期：2008年5月31日(土)～7月27日(日)  
 休館日：祝日を除く月曜日と7月22日(火)  
 開催日数：50日  
 出品総点数：110点+参考出品24件(展示替有)  
 総観覧者数：23,095人  
 担当学芸員：太田泰人、長門佐季  
 企画構成：川村記念美術館(仲川憲四、鈴木尊志、横山由紀子)、  
 神奈川県立近代美術館(山梨俊夫、太田泰人、長門佐季)、  
 東京新聞(森要造、垣尾良平、井鍋雄介、森優美子、草薙沢子)

監修：太田泰人  
 企画協力：白羽明美  
 学術協力：ベーター・クロップマン(美術史家)、レミ・ラブリュス(ピカルディ大学教授、美術史)  
 巡回：川村記念美術館

#### 関連企画

- 1) 記念講演 6月1日「マティスとボナール 星の友情」レミ・ラブリュス
- 2) ギャラリートーク 6月7日、21日、7月12日、26日

#### 関連記事

▼展評・解説など：  
 「ミュージアム・ツアー報告」『森からのたより：群馬県立近代美術館友の会』No.16、  
 群馬県立近代美術館友の会、2008年5月  
 結城昌子「色彩が生み出す幸福な時間の手触り 『マティスとボナール』展」『東京新聞』2008年4月19日朝刊、21面  
 古賀太「美の履歴書055《陽の当たるテラス》ピエール・ボナール」『朝日新聞』2008年4月23日、夕刊be、5面  
 高野清見「マティスとの友情呼応する2展覧会 『ルオーとマティス』展 『マティスとボナール』展」『読売新聞』2008年4月24日朝刊、16面  
 山梨俊夫「自然の色彩を愛した2人の画家 マティスとボナール 地中海の光の中へ」『東京新聞』2008年5月5日朝刊、10面

「マティスとボナール 地中海の光の中へ」展開幕」『東京新聞』2008年6月1日朝刊、26面  
 志村節子「響き合うシンフォニー 『マティスとボナール』展を見て」『東京新聞』2008年6月28日朝刊、18面  
 尹貴淑「色彩の追究と友情の軌跡 『マティスとボナール』展」『神奈川新聞』2008年6月30日朝刊、22面  
 太田泰人「マティスとボナール 上 ピエール・ボナール《浴槽の裸婦》」『東京新聞』2008年7月16日朝刊、27面  
 長門佐季「マティスとボナール 中 アンリ・マティス《緑の大理石の上の静物》」『東京新聞』2008年7月17日朝刊、25面  
 山梨俊夫「マティスとボナール 下 ピエール・ボナール《花咲くアーモンドの木》」『東京新聞』2008年7月22日朝刊、23面  
 ▼展覧会紹介：18紙/誌(20回)  
 ▼情報掲載：17紙/誌(51回)

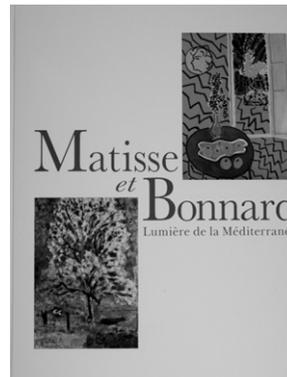
#### カタログ

29.6×23cm、248ページ、販売価格2,400円  
 多色223図、単色42図、挿図33図  
 編集：川村記念美術館、神奈川県立近代美術館、東京新聞  
 執筆：山梨俊夫、レミ・ラブリュス、イザベル・モノフォンテース、ベーター・クロップマン、太田泰人、鈴木尊志、長門佐季、横山由紀子  
 翻訳(和訳)：山梨俊夫、天野知香、横山由紀子  
 翻訳(仏訳)：エリカ・ベシヤール＝エルリ  
 デザイン：桑畑吉伸  
 制作：コギト  
 印刷：光村印刷  
 発行：東京新聞

ごあいさつ、謝辞、目次  
 マティスとボナール、分かちもつ絵画への信頼—展覧会開催にあたって(山梨俊夫)  
 星の友情(レミ・ラブリュス)  
 珊瑚とひなげし—マティスとボナールの赤について(イザベル・モノフォンテース)  
 純粋と調和のレッスン：マティスとボナールのジャポニスムについて(ベーター・クロップマン)  
 図版  
 マティスとボナールの書簡 翻訳と解題(横山由紀子)  
 「絵画の場所」と「現象的色彩」：マティスとボナール/ロスコとニューマンを巡って(鈴木尊志)  
 関連年表、外国語主要参考文献、日本語主要参考文献、作品リスト



ポスター



カタログ表紙

#### 担当学芸員コメント

20世紀のフランス絵画を代表するマティス、ボナールの芸術的展開を、ふたりの間の生涯にわたる友情を軸としながら構成した展覧会。絵画作品のほかには彼らの制作環境や交友を物語る書簡、手帖、写真などの資料を併せて陳列し、20世紀美術の激動の中で絵画への信頼と愛を分かち合ったふたりの画家の精神的な境地が感じられる展示を目指した。本展には、共催の川村記念美術館側が親会社の創立100年記念事業として大きな出資をしてくれたが、それでも世界的に人気の高いこの二人の作品借用には非常に嬉しいものがあった。(太田泰人)

627

生誕100年記念 秋野不矩展

AKINO Fuku: Commemorating the 100th Anniversary of the Artist's Birth

インドの豊かな大地と風物を、みずみずしい色彩で力強く描いた秋野不矩(1908-2001)。生誕100年を機に、初期から最晩年の代表作約90点および素描や絵本原画などもあわせて展示し、その制作の軌跡をたどる。

主催：神奈川県立近代美術館、毎日新聞社  
 協賛：日本写真印刷  
 会期：2008年8月9日(土)～10月5日(日)  
 休館日：祝日を除く月曜日と9月16日(火)、24日(水)  
 開催日数：49日  
 出品総点数：139点(展示替有)  
 総観覧者数：23,045人  
 担当学芸員：橋秀文、奥野美香、朝木由香  
 巡回：京都国立近代美術館、浜松市秋野不矩美術館

関連企画

- 1) 記念トーク 9月12日 「秋野不矩を語る—そのたたかいと創造」藤森照信、秋野等
- 2) キャラリートーク 8月23日、9月20日

関連記事

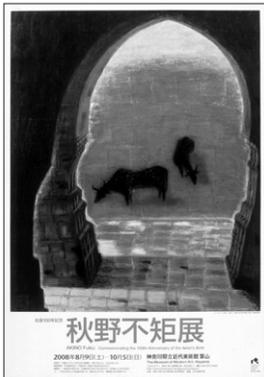
- ▼展評・解説など：  
 岸桂子「生誕100年記念 秋野不矩展 大地の息吹豊かに」『毎日新聞』2008年6月6日朝刊、10面  
 吉行和子「五感解放 大地の記憶 『澄みきった空気が流れる』」『毎日新聞』2008年8月7日朝刊、14面  
 千住博「五感解放 大地の記憶 『生の実感と、死の予感と』」『毎日新聞』2008年8月7日朝刊、14面  
 吉野正浩「〔オリッサの寺院〕など140点展示『生誕100年記念 秋野不矩展』」『毎日新聞』2008年8月10日朝刊、25面  
 青山祥子「美の履歴書072 異国の娘が描くのは《朝の祈り》 秋野不矩」『朝日新聞』2008年8月20日夕刊、5面  
 山梨俊夫「生誕100年記念 秋野不矩展 県立近代美術館」『毎日新聞』2008年9月10日朝刊、21面  
 橋秀文「生誕100年記念 秋野不矩展 《裏町(カルカッタ)》」『毎日新聞』2008年9月11日朝刊、21面  
 朝木由香「生誕100年記念 秋野不矩展 《朝の祈り》」『毎日新聞』2008年9月17日朝刊、24面

山梨俊夫「生誕100年記念 秋野不矩展 《ヴィシヌスプール寺院》」『毎日新聞』2008年9月18日朝刊、25面  
 橋秀文「生誕100年記念 秋野不矩展 《婦牛》」『毎日新聞』2008年9月23日朝刊、23面  
 ▼展覧会紹介：19紙/誌(23回)  
 ▼情報掲載：15紙/誌(40回)

カタログ

27.5×22.8cm、224ページ、販売価格2,000円  
 多色220図、単色挿図90図、多色挿図20図  
 編集：京都国立近代美術館(小倉実子、中尾優衣)、浜松市秋野不矩美術館(岡久美子)、神奈川県立近代美術館(奥野美香、朝木由香)、毎日新聞社事業本部  
 翻訳：永田絵里  
 制作・デザイン：大向デザイン事務所(大向務、坂本佳子、市川真莉子)  
 印刷：日本写真印刷株式会社  
 発行：毎日新聞社/浜松市秋野不矩美術館

謝辞、ごあいさつ、目次  
 秋野不矩 新しい「日本画」の探究者：生誕100年記念 秋野不矩展への序(岩城見一)  
 秋野不矩の生涯と芸術(岡久美子)  
 秋野不矩さんのこと(吉行和子)  
 図版  
 秋野不矩の旅  
 秋野不矩と色(岡久美子)  
 不矩 インド紀行(秋野亥左幸)  
 青甲社入塾時の不矩(小倉実子)  
 創造美術と秋野不矩—(少年群像)を中心に(奥野美香)  
 秋野不矩略年譜(岡久美子)  
 アルバム(編：岡久美子)  
 参考図版(編：小倉実子、中尾優衣)、参考文献(岡久美子、朝木由香)  
 出品目録



ポスター



カタログ表紙

担当学芸員コメント

京都で活動してきたこともあって、東京では、なかなか回顧展を行うことのなかった秋野不矩の展覧会が、公立の美術館として初めて、関東地方で行われ、多くの秋野不矩ファンを喜ばせたことは、なによりであった。インドの豊かな大地と風俗を、みずみずしいタッチで描き上げた絵画作品は、明るい日差しを湘南の地にマッチして、心豊かにさせる展示となった。(橋秀文)

628

現代彫刻の変革者 湯原和夫展 存在の自由区

KAZUO YUHARA New Works Liberated Zone of Existence

湯原和夫(1930-)は時代をリードする作品を国内外で発表しつづけてきた。厳しく研ぎ澄まされた感性と大胆な造形思考をもって生み出されたその抽象彫刻は、力強いスケール感があり、国外でも多数が所蔵されている。本展では新作を含めた近年の立体作品を中心に、壁掛けのペーパーワークなども展示する。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2008年10月18日(土)～2009年1月25日(日)

休館日：祝日を除く月曜日と11月4日(火)、25日(火)、12月24日(水)、  
12月30日(火)～2009年1月3日(土)、1月13日(火)

開催日数：80日

出品総点数：51点

総観覧者数：5,667人

担当学芸員：是枝開、平井鉄寛

## 関連企画

- 1) 湯原和夫氏によるアーティスト・トーク 11月16日
- 2) ギャラリートーク 11月2日、12月21日、1月18日
- 3) サウンド・ミュージアム in 葉山 Vol.1「クリスタル・クリスマスの夕べ」 12月23日、  
Vol.2「ビスメロ・ニューイヤー・ライブ -古楽・ジャズ・民族音楽の出会い-」  
1月25日

## 関連記事

▼展評・解説など：

大西若人「ありふれたモノが醸す違和感 湯原和夫展 神奈川県立近代美術館」

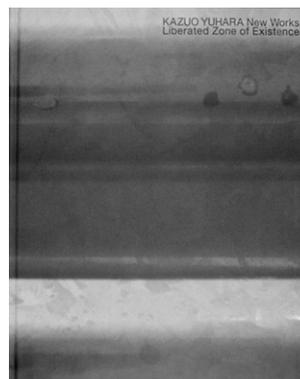
『朝日新聞』2009年1月14日夕刊、11面

▼展覧会紹介：19紙/誌(23回)

▼情報掲載：10紙/誌(56回)



ポスター



カタログ表紙

## カタログ

28.7×23.2cm、104ページ、別刷英文略歴二つ折1枚挟込、販売価格1,800円

多色51図、挿図7図

編集・発行：神奈川県立近代美術館

翻訳：小川紀久子

デザイン：桑畑吉伸

制作：美術出版デザインセンター

謝辞、あいさつ、目次

「存在の自由区」のなかへ(山梨俊夫)

湯原和夫インタビュー(聞き手：是枝開)

虚空を体験する場—インタビューを終えて(是枝開)

図版

作家略歴、展覧会歴、主要関連文献(編：平井鉄寛)

“Into the Liberated Zone of Existence” Yamanashi Toshio

出品作品リスト

## 担当学芸員コメント

1982年の鎌倉館での個展開催以来、葉山館における、当館では2度目の個展。1982年以後に制作された新作を中心に展示した。目に見える構造としてはきわめてシンプルでありながら、単線的な進化論的美術史や、西洋対東洋といった画一的図式を超えた、根源的で本質的な要素が複合的に組み込まれているように感じられる作品群の展覧となった。図録では、作家の自作についての考え、制作上のコンセプト、その過程や背景、あるいは作品の具体的構造について、インタビューを事前に行い掲載した。(是枝開)

629

アジアとヨーロッパの肖像

SELF and OTHER : Portraits from Asia and Europe

アジアとヨーロッパの出会いを背景に、広い意味での肖像、すなわち人物表現を伴う絵画、彫刻、工芸、写真などにおける自己像と他者像の展開を展覧する。神奈川県立歴史博物館との同時開催。

主催：神奈川県立近代美術館、国立民族学博物館、朝日新聞社、アジア・ヨーロッパ財団  
 特別協力：大英博物館  
 後援：外務省、神奈川県新聞社、NHK横浜放送局、tvk、横浜開港150周年協会、神奈川県博物館協会  
 協力：日本航空、日本通運、横浜美術館（横浜市芸術文化振興財団）  
 協賛：日本写真印刷  
 助成：国際交流基金  
 神奈川県開港・開国150周年メモリアルイベント  
 会期：2009年2月7日（土）～3月29日（日）  
 休館日：月曜日、2月12日（木）、3月10日（火）  
 開催日数：42日  
 出品総点数：240点（展示替有）  
 総観覧者数：7,169人  
 担当学芸員：榎山昌夫、水沢勉  
 巡回/同時開催：国立民族学博物館、国立国際美術館、福岡アジア美術館、神奈川県立歴史博物館

関連企画

- 1) 県立機関活用講座  
 第1回 2月14日：「人を描く、自分を語る—「アジアとヨーロッパの肖像」」吉田憲司  
 第2回 2月21日：「南蛮屏風にみる異国へのまなざし」日高薫  
 第3回 2月28日：「17世紀オランダの肖像と「異国」」高橋達史  
 第4回 3月7日：「アジア美術の近代—西洋との出会い」ラウンチャイクン 寿子  
 第5回 3月14日：「現代の肖像 移り変わる時代の表現」安来正博  
 2) ギャラリートーク 2月11日、3月20日

関連記事

- ▼展評・解説など：  
 吉田憲司「まなざしは語る 『アジアとヨーロッパの肖像』展」『朝日新聞』2009年2月4日夕刊、11面  
 西尾玄司「アジアとヨーロッパの肖像紹介 歴博と近美で来月29日まで」『東京新聞』2009年2月13日朝刊、28面  
 嶋村元宏「『アジアとヨーロッパの肖像』展① 天狗か人か—多様なまなざし」『朝日新聞』2009年2月19日朝刊、30面  
 吉田憲司「『アジアとヨーロッパの肖像』展② 見知らぬ国 まなざしの交錯」『朝日新聞』2009年2月26日朝刊、34面  
 尹貴淑「社会を映し相互理解問う 『アジアとヨーロッパの肖像』展」『神奈川新聞』2009年3月2日朝刊、16面  
 大西若人「『アジアとヨーロッパの肖像』展③ 東西出会った後も漂う奇妙さ」『朝日新聞』2009年3月11日朝刊、11面  
 榎山昌夫「『アジアとヨーロッパの肖像』展④ 芸者取り巻く文化に魅せられる？」『朝日新聞』2009年3月12日朝刊、30面



ポスター

担当学芸員コメント

18世紀ヨーロッパ王侯の肖像画、南蛮屏風、オランダ植民地絵画、半世紀を超える当館の歴史でも、これらの作品を同時に展示したのは初めてである。洋の東西、時代を横断して視覚による人間の自己／相互認識を探る実験的な企画であったと言える。

この展覧会は日本発の国際巡回展として企画され、国内では国立民族学博物館を中心に、国立国際美術館、福岡アジア美術館、神奈川県立歴史博物館との協議を重ねて構築したものである。神奈川では当館と県立歴史博物館との同時開催という、これもまた新たな試みであった。（榎山昌夫）

▼展覧会紹介：  
 「東と西、自他認識の歩み アジアとヨーロッパの肖像展」『朝日新聞』2009年2月4日朝刊、18面  
 総計9紙/誌（11回）  
 ▼情報掲載：11紙/誌（28回）

カタログ  
 29.8×22.9cm、320ページ、販売価格2,500円  
 多色469図、多色挿図13図、単色挿図26図  
 共編：吉田憲司（代表）、ブライアン・ダランズ（副代表）、川口幸也、黒田雷児、嶋村元宏、水沢勉、榎山昌夫、安来正博、ラウンチャイクン 寿子、アンガス・ロッキヤー  
 翻訳（日英）：スタン・アンダーソン、小川紀久子  
 翻訳（英日）：池田絵美子、磯谷有充、緒方しらべ、國吉貴奈、五月女賢司、鈴木慈子、高嶋慈、福元崇志  
 編集協力：国立民族学博物館  
 デザイン：松川眞弓  
 印刷：日本写真印刷  
 発行：朝日新聞社

ごあいさつ、まえがき（ブライアン・ダランズ）  
 総論：アジアとヨーロッパの「肖像」—ひととをどのように描いてきたのか（吉田憲司）  
 それぞれの肖像—アジアの肖像の特徴と広がり（川口幸也）  
 ヨーロッパの肖像（ブライアン・ダランズ）  
 第1章図版  
 想像のなかのアジア、想像のなかのヨーロッパ（吉田憲司）  
 中国と日本の肖像—オランダ黄金時代の状況（テイス・ウェストステイーン）  
 第2章図版  
 近代日本人の異国意識—憧憬・好奇・畏怖・蔑視（嶋村元宏）  
 風景に人びとを住まわせる—15世紀から19世紀にいたる、ヨーロッパにおけるアジアのイメージ（アンガス・ロッキヤー）  
 第3章図版  
 日本の洋画とヨーロッパ—摂取から交錯へ（榎山昌夫）  
 「自己」との乖離—「他者」の手法がもたらす近代的意識の変容、アジアの場合（水沢勉）  
 モダニズムとジャポニズム—ヨーロッパによる自己と他者の表現（渡辺俊夫）  
 第4章図版  
 アジアという他者、アジアの他者—現代世界を調整する術（アート）（黒田雷児）  
 現代の肖像表現—そのリアリティを支えるもの（安来正博）  
 現代の消費資本主義社会における「自己」と「他者」（ケイティ・ティープウェル）  
 第5章図版  
 文献、謝辞、写真撮影等クレジット、横浜美術館よりの借用作品一覧、ウィクトリア&アルバート美術館への本展出品作品の寄贈者  
 アジア・ヨーロッパ・ミュージアム・ネットワーク（ASEMUS）国際巡回展 参加機関、編集・制作関係者



カタログ表紙

630

## 夏の美術館 あの色/あの音/あの光

## Project for Children in the Museum

美術館の周りにあふれるたくさんの色、音、光。鎌倉館の前に広がる蓮池のきらめき。そしてもちろん展示された作品の中にも豊かな色、音、光がある。夏の美術館でいつもと違う形で作品に出会うための、そして見ることの体験を外と内に広げる、子どもも大人も楽しめる展覧会。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2008年5月31日(土)～8月31日(日)

休館日：祝日を除く月曜日と7月22日(火)

開催日数：80日

出品総点数：69点

総観覧者数：13,969人

担当学芸員：是枝開、稲庭彩和子

## 関連企画

## 1) 夏の美術館 ワークショップ

第1回 6月1日：小説家 島田雅彦さんといっしょに「蓮池を書く」

第2回 6月7日：画家 菊池敏直さんといっしょに「蓮池を描く」

第3回 7月20日：杉並区立科学館館長 渡邊昇さんといっしょに「蓮池を科学する」

第4回 8月10日：作曲家 片岡祐介さんといっしょに「蓮池を聴く」

第5回 8月24日：anan編集長 及川卓也さんといっしょに「蓮池を編集する」

2) ギャラリーツアー 6月14日、7月26日、8月2日、16日、20日、29日

3) 「わくわくゆったりセット」：小・中・高校生に配布

## 関連記事

## ▼展評・解説など：

稲庭彩和子「topics」『地域創造レター』2008年7月号、地域創造、2008年6月、p.8

稲庭彩和子「子育てはアートがなくちゃ! 親子で美術館、初体験」『月刊クーヨン』2008年11月号、クレヨンハウス、2008年11月1日、pp.28-29

## ▼展覧会紹介：14紙/誌(14回)

## ▼情報掲載：14紙/誌(33回)

## カタログ

鑑賞ポケット絵本

18.7×12.8cm、22ページ、無料配布

多色8図

文・構成：稲庭彩和子

イラスト：中田瑞穂

デザイン：笠原かなえ

制作：コギト

編集・発行：神奈川県立近代美術館



ポスター



鑑賞ポケット絵本 表紙と中面

## 担当学芸員コメント

展示室だけでなく美術館建築やその周りに広がる風景も含めた美術館全体を、子どもから大人までが楽しめることを意図して展覧会を構成した。当館のコレクションを中心に展示するとともに、横浜国立大学附属鎌倉小学校と連携して、子どもたちが撮影した美術館の風景写真や鑑賞した時の言葉を、会場や「鑑賞ポケット絵本」で紹介した。子どもの視点や存在は、大人たちにも本質的な示唆を与えるものと考え、改めて提示した。子どもたちの鑑賞者としての視点を積極的に取り入れた展覧会の開催は当館では初めてであったが、18歳以下の来館者は大幅に増え、比例して一般の来館者も通常のコレクション企画展より増えた。子どもたちや教師との長期にわたる交流が展覧会の内容構成に活かされ、彼らが展覧会に参加したことは、一般の来館者が鑑賞するうえで作品を自分に引き付けてみることを可能にし、意義のある試みであったと感じている。(稲庭彩和子)

631

岡村桂三郎展

Okamura Keizaburo

現代日本画の旗手岡村桂三郎(1958-)の、日本画という枠を取りはらい、土俗的な雰囲気や漂わせる作品を展示。最近の作品を中心に大作約20点。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2008年9月13日(土)～11月24日(月・祝)

休館日：祝日を除く月曜日と9月16日(火)、24日(水)、10月14日(火)、11月4日(火)

開催日数：62日

出品総点数：19点

総観覧者数：8,362人

担当学芸員：橋秀文

関連企画

- 1) 岡村桂三郎氏によるアーティスト・トーク 9月27日、10月19日、11月1日
- 2) ギャラリートーク 10月4日、11月15日

関連記事

▼展評・解説など：

「岡村桂三郎 幻獣たちの荒ぶる生命」『アートトップ』2008年9月号、芸術新聞社、2008年9月、p.14

「アーティスト訪問・岡村桂三郎」『月刊ギャラリー』2008年11月号、ギャラリーステーション、2008年11月、pp.17-23

「トピック」『美じゃん新報』2008年11月20日、ビジョン企画出版社、2008年11月、p.7  
「受賞作家に聞く 日経日本画大賞 岡村桂三郎さん」『月刊美術』2008年12月号、サン・アート、2008年12月、pp.158-159

「Gallery CLUB 今月BEST1 展覧会作家インタビュー」『月刊ギャラリー』2009年1月号、ギャラリーステーション、2009年1月、p.101

池川徹雄「美術 木板上に描かれた類を見ない巨大絵画」『新かながわ』2008年11月9日2面、新かながわ社、2008年11月

橋秀文「幻視者：岡村桂三郎の世界」『新美術新聞』2008年9月21日、美術年鑑社、2008年9月

藤島俊会「岡村桂三郎展 津上みゆき展 他」『神奈川新聞』2008年10月3日朝刊、11面

小川敦生「触覚に迫る巨大な屏風 岡村桂三郎、怪鳥を削り出す」『日本経済新聞』2008年10月5日朝刊、25面

田中三蔵「逸脱・越境に見る『日本画』の正統 『伊藤彬展』『岡村桂三郎展』」『朝日新聞』2008年10月15日夕刊、11面

宝玉正彦「第4回東山魁夷記念 日経日本画大賞 日本画たくましい創造 岡村桂三郎」『日本経済新聞』2008年10月20日朝刊、33面

岸桂子「物質生かす伝統の技 岡村桂三郎展 栗本夏樹展」『毎日新聞』2008年11月11日夕刊、4面

「斬新・意欲的作品揃う 第4回 東山魁夷記念 日経日本画大賞展」『日本経済新聞』2008年11月15日朝刊、33面

▼展覧会紹介：5紙/誌(5回)

▼情報掲載：13紙/誌(17回)

カタログ

29×22.5cm、72ページ、販売価格1,800円

多色22図、単色挿図13図

編集・発行：神奈川県立近代美術館

翻訳：小川紀久子

デザイン：桑畑吉伸

制作：コギト

謝辞、あいさつ、目次

巨大さの気配—岡村桂三郎の近作について(山梨俊夫)

図版

『猛獣篇』としての岡村桂三郎の絵画(橋秀文)

岡村桂三郎の言葉

年譜、参考文献、出品リスト



ポスター



カタログ表紙

担当学芸員コメント

岡村桂三郎展の会期中に、出品作《獅子08-1》によって日経日本画大賞を受賞し、担当者にとっても慶賀にたえない展覧会となった。岡村桂三郎の人柄の良さも働いてか、アーティスト・トークは盛況で、岡村独特の作品制作の秘密を惜しげもなく披露する作者の姿に、展覧会担当者自身も感銘を強く受けた。岡村桂三郎の創作活動の、今後の大いなる展開を見守りたい。(橋秀文)

632

冬の所蔵品展示 1910—1930年代の日本近代絵画を中心に

Winter Exhibition: Japanese Modern Painting 1910-1930s from the Museum Collection

当館のコレクションの中核をなす日本近代の絵画の中から、忘れがたい名品とその周辺を探りつつ、油彩など約70点を展示。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2008年12月6日(土)～2009年2月1日(日)

休館日：祝日を除く月曜日と12月24日(水)、12月30日(火)～2009年1月3日(土)、1月13日(火)

開催日数：44日

出品総点数：68点

総観覧者数：4,109人

担当学芸員：三本松倫代

関連企画

1) ギャラリートーク 12月20日、1月17日

関連記事

▼ 展覧会紹介：7紙/誌(7回)

▼ 情報掲載：12紙/誌(19回)



ポスター

## 担当学芸員コメント

第1展示室では油彩画を中心に関根正二の淡彩画、村山知義のタダ的な作品などを交え、時代の洋画動向に即しながらも多様な展開を紹介できるよう試みた。主に年代と動向によって順路を構成したが、彫刻室にブロンズ作品をまとめて紹介し、仲田定之助の石膏彫刻のみ第1展示室に配している。(三本松倫代)

633

伊庭靖子展—まばゆさの在処—

YASUKO IBA Whereness of Brilliance

日常の中の見慣れた物を自然光の下で撮影し、その写真をもとに絵画として描き出す作業を続けている伊庭靖子(1967-)の個展。物が存在することの不思議さが漂う、神秘的とすら言える作品群を展覧。

主催：神奈川県立近代美術館

協賛：SHISEIDO

社団法人企業メセナ協議会認定

会期：2009年2月14日(土)～3月22日(日)

休館日：月曜日

開催日数：32日

出品総点数：43点

総観覧者数：5,458人

担当学芸員：是枝開、稲庭彩和子

関連企画

- 1) 伊庭靖子氏によるアーティスト・トーク 2月15日
- 2) ギャラリートーク 2月21日、3月7日、14日、21日

関連記事

▼展評・解説など：

「今月の一品」『美術の窓』2009年5月号、生活の友社、2009年5月、p.129

宝玉正彦「目で共感を呼ぶ透明感 伊庭靖子展」『日本経済新聞』2009年2月25日朝刊、40面

山中英之「質のありか 求め続けて」『京都新聞』2009年2月28日朝刊、18面

古賀太「白を背景に青い模様 光とともに器を描く 鎌倉で伊庭靖子展」『朝日新聞』2009年3月4日夕刊、9面

藤島俊会「若者が受け継ぐ『爆発』 岡本太郎現代芸術賞展 伊庭靖子展他」『神奈川新聞』2009年3月6日朝刊、6面

岸桂子「伊庭靖子展 光とつやが織りなす世界」『毎日新聞』夕刊2009年3月9日

朝刊、4面

「聴覚や触覚も重層的に誘発 2女性美術家の世界 伊庭靖子展他」『神奈川新聞』2009年3月9日朝刊、26面

高野清見「ARTプラス 質感に迫り溶けていく 伊庭靖子」『読売新聞』2009年3月10日夕刊、5面

▼展覧会紹介：10紙/誌(11回)

▼情報掲載：12紙/誌(26回)

カタログ

23.0×21.1cm、96ページ、販売価格1,800円

多色43図、単色挿図4図

編集・発行：神奈川県立近代美術館

デザイン：U. Shima

製作：求龍堂

謝辞、目次

ものみな光に侵されて—伊庭靖子展に際して(山梨俊夫)

まばゆさの在処—伊庭靖子の現在(水沢勉)

伊庭靖子インタビュー(聞き手：是枝開)

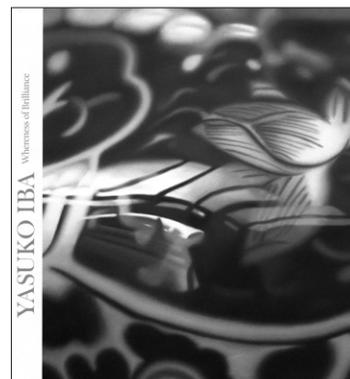
具体的な物象との距離—インタビューを終えて(是枝開)

図版

略歴、個展、主なグループ展、主要関連文献、作品目録



ポスター



カタログ表紙

担当学芸員コメント

伊庭靖子の本邦初の美術館での個展。身近な物でありながら、わたしたちが普段忘れてしまっている爽快で明澄な物そのものの存在の仕方を、滲むような画質をもって讃えた展覧会となった。その画面は私たちの感覚をひろげ、普段は見過ごしている物が静かに纏うまばゆさに満ちた世界を気づかせ、見る者に驚きとともに、確かさや温かさを感じさせてくれた。図録では、作家の自作についての考え、制作上のコンセプト、その過程や背景、あるいは作品の具体的構造について、インタビューを事前に行い掲載した。(是枝開)

634

## ドランの『パンタグリュエル』と新収蔵品展

## "Pantagruel" Prints by André Derain and New Acquisition

20世紀前半にフランスで活躍した画家アンドレ・ドラン(1880-1954)が、16世紀フランスの文学者フランソワ・ラブレーの奇書『パンタグリュエル』から着想を得て制作した色彩鮮やかな木版画を紹介。併せて2007年度を中心に近年の購入・寄贈から代表的な作品を展示。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2008年5月31日(土)～8月31日(日)

休館日：祝日を除く月曜日と7月22日(火)

開催日数：80日

出品総点数：93点

総観覧者数：4,354人

担当学芸員：橋秀文

パンフレット(ポスター兼用)

18.3×17.2cm、4つ折り(開くとB3版ポスターとなる)、無料配布

多色11図

編集・発行：神奈川県立近代美術館

デザイン・製作：求龍堂

あいさつ(山梨俊夫)

アンドレ・ドラン略年譜

アントニ・クラウヴェ略年譜

出品目録

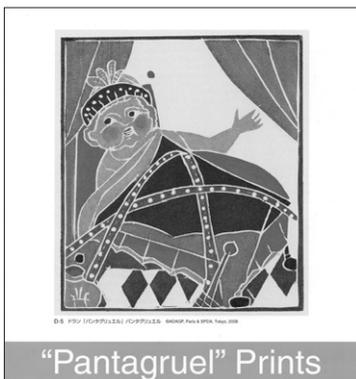
## 関連企画

ギャラリートーク 6月14日、7月26日

## 関連記事

▼展覧会紹介：1紙/誌(1回)

▼情報掲載：12紙/誌(28回)



パンフレット表紙

## 担当学芸員コメント

挿絵本形式の版画作品を一点ずつ額装して展示するのが、はたしていいのかどうか、20数年悩み続けている問題だ。今回も、結局、額装してきれいな画面を見せることに専念した。ただ、本来、本仕立てになっているので、一ページ一ページ開きながら鑑賞できたら最高ののだが、展示という制約の中では、額装して、第一に美しい版画を見ていただくこともいいことだと、最近では、割り切って展示をし始めている。(橋秀文)

635  
ミクロコスモス  
小宇宙への情熱 美浦康重版画コレクション展  
MIURA Yasushige Print Collection

柄澤齊を中心に浜田知明、長谷川潔など日本を代表する版画家による作品を蒐集してきた美浦康重氏のコレクション。2007年度に寄贈された約200点のなかから約130点を選んで紹介。

主催：神奈川県立近代美術館  
会期：2008年9月13日(土)～12月14日(日)  
休館日：祝日を除く月曜日と9月16日(火)、24日(水)、10月14日(火)、  
11月4日(火)、25日(火)  
開催日数：79日  
出品総点数：128点  
総観覧者数：4,069人  
担当学芸員：長門佐季

関連企画

- 1) 美浦康重氏と柄澤齊氏のトーク 10月5日
- 2) ギャラリートーク 9月23日、11月3日、12月6日

関連記事

- ▼ 展覧会紹介：1紙/誌(1回)
- ▼ 情報掲載：11紙/誌(19回)

カタログ

18×17.2cm、36ページ、オリジナル 版画付き、販売価格1,200円  
多色25図  
編集：長門佐季  
協力：柄澤齊  
制作：美術出版デザインセンター  
発行：神奈川県立近代美術館

あいさつ(山梨俊夫)

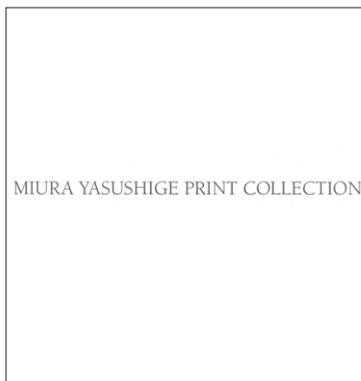
図版

美浦康重コレクション作品リスト

オリジナル版画 柄澤齊《収穫》 2008年、木口木版、17.7×16.7cm、限定1000部



ポスター



カタログ表紙



カタログ付録のオリジナル 版画  
柄澤齊《収穫》

担当学芸員コメント

1970年代後半から約30年にわたって作品の蒐集をされてきた美浦康重氏。コレクションの核となるのは、約140点にのぼる柄澤齊の作品である。2006年に鎌倉館で開催した柄澤齊展が縁でコレクションは当館へ寄贈された。今回の展覧会では、柄澤氏によって特別に木口木版画《収穫》(限定1000部)が制作され、図録の付録とさせていただきます。また、10月5日に行われた美浦氏と柄澤氏のトークでは、柄澤作品との出会いから、蒐集の経緯、阪神淡路大震災で美浦氏が被災した際、版画集『方丈記』が水難を逃れたエピソードなどが語られた。(長門佐季)

636

慈しみのまなざし 関合正明展

SEKIAI Masaaki Paintings

戦前の中国東北地区で黄土坡美術協会の設立に参加し、戦後は檀一雄をはじめとする文学者と交流した、随筆家、俳人としても知られる油彩画家、関合正明(1912-2004)。公立美術館では初の回顧展で、その画業をたどる。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2009年1月4日(日)～3月22日(日)

休館日：祝日を除く月曜日と1月13日(火)、2月12日(木)

開催日数：66日

出品総点数：150点

総観覧者数：4,290人

担当学芸員：水沢勉、三本松倫代

カタログ

21×14.9cm、56ページ、販売価格1,400円

多色16図、単色14図、挿図2図

編集：神奈川県立近代美術館

制作：印象社

発行：神奈川県立近代美術館

あいさつ

一隅を照らす-関合正明のまなざし(水沢勉)

関合さんの思い出(辻惟雄)

関合さんのこと(壇ふみ)

略年譜(編：三本松倫代)、主要参考文献(編：三本松倫代)、出品リスト

謝辞

関連企画

1)ギャラリートーク 1月24日、3月14日

関連記事

▼展覧会紹介：1紙/誌(1回)

▼情報掲載：11紙/誌(20回)



ポスター



カタログ表紙

担当学芸員コメント

関合正明(1912-2004)の美術館では初めての回顧展。1974年以後、北鎌倉に暮らし、画壇とは無縁の孤高の制作姿勢を貫いた。戦前の中国大陸で知り合った小説家・檀一雄との友情に支えられながら、ポルトガルに赴き、多くの風景画の佳品を残した。本展では、知られざる画家の代表作となる、比較的初期から晩年までの油彩58点を中心に、水彩、素描36点、カットなどや多くの装丁本、挿絵などをケース内に展示した。旅人としてのまなざしと、生活者としての視点が、交錯しながら、醸成されていく、香り高い自由な文人精神に、鑑賞者の多くが魅了され、新たなファンが生まれる機会となった。(水沢勉)

2008年度展覧会 会期・観覧者数一覧

	展覧会名	会 期	日数	観 覧 料		観覧者数(人)				他館との 開催協力 など
						有料観 覧者数	無料観 覧者数	うち 高校生 以下	観覧者 数合計	
葉 山 館	百花繚乱の絵画 第1部	(前年度から継続) 4月1日(火)～ 5月18日(日)	41日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	800円 650円 400円	6,128 (6,384)	1,933 (1,995)	545 (577)	8,061 (8,379)	* ( )内は前年度から 通算数
	マティスとボナール	5月31日(土)～ 7月27日(日)	50日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	1,200円 1,050円 600円	16,287	6,808	1,419	23,095	巡回: 川村記念美術館
	秋野不矩展	8月9日(土)～ 10月5日(日)	49日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	900円 750円 450円	17,690	5,355	1,046	23,045	巡回: 京都国立近代美術館 浜松市秋野不矩美術館
	湯原和夫展	10月18日(土)～ 1月25日(日)	80日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	800円 650円 400円	3,479	2,188	491	5,667	
	アジアとヨーロッパの肖像	2月7日(土)～ 3月29日(日)	42日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	1,000円 850円 500円	4,082	3,087	339	7,169	巡回/同時開催: 国立民族学博物館 国立国際美術館 福岡アジア美術館 神奈川県立歴史博物 館
小計		262日			47,666	19,371	3,840	67,037		
鎌 倉 館	百花繚乱の絵画 第2部	(前年度から継続) 4月1日(火)～ 5月18日(日)	41日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	700円 550円 350円	5,763 (6,187)	2,178 (2,219)	1,092 (1,112)	7,941 (8,406)	* ( )内は前年度から 通算数
	あの色/あの音/あの光	5月31日(土)～ 8月31日(日)	80日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	700円 550円 350円	7,565	6,404	4,732	13,969	
	岡村桂三郎展	9月13日(土)～ 11月24日(月・祝)	62日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	700円 550円 350円	5,631	2,731	904	8,362	
	冬の所藏品展示	12月6日(土)～ 2月1日(日)	44日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	700円 550円 350円	2,663	1,446	779	4,109	
	伊庭靖子展	2月14日(土)～ 3月22日(日)	32日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	700円 550円 350円	3,467	1,991	909	5,458	
小計		259日			25,089	14,750	8,416	39,839		
鎌 倉 別 館	百花繚乱の絵画 第3部	(前年度から継続) 4月1日(火)～ 5月18日(日)	41日	一般 20歳未満・学生	250円 150円	3,210 (3,399)	1,168 (1,188)	186 (190)	4,378 (4,587)	* ( )内は前年度から 通算数
	ドランの『パンタグリユエル』 と新収藏品展	5月31日(土)～ 8月31日(日)	80日	一般 20歳未満・学生	250円 150円	2,628	1,726	939	4,354	
	美浦康重版画コレクション展	9月13日(土)～ 12月14日(日)	79日	一般 20歳未満・学生	250円 150円	2,887	1,182	229	4,069	
	関合正明展	1月4日(日)～ 3月22日(日)	66日	一般 20歳未満・学生	250円 150円	2,683	1,607	250	4,290	
小計		266日			11,408	5,683	1,604	17,091		
合 計	14展覧会				84,163	39,804	13,860	123,967		

(注) 高校生以下は無料。なお、「百花繚乱の絵画」展では、3館共通券を発行した。一般1,000円、20歳未満・学生850円、65歳以上500円。

## 教育普及活動

受講・参加プログラム(講演会・ギャラリートーク・ワークショップ等)

事業名	事業内容				参加者数	
	テーマ・内容	講師等	実施日	実施場所		
講演会	「マティスとボナール」展 記念講演	「マティスとボナール 星の友情」	ピカルディ大学教授 レミ・ラブリユス	H20.6.1	葉山館 講堂	59
	「秋野不矩展」記念トーク	「秋野不矩を語る—そのたたかいと創造」	建築家 藤森照信 陶芸家 秋野等(秋野不矩・五男)	H20.9.12	葉山館 講堂	70
アーティスト・トーク	「美浦康重版画コレクション展」 ゲスト・トーク	「美浦康重氏と柄澤齊氏のトーク」	コレクター 美浦康重 版画家 柄澤齊	H20.10.5	鎌倉別館	25
	「岡村桂三郎展」アーティスト・トーク	作家自身による作品解説	日本画家 岡村桂三郎	H20.9.27	鎌倉館	31
				H20.10.19	鎌倉館	52
				H20.11.1	鎌倉館	70
	「湯原和夫展」アーティスト・トーク	作家自身による作品解説	彫刻家 湯原和夫	H20.11.16	葉山館	23
「伊庭靖子展」アーティスト・トーク	作家自身による作品解説	画家 伊庭靖子	H21.2.15	葉山館	70	
演奏会	サウンド・ミュージアム in 葉山 Vol. 1	「クリスタル・クリスマスの夕べ」	牧野持侑、真砂秀朗、Peace-K	H20.12.23	葉山館	113
	サウンド・ミュージアム in 葉山 Vol. 2	「ビスメロ・ニューイヤー・ライブ —古楽・ジャズ・民族音楽の出会い—」	Vis Melodica、藤川正雄	H21.1.25	葉山館	105
ワークショップ	「百花繚乱の絵画」展 ワークショップ	「ちいさなワークショップ・アートの旅に出かけよう」	当館学芸員 山内舞子	H20.4.20午前	葉山館	8
			当館学芸員 山内舞子	H20.4.20午後	葉山館	4
			当館学芸員 平井鉄寛	H20.4.27午前	鎌倉館	7
			当館学芸員 平井鉄寛	H20.4.27午後	鎌倉館	7
			当館学芸員 山内舞子	H20.5.11午前	葉山館	2
			当館学芸員 山内舞子	H20.5.11午後	葉山館	11
	「あの色/あの音/あの光」展 夏の美術館 ワークショップ (材料費・保険代として参加費各 回300円)	「小説家 島田雅彦さんといっしょに 『蓮池を書く』」	小説家 島田雅彦	H20.6.1	鎌倉館	19
		「画家 菊池敏直さんといっしょに 『蓮池を描く』」	画家 菊池敏直	H20.6.7	鎌倉館	21
		「杉並区立科学館館長 渡邊昇さんといっしょに『蓮池を科学する』」	杉並区立科学館館長 渡邊昇	H20.7.20	鎌倉館	19
		「作曲家 片岡祐介さんといっしょに 『蓮池を聴く』」	作曲家 片岡祐介	H20.8.10	鎌倉館	24
「anan編集長 及川卓也さんといっしょに 『蓮池を編集する』」		編集者 及川卓也	H20.8.24	鎌倉館	22	
ギャラリートーク	全館ツアー／ 「百花繚乱の絵画」展ツアー	「館長が案内する美術館全館ツアー 『コレクション』のありかたを探る」	美術評論家 北澤憲昭 当館館長 山梨俊夫	H20.4.5	鎌倉館・鎌倉 別館・葉山館	21
			府中市美術館館長 本江邦夫 当館館長 山梨俊夫	H20.5.3	鎌倉館・鎌倉 別館・葉山館	26
	ギャラリートーク／ 「百花繚乱の絵画」展	当館学芸員による作品解説	学芸員 三本松倫代	H20.4.12	鎌倉別館	4
	ギャラリートーク／ 「百花繚乱の絵画」展		主任学芸員 榎山昌夫	H20.4.19	葉山館	4
	ギャラリートーク／ 「百花繚乱の絵画」展		主任学芸員 是枝開	H20.5.10	葉山館	40
	ギャラリートーク／ 「百花繚乱の絵画」展		専門学芸員 橋秀文	H20.5.17	鎌倉館	19
ギャラリートーク／ 「マティスとボナール」展	普及課長 太田泰人	H20.6.7	葉山館	70		

ギャラリー トーク ／ ツ ア ー	ギャラリートーク／ 「マティスとボナール」展	当館学芸員による作品解説	主任学芸員 長門佐季	H20.6.21	葉山館	50
	ギャラリートーク／ 「マティスとボナール」展		主任学芸員 長門佐季	H20.7.12	葉山館	35
	ギャラリートーク／ 「マティスとボナール」展		普及課長 太田泰人	H20.7.26	葉山館	50
	ギャラリートーク／「ドランの 『パンタグリユエル』と新収蔵品展」		専門学芸員 橋秀文	H20.6.14	鎌倉別館	4
	ギャラリートーク／「ドランの 『パンタグリユエル』と新収蔵品展」		専門学芸員 橋秀文	H20.7.26	鎌倉別館	5
	ギャラリーツアー／ 「あの色／あの音／あの光」展		学芸員 稲庭彩和子	H20.6.14	鎌倉館	13
	ギャラリーツアー／ 「あの色／あの音／あの光」展		主任学芸員 是枝開	H20.7.26	鎌倉館	21
	ギャラリーツアー／ 「あの色／あの音／あの光」展		学芸員 稲庭彩和子	H20.8.2	鎌倉館	2
	ギャラリーツアー／ 「あの色／あの音／あの光」展		学芸員 平井鉄寛	H20.8.16	鎌倉館	20
	ギャラリーツアー／ 「あの色／あの音／あの光」展		主任学芸員 是枝開	H20.8.20	鎌倉館	26
	ギャラリーツアー／ 「あの色／あの音／あの光」展		学芸員 平井鉄寛	H20.8.29	鎌倉館	24
	ギャラリートーク／「秋野不矩展」		専門学芸員 橋秀文	H20.8.23	葉山館	40
	ギャラリートーク／「秋野不矩展」		専門学芸員 橋秀文	H20.9.20	葉山館	40
	ギャラリートーク／「岡村桂三郎展」		専門学芸員 橋秀文	H20.10.4	鎌倉館	15
	ギャラリートーク／「岡村桂三郎展」		専門学芸員 橋秀文	H20.11.15	鎌倉館	15
	ギャラリートーク／ 「美浦康重版画コレクション展」	作家と当館学芸員による作品解説	主任学芸員 長門佐季	H20.9.23	鎌倉別館	6
	ギャラリートーク／ 「美浦康重版画コレクション展」		主任学芸員 長門佐季	H20.11.3	鎌倉別館	9
	ギャラリートーク／ 「美浦康重版画コレクション展」	版画家 柄澤齊 主任学芸員 長門佐季	H20.12.6	鎌倉別館	23	
	ギャラリートーク／「湯原和夫展」	主任学芸員 是枝開	H20.11.2	葉山館	15	
	ギャラリートーク／「湯原和夫展」	主任学芸員 是枝開	H20.12.21	葉山館	6	
	ギャラリートーク／「湯原和夫展」	主任学芸員 是枝開	H21.1.18	葉山館	7	
	ギャラリートーク／ 「冬の所蔵品展示」	主任学芸員 李美那	H20.12.20	鎌倉館	12	
	ギャラリートーク／ 「冬の所蔵品展示」	学芸員 三本松倫代	H21.1.17	鎌倉館	9	
	ギャラリートーク／「関合正明展」	企画課長 水沢勉	H21.1.24	鎌倉別館	30	
	ギャラリートーク／「関合正明展」	企画課長 水沢勉 学芸員 三本松倫代	H21.3.14	鎌倉別館	37	
	ギャラリートーク／ 「アジアとヨーロッパの肖像」展	主任学芸員 初山昌夫	H21.2.11	葉山館	30	
ギャラリートーク／ 「アジアとヨーロッパの肖像」展	主任学芸員 初山昌夫	H21.3.20	葉山館	20		
ギャラリートーク／「伊庭靖子展」	主任学芸員 是枝開	H21.2.21	鎌倉館	15		
ギャラリートーク／「伊庭靖子展」	主任学芸員 是枝開 学芸員 稲庭彩和子	H21.3.7	鎌倉館	70		
ギャラリートーク／「伊庭靖子展」	主任学芸員 是枝開 学芸員 稲庭彩和子	H21.3.14	鎌倉館	35		
ギャラリートーク／「伊庭靖子展」	学芸員 稲庭彩和子	H21.3.21	鎌倉館	35		

県立機関活用講座 (受講料各回1000円)	先生のための美術館ツアー	学習の場としての美術館の活用について	学芸員 山内舞子	H21.1.4	葉山館	30
	「アジアとヨーロッパの肖像」展 開催記念 連続講演会	「人を描く、自分を語る— 『アジアとヨーロッパの肖像』」	国立民族学博物館教授 吉田憲司	H21.2.14	葉山館 講堂	31
		「南蛮屏風にみる異国へのまなざし」	国立歴史民俗博物館准教授 日高薫	H21.2.21	葉山館 講堂	31
		「17世紀オランダの肖像画と『異国』」	青山学院大学教授 高橋達史	H21.2.28	葉山館 講堂	29
		「アジア美術の近代—西洋との出会い」	福岡アジア美術館展示収集係長 ラワンチャイクン寿子	H21.3.7	葉山館 講堂	27
		「現代の肖像 移り変わる時代の表現」	国立国際美術館主任研究官 安來正博	H21.3.14	葉山館 講堂	18

## 研修等受入プログラム(実習・研修・団体観覧等)

### 1) 博物館実習:10名受入

大学での博物館学履修学生を対象に、学芸員資格取得に必要な博物館実習を実施。本年は8大学から10名を受入れ、各人の適性や大学からの履修条件も考慮した上で、学芸員の日常業務から展覧会準備への参加など幅広い内容の実習をした。学生の実習内容充実と指導する学芸員の業務との両立を期すため、書類により選考して受け入れた。

### 2) インターン研修:3名受入

大学院生を対象に、学芸部門と保存修復部門とで実施。あらかじめ各部門に研修希望登録をした学生の中から採用する。本年は学芸部門2名、保存修復部門1名の研修希望登録者があり、3名すべてが採用された。研修者には学芸員または研究員1名が指導者としてつき、専門的業務を行いながら研修を進める。各々160時間以上の研修を行い、修了証を発行した。

### 3) 職場体験:小学校 1校3回3名、中学校 5校延べ15回30名、 高校 2校延べ4回9名 受入

学校のカリキュラムとして行われている職場体験を受入れている。受付・監視・案内、学芸員の日常業務など、美術館での様々な業務を体験する。

### 4) 教員研修:4団体4回100名受入

県内の先生方の初任者研修や、教員研修、鑑賞教育をテーマとした部会の開催などを受入れている。

### 5) 学校等教育機関の団体観覧:

学校教育機関での団体観覧がある場合、できるだけ事前に引率の先生と連絡を取り、必要に応じて、美術館での過ごし方や作品の楽しみ方などについての事前授業を支援するよう努めている。以下は事前申し込みにより把握している受入数。事前申し込みのない団体もあるため、実数はこのデータを上回る。なお、人数は引率者を含める。

保育園 1園13名

小学校 7校延べ31回1,501名

中学校 33校延べ42回1,014名以上

高校 11校延べ17回366名以上

大学 17校延べ19回544名

養護学校等 4校延べ5回63名

教育委員会ほかの教育機関 5団体延べ5回116名

なお、学校教育機関ではないが、各種の福祉施設、障害者施設、児童館など、子どもやお年寄り、障害者などの団体来館もある。

福祉施設等 4カ所延べ6回66名

児童館 1館42名

子育て支援NPO 1団体延べ2回37名

### 6) 出張授業:1中学校1回170名受講

学芸員が学校に出向き、展覧会や美術館の所蔵作品を取り上げて授業を行う。

## 美術館活用推進委員会

この委員会では、葉山町・逗子市・鎌倉市の各教育委員会、教員、大学教授、NPO、在野の美術館活動研究者、当館学芸員など、様々な立場の人間が集って意見交換し、美術館を多面的な形で活用するための議論を深めるプラットフォームづくりを進めている。

委員会発足一年目である2007年度の複数回にわたる議論から、2007年度末に「『Museum Box 宝箱』活用のためのワーキンググループ」(担当委員・小野範子)「高等学校用鑑賞教材開発ワーキンググループ」(担当委員・甲斐秀幸)の二つのワーキンググループ(WG)が立ち上がり、2008年度は本格的な活動が行われた。それぞれ委員の一人が中心となり、委員のほかに現場の教員が参加し、現場の声を取り入れた実践的な活動を拡大してきている。

本年は鎌倉館・葉山館で第5回～7回にあたる3回の会合を持ち、事務局を含め延べ56名が参加した。この他に、WGの会合も随時開催されている。

## 美術図書室

### 1) 資料の収集・整理

- ・蔵書数(システム登録点数 2009年3月末現在) 58,767点
- ・2008年度新規図書・図録登録点数 2,998点
- ・2008年度雑誌登録件数(システムに登録した書誌情報の件数) 2,034件

### 2) 特別コレクション

- ・新規受入 「青木茂氏旧蔵資料」第1次 1,485点
- 従来の「山口蓬春文庫」「矢代幸雄文庫」「仲田定之助文庫」「斎藤義重文庫」に加え、今年度より、青木茂氏が所蔵していた書籍等の受入を開始した。青木茂氏は、1932年生まれ。当館学芸員などを経て町田市立国際版画美術館館長、文星芸術大学教授を歴任。美術を中心に幅広い分野の図書を収集、また「美術家番付」などの資料も多数収集されている。その蔵書を今後数年にわたって受け入れることとなり、2008年度はその第1次分1,485点を受け入れた。今後、目録を作成する予定である。

「山口蓬春文庫」については、冊子体目録の原稿作成を行った。次年度、発行に向けて編集を進める。

### 3) 閲覧サービス

- ・2008年度年間入室者数 6,088名(開館日1日平均23名)
- ・年間複写枚数 1,561枚(開館日1日平均5.9枚)
- ・年間レファレンス受付件数 111件

入室者数は昨年度より1,931人多かった。観覧者数が2万人を超えた「マティスとボナール」「秋野不矩展」では1日平均約40名が入

室された。展覧会観覧者数に対する図書室入室者数の比率は「湯原和夫展」で18%、他は6~9%であった。

今年度よりエントランスホールの図書室入口に、図書室の利用案内と展覧会関連資料展示の案内を掲示した。これも入室者増に結びついたと思われる。

## 美術館紹介・広報 掲載実績

展覧会関連を除く広報掲載実績のうち、紙媒体への掲載は以下の通り。各展覧会の展評・紹介記事等掲載実績は、展覧会活動(pp.6~17)の該当ページを参照。

### 1) 美術館紹介記事

「首都圏の美術館27選」『名画美術館Ⅱ 首都圏編』、JTBパブリッシング、2008年4月、p.114

田中大・笠原美智子・清水敏男・深澤里奈「専門家が語る2008年美術トレンド 美術館の楽しみ方」『日経おとなのOFF』2008年5月号、日経ホーム出版社2008年5月、pp.92-93

堀井和子「私の『美術館を訪ねる旅』/鎌倉の近代美術館は、レトロモダンな建物も好きなんです。」「クロワッサン」2008年7月25日、マガジンハウス、2008年7月、p.63

「美術館を訪ねる旅 神奈川県立近代美術館 葉山」『クロワッサン』2008年7月25日、マガジンハウス、2008年7月、p.90

「日本の美術館・世界の美術館 Best 100 Museums」『Casa BRUTUS』2008年7月号、マガジンハウス、2008年7月、p.142

「樋口たつこのイラスト絵日記」『湘南スタイル』2008年8月号、榎(えい)出版社、2008年8月、p.41

「樋口たつこのさんの、女性ひとりの鎌倉案内」『湘南スタイル』2008年11月号、榎(えい)出版社、2008年11月、p.37

吉田綱市「第11回公共建築賞を終えて 地区審査から/関東『公共建築とはなにか』」『公共建築』Vol.50、No.195、公共建築協会、2008年11月、p.42

「第11回公共建築優秀賞『神奈川県立近代美術館 葉山』」『公共建築』Vol.50、No.195、公共建築協会、2008年11月、p.67

高橋彩「天使のアートな休日1DAY DRIVE [1]」『Car and DRIVER』2009年2-10号、シティパブリケーション(ダイヤモンド社発売)、2009年2月、pp.136-137

山崎洋子「葉山で“黄金色の時”と出会う 神奈川県立近代美術館 葉山」『神奈川新聞』2008年9月19日朝刊、5面

総計：31紙/誌33回

### 2) 普及活動関連の紹介記事

「照明灯」『神奈川新聞』2008年4月8日朝刊、1面(「百花繚乱展 館長が案内する美術館全館ツアー」について)

総計：4紙/誌5回

### 3) 収蔵作品紹介記事

篠田達美「美術のある光景2 松本竣介の青年が立つ街の風景」

『明日の友』2008年初夏号no.174、婦人之友社、2008年6月、pp.6-7  
板倉聖哲「宗達・若冲の眼差し」『別冊太陽：韓国・朝鮮の絵画』2008年11月、pp.78-79

吉名直子「絵画に見るサーカスの世界」『東京ドーム・ニクーリンサーカス』、東京ドーム、2009年1月

浅野智子「1910年代から30年代の都市風景画の展開について」『藝叢 筑波大学芸術学研究誌』2008年Vol.25、筑波大学大学院芸術学研究室、2009年3月、p.26

「月めぐり」『湘南物語』2009年1月号、湘南未来社、2009年1月、巻頭

総計：11紙/誌12回

### 4) 前年度の展覧会記事

堀井和子「パリのエスプリ 佐伯祐三と佐野繁次郎展」『みてまわる日々』幻冬舎、2008年10月、pp.27-31

堀井和子「建築と暮らしの手作りモダン アントニン&ノエミ・レーモンド展」『みてまわる日々』幻冬舎、2008年10月、pp.119-130

「展評」『アートペーパー』no.78 2008年夏、名古屋市美術館、2008年7月、最終面

総計：4紙/誌4回

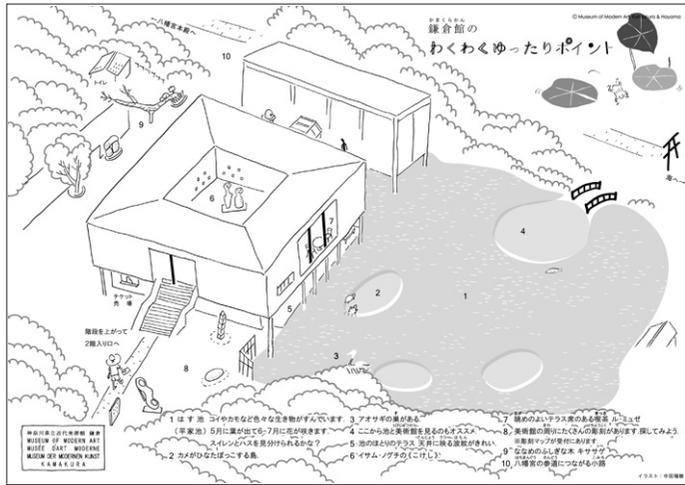
### 5) 次年度の展覧会記事

「特別インタビュー：内藤礼」『ART iT』Spring 2009 No.23、アートイト、2009年3月、pp.40-47

総計：8紙/誌8回

### 6) ショップ・レストラン紹介記事

8紙/誌9回



1  
鎌倉館のわくわくゆったりポイント

発行：神奈川県立近代美術館  
イラスト：中田瑞穂  
A4表面のみ、カラー出力  
「わくわくゆったりセット」の一部として、またワークショップ等で無料配布



2  
たいせつな風景10号

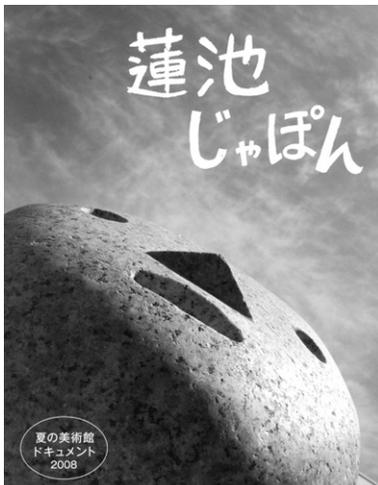
編集・発行：神奈川県立近代美術館  
デザイン：桑畑吉伸  
制作：コギト  
21×14.8cm、24ページ、無料配布、  
多色1図、単色12図  
2008年9月30日発行

図版 鳥海青児《僕の家(飯倉の家)》  
セザンヌの家—二枚の《首吊りの家》(林道郎)  
家の住所の記憶(千石英世)  
心に風景を持って生きる(小松義夫)  
風子の家(柏木博)  
[想い出の展覧会]俗事ばかり(夏目十郎)  
表紙作品解説 麻生三郎《国東 倉》(橋秀文)  
図版 斎藤義重《浦安》



3  
2009年度展覧会スケジュール

編集・発行：神奈川県立近代美術館  
制作：シュトゥック  
22.2×10cm、三つ折り1回二つ折り1回1枚、無料配布、多色23図  
2009年2月27日発行  
三館展覧会スケジュール  
利用案内、地図

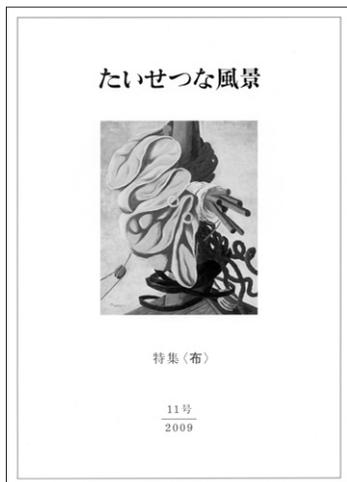


4

夏の美術館ドキュメント  
2008『蓮池じゃぼん』

発行：神奈川県立近代美術館  
編集・文：是枝開、稲庭彩和子  
写真撮影：加藤健 ほか  
制作：サンレオール 竹村真由子  
23.9×18.2cm、32ページ、無料配布、  
多色61図、単色22図  
2009年3月30日発行

蓮池に浮かぶ美術館で  
蓮池ワークショップ全5回  
蓮池を書く／蓮池を描く／蓮池を科学する  
／蓮池を聴く／蓮池を編集する  
美術館ワークショップの魅力  
「はくらの美術館」が生まれる時  
夏の美術館「あの色／あの音／あの光」  
お父さんの書斎と美術館

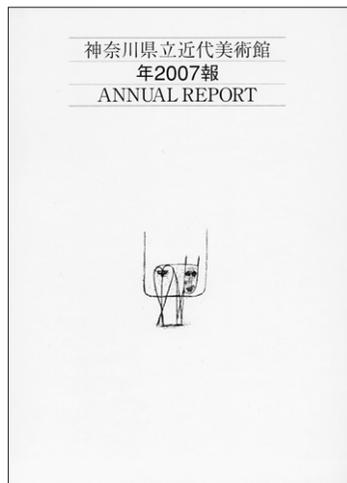


5

たいせつな風景11号

編集・発行：神奈川県立近代美術館  
制作：美術出版社  
21×14.8cm、16ページ、無料配布、  
多色1図、単色11図  
2009年3月31日発行

図版 中川一政《静物(ビン・白布)》  
布に思うこと(志村ふくみ)  
画布にまつわる話いろいろ(歌田真介)  
布と共に(皆川明)  
布との出会い(早川重章)  
図版 早川重章《放浪者》  
表紙作品解説 吉原治良《帆柱》(水沢勉)  
図版 吉原治良《作品》《作品(黒地に白四角)》  
図版 佐野繁次郎《赤い十字架》



6

2007年度年報

編集・発行：神奈川県立近代美術館  
製作：求龍堂  
25.7×18.2cm、64ページ、無料配布  
2009年3月31日発行

あいさつ  
展覧会活動  
教育普及活動  
作品蒐集管理活動  
調査研究活動  
運営・管理報告

## 2008年度の教育普及活動を振り返って

稲庭彩和子

今年度は葉山館が開館して5周年を迎えたが、鎌倉、葉山ともにギャラリー・トーク、講演会、ワークショップ、コンサート、学校との連携事業などさまざまな教育普及活動が行われた。活動の一覧はpp.19～21にまとめられている。ここでは、2008年度の特徴ある活動について取り上げ、簡単に報告したい。



松本竣介《立てる像》の前で語る本江邦夫氏

### ●コレクションを語る、知る—当館館長と巡る美術館全館ツアー

2008年3月29日から5月18日の会期で、葉山館開館5周年を記念した「百花繚乱の絵画」展が葉山館、鎌倉館、鎌倉別館の3つの会場で開催された。所蔵品の絵画422点を展示し、開館以来56年にわたるコレクション蒐集活動を振り返る企画であった。その3つの会場を当館館長と巡る「館長が案内する美術館全館ツアー『コレクション』のあり方を探る」が行われた。展示会場で絵を前にして話すギャラリートークは、通常は展示会担当の学芸員が行うが、この企画では当館に現在最も長く勤務し、コレクション蒐集活動にも長く関わってきた館長の山梨俊夫と、館長と親しい美術史家が絵の前で対話をする形で行われた。第1回目は北澤憲昭氏(美術評論家)、第2回目は本江邦夫氏(府中市美術館館長)を迎え、3つの館を朝から夕方までハシゴしながら、422点を一緒に見て行く。いわば鑑賞のマラソンだ。語る側はもとより、聞く方も体力・気力・知力が要請される。この破格な企画に対して広報段階でプレスからの問い合わせも多く、当日は各館20～30名の参加者が、展示室で作品を前にして両者の言葉に耳を傾けた。コレクションは美術館の要。まさに「ギャラリートークのフルコース」という感のある充実した濃いプログラムであった。



鎌倉館のテラスで蓮池を描く子どもたち

### ●美術館を風景と共に楽しむ—子どもも大人も一緒に

八幡宮境内の平家池に建つ鎌倉館では、7月頃になると蓮池に花が咲き始める。美術館のテラスに座ると、気持ちのいい風景が広がっている。そんな美しい季節には、展示会も外の風景と館内の展示が呼応して、外と中の一体感が生まれるようなものになると、美術館をまるごと楽しめるのではないだろうか。そんなことを考え、子どもから大人までが楽しめることを意図した展示会、夏の美術館「あの色/あの音/あの光」が開催された。通常の展示会に比べ、より教育普及的な要素を意識した展示会である。約1万点のコレクションの中から、色、音、光、そして外の風景と呼応する水をテーマに作品を選び、さらに外部より数点の作品を借用して69点で構成した。展示会に際して、地元鎌倉の小学生(横浜国立大学附属鎌倉小学校)が絵を鑑賞してつぶやいた言葉から生まれた「鑑賞ポケット絵本あの色/あの音/あの光」を制作し、子どもの柔らかな視点が大人たちにも新たな視点となるようなきっかけとした(無料配布 p.11参照)。

また、学校教育において鑑賞教育や美術館との連携に関心が高まっていることに対応し、先生方に子どもたちの鑑賞の様子を知ってもらうことを目的に、この展示会期間中、学校教員は観覧料が免除される設定を作り、教育委員会から通知をした。昨年度と同様「わくわくゆったりセット」もこの展示会会期中に18歳以下の入館者に配布している。

展示会期間中に、蓮池をテーマにした5回のワークショップも行ったが、詳しくは別に発行された「夏の美術館ドキュメント 2008『蓮池じゃぼん』(2009年3月末発行 p.25参照)を参照していただきたい(『鑑賞ポケット絵本』の制作につながった学校との連携活動についてもこちらを参照のこと)。

### ●講演会の醍醐味—語られる言葉によって開かれる世界

「秋野不矩展」の開催を記念して、浜松市秋野不矩美術館を設計した建築家藤森照信氏と、秋野不矩のご子息である秋野等氏らを迎え、記念トーク「秋野不矩を語る—そのたかいた創造」が行われた。申し込みの締め切りは9月12日であったが、展示会が始まっ

た8月9日から間もなく応募人数が満席(70席)に達するなど、広報の段階から非常に高い反響を得た。当日は葉山館講堂にて等氏が用意をした53枚のスライドが次々と映される中、秋野不矩のエネルギー溢れる生涯が語られ、さらに小池一子氏(クリエイティブ・ディレクター)、宇野亜喜良氏(グラフィック・デザイナー)、宇佐美圭司氏(画家)など、秋野不矩と親交の深かった方々がこの講演会の場に加わり、生き生きとした秋野不矩像が各人の体験から語られたことが印象深かった。

こうした講演会の際に、改めて作家や作品世界への理解が深まり、時にはその場で新たな解釈が生まれることもあるが、耳を傾けた来場者はその体験が新鮮なうちに、また展覧会場で作品を前に時間を持つことができる。それが美術館内で行われる講演会の醍醐味でもある。そのため、当館で行われるこうした講演会は、講演会後にも展覧会を見ることができる時間で終わるように設定することが多い。2008年度にはこのほか、「マティスとボナール」展では海外よりレミ・ラブリュス氏(ピカルティ大学教授)を迎え、「アジアとヨーロッパの肖像」展では、関連分野から5人の専門家を迎え講演会を行った。熱を持って語られる言葉によって作品との出会いが開かれていくということが実感できる貴重な場であった。



12月23日(火)祝日  
開演19:00 / 開場18:30  
料金: 全席自由 / 1000円(税込) / 500円(税込)  
会場: 神奈川県立近代美術館 葉山  
主催: 神奈川県立近代美術館  
企画: アーツ・センター  
後援: 葉山町、葉山町教育委員会、  
葉山町文化振興会、葉山町文化  
振興会、アーツ・センター、  
アート・センター  
企画制作: 岩神六平事務所

「サウンドミュージアム in HAYAMA Vol.1 クリスタル・クリスマスの夕べ」  
12月23日(火)祝日  
開演19:00 / 開場18:30  
料金: 全席自由 / 1000円(税込) / 500円(税込)  
会場: 神奈川県立近代美術館 葉山  
主催: 神奈川県立近代美術館  
企画: アーツ・センター  
後援: 葉山町、葉山町教育委員会、  
葉山町文化振興会、葉山町文化  
振興会、アーツ・センター、  
アート・センター  
企画制作: 岩神六平事務所

●音のある美術館一旅をしたような気分

冬の美術館の展示室で2つのコンサートが行われた。サウンド・ミュージアム in 葉山とシリーズ名のついたコンサートの第1回目は12月23日の祝日。「クリスタル・クリスマスの夕べ」と題され、美術館の白い展示室に、珍しい3つの楽器、クリスタルボウル、ネイティヴ・フルート、hangの音が響いた。出演は、牧野持侑(アルケミー・クリスタルボウル)、真砂秀朗(ネイティヴ・フルート)、Peace-K(hang)。会場は「湯原和夫展」が行われている展示室であったが、神秘的で透명한音が、作品と相まって新たな体験空間が生まれていた。「だんだんと引き込まれて、まるで旅をしているみたいな気分になった」とは参加者のアンケートの言葉。第2回目は「ビスメロ・ニューイヤー・ライブ〜古楽・ジャズ・民族音楽の出会い〜」と題して1月25日に行われた。出演は、葉山の音楽シーンを網羅したCD「海音・山音」から、辻康介率いるVisMelodica(ビスメロ/辻康介Vocal、福島久雄Guitar、近藤治夫Bagpipe、鈴木広志Sax、立岩潤三Perc.)と、やはり葉山の音楽シーンを語るに欠かせないスタジオ わーぶ藤川正雄がSaxで登場。このコンサートは神奈川県立近代美術館とアヴェニールはやまが協力して行った。企画・制作は岩神六平事務所が行っている。どちらのコンサートも広報期間が短かったものの、入場者は予想以上の人数となり(vol.1は113名、vol.2は105名)アンケートには美術館でのコンサートをまたぜひ開催してほしいという声が多く寄せられた。



1月25日(日)  
開演19:00 / 開場18:30  
料金: 全席自由 / 1000円(税込) / 500円(税込)  
会場: 神奈川県立近代美術館 葉山  
主催: 神奈川県立近代美術館  
企画: アーツ・センター  
後援: 葉山町、葉山町教育委員会、  
葉山町文化振興会、葉山町文化  
振興会、アーツ・センター、  
アート・センター  
企画制作: 岩神六平事務所

「サウンドミュージアム in HAYAMA Vol.2 古楽・ジャズ・民族音楽の出会い」  
1月25日(日)  
開演19:00 / 開場18:30  
料金: 全席自由 / 1000円(税込) / 500円(税込)  
会場: 神奈川県立近代美術館 葉山  
主催: 神奈川県立近代美術館  
企画: アーツ・センター  
後援: 葉山町、葉山町教育委員会、  
葉山町文化振興会、葉山町文化  
振興会、アーツ・センター、  
アート・センター  
企画制作: 岩神六平事務所

●美術館活用推進委員会一学校現場の先生への広がり

鎌倉市、逗子市、葉山町の教育委員会の方々と神奈川県教育委員会、そして有識者4名と当館の館長、普及課長がともに、今後の美術館の教育的活動について語り合う、美術館活用推進委員会(p.22参照)。委員会の2年目は具体的な活動が増え、なかでも学校現場との連携が具体的に変わった大きな一歩であった。3年目はその成果を報告できるよう、着実に活動を進めていきたいと考えている。2008年度委員は次のとおり(敬称略 順不同)。  
岩崎清(当委員会委員長、元子どもの城学芸部長)、木下直之(東京大学教授 文化資源学)、松尾子水樹(NPO法人STスポット横浜)、小山紳一郎(かながわ国際交流財団)、高木孝之・磯部久仁子(鎌倉市教育委員会)、服部純子・高館正明(逗子市教育委員会)、富樫俊夫・倉内大史(葉山町教育委員会)、島田圭(県教育委員会 生涯学習文化財課)、松岡潤治(同 企画調整課)、小野範子(同 子ども教育支援課)、甲斐秀幸(同 高校教育課)、山梨俊夫(当館館長)、太田泰人(当館普及課長)

サウンド・ミュージアム in 葉山 vol.1, 2のちらし表面

## 作品蒐集管理活動

### 購入・寄贈状況

前年度末の総点数	10,141点
2008(平成20)年度の購入点数	7点
2008(平成20)年度の寄贈点数	635点
2008(平成20)年度の取得総点数	642点
2008(平成20)年度末の収蔵総点数	10,783点

### 寄託状況 2009(平成21)年3月31日現在

2007(平成19)年度からの更新分	59件	作品点数	229点
2008(平成20)年度の新規受入分	4件※	作品点数	4点 ※4件の内2件は既寄託者
2008(平成20)年度合計	61件	作品点数	233点

### 2008年度 新収蔵作品一覧

【凡例1】寸法について、原則として平面作品は縦×横の順に、立体作品は高さ×幅×奥行の順に記した。単位はcm(センチメートル)である。但し、版画については、イメージ寸法の縦 / 支持体寸法の縦×イメージ寸法の横 / 支持体寸法の横の順に「/」で区切って記した。  
【凡例2】署名年記は、書き込みの位置を示して記した。印、落款は「[ ]」で記した。文字が判別できない場合は「□」で補い、書き込みが無い場合は「-」で記した。

### 購入

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	署名年記	備考
<b>油彩画・アクリル画など</b>						
伊庭靖子	untitled	2009	油絵具、カンヴァス	160.0×160.0	-	
関合正明	ベニシ風景	1970年代	油絵具、カンヴァス	38.2×45.6	右下:sekiai	
<b>日本画</b>						
岡村桂三郎	碧象図05-1	2005	岩絵具、板	215.0×480.0×9.0	-	
<b>彫刻・インスタレーション</b>						
湯原和夫	作品 No.1-04	2004	大理石、シリコン	35.0×35.0×35.0	-	
<b>版画</b>						
鷹山宇一	静物	1931頃	多色木版、紙	59.2×45.0	左下:U.A(TKYM)	
<b>神奈川県近代美術館賞</b>						
大久保宏美	グリーンマスター	2008	油絵具、カンヴァス	162.0×130.3	右下:□	第48回神奈川県 女流美術家協会展
杉本聡子	自画像:TETTA	2008	油絵具、パネル	160.0×80.0	-	第44回 神奈川県美術展

### 寄贈

#### 〈麻生美智子氏寄贈〉

#### 油彩画・アクリル画など

シャーン, ベン	河船(デザイン・9)	1939	テンペラ、紙	13.9×39.4	右下:Ben Shahn
シャーン, ベン	移民(デザイン・8)	1939	テンペラ、紙	13.9×39.4	中下:Ben Shahn
シャーン, ベン	松葉杖の女	1940-42	テンペラ、紙	22.2×39.4	-
シャーン, ベン	ピーターと狼	1944	テンペラ、紙	30.5×39.4	右下:Ben Shahn

#### 彫刻・インスタレーション

バルダッチーニ, セザール	アニマル	1956	ブロンズ	39.5×37.5×47.5	左後足:César EA
---------------	------	------	------	----------------	--------------

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	署名年記	備考
バルダッチーニ, セザール	アルマンディーヌ	1958	ブロンズ	72.5×36.5×41.0	台座:César EA	
バルダッチーニ, セザール	ブリジッド	1964, cast 1980	ブロンズ	120.5×45.5×52.5	台座:Bocquel Fondeur 5/8	
<b>素描・水彩画など</b>						
ヴァンジ, ジュリアーノ	人間と環境	1971	水彩絵具、紙	97.5×70.0	右下:1971 Vange	
シャーン, ベン	砂あらし	1935	グアッシュ、紙	39.5×32.5	右下:Ben Shahn	
シャーン, ベン	ワルシャワ	1952	グアッシュ、紙	91.4×61.4	右下:Ben Shahn	
シャーン, ベン	花を持つ男	1956	水彩絵具、紙	100.0×66.0	右下:Ben Shahn	
シャーン, ベン	不屈の精神// [自筆の詩篇とデッサン]	1964	水彩絵具、紙	19.0×32.0	-	
ジャコメッティ, アルベルト	4つの頭部	不詳	ペン、インク、紙	23.7×29.0	-	
ロダン, オーギュスト	ウゴリーノ	不詳	水彩絵具、紙	30.7×23.8	右下:A Rodin	
<b>版画</b>						
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 扉-1	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	初版35/200 Atelier Mourlot, NY.刊
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 扉-2	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	-	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (1)多くの都市を	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (2)多くの人を	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (3)多くの事物を	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (4)禽獣を知らねばならない	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (5)飛ぶ鳥の姿	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (6)小さな草花のたたずまい	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (7)まだ知らぬ国々の道を	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (8)思いがけない邂逅	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (9)遠くから近づいてくるのが 見える別離	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (10)少年の日の思い出	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (11)心を悲しませてしまった両親を	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (12)少年時代の病気を	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (13)静かなしんとした部屋	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (14)海辺の朝	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (15)海そのものの姿	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (16)星屑とともに消え去った旅 寝の夜々	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (17)愛に満ちた多くの夜の 回想	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (18)産婦の叫び	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (19)白衣のなかに眠りに落ちて て恢復を待つ産後の女	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (20)死んでゆく人々の枕元	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (21)死者の傍らで	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下:Ben Shahn	同上

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	署名年記	備考
シャーン, ベン	版画集:リルケ「マルテの手記」 (22)一篇の詩の最初の言葉	1968	リトグラフ、紙	45.3×57.3	右下: Ben Shahn	初版35/200 Atelier Mourlot, NY.刊
ジャコメッティ, アルベルト	動く物体	1931	リトグラフ、紙	32.9×50.5	左下:11/30 右下: Alberto Giacometti	
ジャコメッティ, アルベルト	二つのバケツがあるアトリエ	1955	エッチング、紙	26.4/49.7×21.2/37.9	左下: Epreuve d'essai 右下: Alberto Giacometti,	
ジャコメッティ, アルベルト	横向きの裸婦	1955	エッチング、紙	30.8/50.5×5.8/22.1	下: Bon a tirer Alberto Giacometti	
ジャコメッティ, アルベルト	前向きの裸婦	1955	エッチング、紙	24.8/-×6.9/-	下: 45/50 Aleberto Giacometti	
ジャコメッティ, アルベルト	前向きのアネット	1955	エッチング、紙	20.9/43.3×5.8/21.7	下: 28/50 Alberto Giacometti	
ジャコメッティ, アルベルト	立つ人	1957	リトグラフ、紙	41.0×28.2	左下: 80/100 右下: Alberto Giacometti	
ジャコメッティ, アルベルト	三つの石膏像	1959	エッチング、紙	16.4/27.8×11.4/20.1	左下: 85/100 右下: Alberto Giacometti	
ジャコメッティ, アルベルト	シャンデリア	1959	リトグラフ、紙	66.0×50.5	左下: Epreuve d'essai 右下: Alberto Giacometti	
ジャコメッティ, アルベルト	立つ裸婦	1961	リトグラフ、紙	76.6×56.2	左下: 50/70 右下: Alberto Giacometti	
ディックス, オットー	Nelly II	1923-24	エッチング、紙	19.5/47.7×13.8/36.2	左下: 13/70 Nelly II 126 右下: Dix	
ディックス, オットー	壟壕の前の鉄条網	1924	エッチング、アクアチント、紙	25.5/43.9×19.1/34.5	左下: 48/70 中下: X 右下: Dix	
日本画						
不明	鬼の念仏〔大津絵〕	江戸時代	墨、顔料、紙	51.7×23.7	-	
不明	鬼の念仏〔大津絵〕	江戸時代	墨、顔料、紙	60.0×23.6	-	
不明	鬼の念仏〔大津絵〕	江戸時代	墨、顔料、紙	61.3×23.0	-	
不明	青面金剛〔大津絵〕	江戸時代	墨、顔料、紙	34.0×17.9	-	
〈伊庭靖子氏寄贈〉						
油彩画・アクリル画など						
伊庭靖子	untitled	2009	油絵具、カンヴァス	90.0×110.0	-	
〈奥田真理氏寄贈〉						
版画						
高橋力雄	Mt. Fuji Time 25	1991	木版(多色刷)、 エンボス、紙	33.0/41.7×24.2/30.6	左下: '91 132/136 右下: Rikio. Takahashi	
高橋力雄	大地	1998	木版(多色刷)、紙	36.5/44.7×36.8/42.0	左下: '98 13/30 中下: 大地 右下: Rikio Takahashi	
〈郭徳俊氏寄贈〉						
版画						
郭徳俊	フォードと郭(A)	1974	シルクスクリーン、 エンボス、紙	46.2/61.3×33.4/87.6	左下: 87/100 右下: Duck Jun Kwak	
〈片岡球子氏寄贈〉						
日本画						
片岡球子	海(小田原海岸)	1959	紙本着彩	147.5×193.5	-	
片岡球子	海(真鶴の海)	1959	紙本着彩	147.5×193.5	左下: 印[球子]	
片岡球子	よこたわる裸婦 A	1992	紙本着彩	71.5×90.0	左下: 印[球子]	
片岡球子	よこたわる裸婦 B	1992	紙本着彩	71.5×90.0	右下: 印[球子]	
その他						
片岡球子	印章(1)			7.5×1.4×1.4	-	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	署名年記	備考
片岡球子	印章(2-1)			7.3×2.0×2.0	-	
片岡球子	印章(2-2)			7.5×2.0×2.0	-	
片岡球子	印章(3)			4.0×2.6×2.5	-	
片岡球子	印章(4)			7.3×2.1×2.0	-	
片岡球子	印章(5)			8.0×2.2×2.2	-	

〈片岡雅子氏寄贈〉

日本画

片岡球子	面構 狂言作者河竹黙阿弥・ 浮世絵師三代豊国	1983	紙本着彩	197.0×455.0	左下:印[片岡球子]	
------	---------------------------	------	------	-------------	------------	--

〈北川原京子氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

ドラ、アンドレ	女の頭部	1930年代	油絵具、カンヴァス	42.7×34.5	右下:A Derain	
ドラ、アンドレ	婦人像	1930年代	油絵具、カンヴァス	44.5×38.2	右下:Derain	
ビュフェ、 ベルナール	百合のある静物	1955	油絵具、カンヴァス	100.4×81.4	中上:Bernard Buffet 55	
ボーシャン、 アンドレ	かわうそのいる風景	1926	油絵具、カンヴァス	46.2×61.1	右下:A Bauchant 1926	
ラブラード、 ビエール	教会	不詳	油絵具、板に紙ボード	50.3×65.2	右下:Luprado	
ラブラード、 ビエール	アルカンと若い娘	不詳	油絵具、カンヴァス	121.9×65.1	右下:Luprado	
青山熊治	牛	1929	油絵具、カンヴァス	25.4×30.0	-	
朝井閑右衛門	バラ	1970年代	油絵具、カンヴァス	44.2×33.5	右下:CanEémon	
糸園和三郎	雨の沼	不詳	油絵具、カンヴァス	41.5×53.4	左下:Itozono	
糸園和三郎	かたつむり	不詳	ガラス絵	33.4×24.3	右下:Itoz	
猪熊弦一郎	婦人像	1937頃	油絵具、板	45.4×38.3	左下:guen	
瑛九	花瓶	1940年 代後半- 1950年 代前半	油絵具、カンヴァス	27.8×27.9	-	
海老原喜之助	川辺にて	1962	油絵具、カンヴァス	38.2×45.2	左上:Ebihara	
北川民次	蘭のもり花	1931	油絵具、カンヴァス	37.7×45.4	左下:Tamiji	
北川民次	野外三人女	1968	ガラス絵	11.9×16.4	左下:Tamiji	
菅野圭介	雪山	1950年 代後半	油絵具、カンヴァスボード	24.3×33.2	右下:K. Sugano	
杉本健吉	路傍B 壺売(印度)	1962	油絵具、カンヴァス	55.5×43.7	左下:印[杉本] Sugimoto,	
杉本健吉	京の街下河原	不詳	油絵具、カンヴァス	40.3×53.6	左下:Kenk, Sugimoto	
曾宮一念	シャルトルの石崖	1967	油絵具、カンヴァス	40.9×53.5	左下:ITINENS	
曾宮一念	山腹 南アルプス入笠山	不詳	油絵具、カンヴァス	31.5×40.4	右下:そ	
鳥海青児	修理のある家 沖縄風景	1959頃	油絵具、カンヴァス	45.9×53.2	左下:cyokai	
都鳥英喜	風景	不詳	油絵具、板	21.0×27.0	右下:E.ToDori	
難波田龍起	作品	不詳	油絵具、カンヴァス	15.5×22.7	左下:Nambata	
野口謙蔵	五月の村落	1935	油絵具、板	23.8×33.2	右下:野謙	
野口謙蔵	日輪	1943	油絵具、板	23.9×33.0	左下:野謙	
野口謙蔵	風景	1943	油絵具、板	31.6×41.0	左下:謙	
長谷川利行	静物(百合)	1935	グアッシュ、ボール紙	27.2×18.6	右下:T. H 1935	
長谷川利行	裸婦 臥す女	1937?	油絵具、カンヴァス	32.7×41.0	右下:ハセガワトシユキ/12	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	署名年記	備考
長谷川利行	新宿風景	不詳	油絵具、カンヴァスボード	21.2×27.0	左上:T. HASEGAWA	
長谷川利行	裸婦	不詳	ガラス絵	13.2×8.5	左上:TH.	
福井良之助	雪景色	1972頃	油絵具、カンヴァス	33.3×53.0	右下:F	
牧野虎雄	由布院の春	1929	油絵具、板にカンヴァス	32.4×41.1	左下:1929 □	
牧野虎雄	裸婦	1931	油絵具、板	16.2×11.8	左下:□ 昭六	
三岸節子	夕焼	1969	油絵具、カンヴァス	24.0×33.8	右下:S. Migishi	
森芳雄	女	不詳	油絵具、カンヴァス	60.8×72.5	右下:y. mori	
山口薫	鳶の屏とらくがきの牛	1964	油絵具、板にカンヴァス	45.0×52.5	左下:Kaoru yamagouti	
四谷十三雄	コンポジション	不詳	油絵具、カンヴァス	100.0×80.9	-	
脇田和	六つの顔	不詳	アクリル、紙	26.2×28.2	右下:Kzu	
脇田和	女と鳥	不詳	油絵具、コラーージュ、カンヴァス	72.3×60.7	中下:Kzu	
<b>素描・水彩画など</b>						
グロス、ジョージ	カクテル・パーティー	1925	水彩絵具、紙	60.4×46.4	左下:à mes amis Jaques et Yvonne Jadone cordialement George Groz Paris 20 okt 25 右下:Groz	
パスキン、ジュール	ソファに腰掛ける少女達	1923頃	鉛筆、紙	43.7×35.5	右下:pascin	
今西中通	静物	1942	鉛筆、水彩絵具、紙	12.0/18.1×9.7/15.3	右下:CHUTSU.	
梅原龍三郎	裸婦	不詳	水彩絵具、板に紙	24.9×19.9	左下:龍	
梅原龍三郎	裸婦	不詳	木炭、紙	44.8×32.2	左下:印[龍]	
瑛九	人物	1950年代	水彩絵具、ボード	25.7×22.1	-	
大沢昌助	熱海	不詳	水彩絵具、紙	30.1×42.2	右:S. osawa	
小出楯重	裸婦(立てる)	不詳	ペン、インク、紙	9.1×7.4	右下:印[楯]	
小出楯重	裸婦(横たわる)	不詳	ペン、インク、紙	13.0×18.8	右下:印[楯]	
児島善三郎	裸婦//裸婦	1925-28	木炭、紙	27.8×21.4	右下:Z.Z.K//右上:35	
古茂田守介	後ろむきの裸婦	不詳	鉛筆、紙	30.4×24.0	左下:印[Como]	
古茂田守介	裸婦	不詳	ペン、インク、鉛筆、紙	25.2×16.7	-	
古茂田守介	裸婦	不詳	ペン、インク、紙	24.3×34.5	右下:印[守介]	
佐分眞	手すりにもたれる女//座る女	1927-32	鉛筆、紙	15.1×20.7	中:N. Kaschevery	
清宮質文	近づく悲しみ	1975	水彩絵具、紙	14.9×11.5	左下:N. Seimiya/5 july 75	
高島達四郎	笹良ヶ台(熱海)	不詳	水彩絵具、紙	27.0×35.6	中下:TakabataKE	
高島達四郎	梅園	不詳	水彩絵具、鉛筆、紙	29.8×37.5	右下:Takabatake	
高島達四郎	富士山	不詳	水彩絵具、紙	33.8×33.2	右下:印	
野口彌太郎	風景	不詳	水彩絵具、紙	28.0×39.3	左下:y. Noguchi	
長谷川利行	男の顔	1930	鉛筆、紙	18.1×10.9	左下:T. H. 1930	
長谷川利行	少女	不詳	水彩絵具、紙	13.8×9.0	右上:TH.	
長谷川利行	清洲橋	不詳	パステル、紙	11.5×17.7	-	
長谷川路可	奈良春日神社にて	不詳	水彩絵具、紙	15.7×21.4	右下:Loka.	
牧野虎雄	子供	不詳	木炭、水彩絵具、紙	62.0×47.7	左下:印	
松田正平	裸婦	1993	鉛筆、紙	33.7×24.7	右下:正平/1993.4/15	
三宅克己	風景	1919	水彩絵具、紙	13.7×35.8	左:大正八年二月九日 右:印[三宅克己]	
山口長男	二人	不詳	墨、紙	38.2×27.1	右下:印[長]	
<b>版画</b>						
マリニ、マリノ	歌 I	不詳	エッチング、ドライポイント、紙	48.5/75.9×63.5/98.6	左下:PA 右下:MARINO	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	署名年記	備考
〈栗田政裕氏寄贈〉						
書籍・スケッチブック						
栗田政裕	『イマジオ&ポエティカ』第30号	2008	木口木版、紙	15.2/22.1; 7.0/11.1× 10.4/17.5; 8.9/14.4	中下:36/99 mas. Kurita 中下:6/99 花宴 mas. kurita	木口木版2点 《〈アトリエ幻視〉 《花宴》》
〈古田島秀輔氏寄贈〉						
油彩画・アクリル画など						
関合正明	無題(北支風景)	1950年代	油絵具、カンヴァス	53.0×65.1	左下:SeKiai	
〈勝呂忠氏寄贈〉						
油彩画・アクリル画など						
勝呂忠	教会	1951	油絵具、カンヴァス	41.0×53.0	左上:-509 SUGURO	
勝呂忠	六人(夜)	1953	油絵具、カンヴァス	61.0×90.4	左上:53. 1. SUGRO	
勝呂忠	昇天	1959	油絵具、カンヴァス	131.3×162.3	右下:-59 T. SUGURO	
勝呂忠	ひろがり(B)	1962	油絵具、カンヴァス	139.3×99.2	-	
勝呂忠	地中海にて	1981	油絵具、カンヴァス	130.3×162.0	右下:T. SUGURO	
〈関合正明氏寄贈〉						
油彩画・アクリル画など						
関合正明	穎介像	1952	油絵具、板	21.4×15.4	左下:Sekiai	
関合正明	真佐子像	1952	油絵具、板	21.1×15.0	右下:Sekiai	
関合正明	御宿風景	1955	油絵具、カンヴァス	51.5×64.0	右下:55 Sekiai	
関合正明	童女像	1976	油絵具、カンヴァス	22.7×16.6	-	
関合正明	ポルトガル漁港	1970年代	油絵具、カンヴァス	45.7×37.7	左下:Sekiai	
関合正明	モンマルトル街	1981-82 頃	油絵具、カンヴァス	53.0×45.7	右下:Sekiai	
関合正明	奥能登	1989頃	油絵具、カンヴァス	41.0×32.0	左下:Sekiai	
関合正明	山百合	不詳	油絵具、カンヴァス	18.0×14.5	-	
素描・水彩画など						
関合正明	父の像	1970	鉛筆、紙	30.9×24.9	下:1970 10/20 Sekiai 右:関合茂太郎行年八十三才 正明写. 左:昭和四十五年十月二十日二十一時四十五分 永眠ス	
関合正明	オ・ラバン・アジル	1981-82 頃	鉛筆、オイルパステル、 水彩絵具、紙	14.7×20.8	右下:Cékiai	
関合正明	ラ・メゾン・ロゼ	1981-82 頃	インク、鉛筆、オイルパステル、 水彩絵具、紙	23.5×19.0	左下:Sekiai	
関合正明	オヴェール	1982	鉛筆、紙	26.3×20.7	左下:Sekiai 右下:1982. 11. AUVERS	
関合正明	オヴェール、ドービニー銅像	1982	鉛筆、紙	33.1×21.7	右下:1982.11 AUVERS DAUBIGNY-BRONZE Sekiai	
関合正明	オヴェール	1982	鉛筆、紙	21.4×29.7	右下:Sekiai 1982.11 AUVERS	
関合正明	ドービニー銅像、オヴェール	1982	鉛筆、オイルパステル、紙	21.6×16.5	下:1982.11AUVERS Daubigny 銅像 Sekiai	
関合正明	石膏像	1980年代	鉛筆、オイルパステル、紙	19.2×14.5	右下:S	
関合正明	干し魚	1980年代	鉛筆、オイルパステル、紙	12.0×26.2	右下:Sekiai	
関合正明	ざくろ	不詳	鉛筆、オイルパステル、紙	17.2×27.7	左下:Sekiai	
関合正明	八ヶ岳 阿弥陀岳	不詳	鉛筆、オイルパステル、 水彩絵具、紙	31.7×34.7	中下:Sekiai	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	署名年記	備考
〈田尻トシ子氏寄贈〉						
油彩画・アクリル画など						
植田曠躬	プレイス 74-4	1974	アクリル絵具、カンヴァス	162.3×130.5	左下：HIROMI U	
〈浜田知明氏寄贈〉						
版画						
浜田知明	Marikoに	1950	エッチング、アクアチント、紙	18.9/34.0×8.2/22.2	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	姥	1951	エッチング、アクアチント、紙	21.2/31.5×11.0/23.0	中下：Ep. -51 Chimei	
浜田知明	幼きキリスト	1951	エッチング、紙	18.9/38.2×17.7/34.0	中下：E.A. Chimei Hamada	
浜田知明	壁	1951	エッチング、アクアチント、紙	16.6/34.3×12.2/22.5	中下：1/5 Chimei H.	
浜田知明	人	1951	エッチング、アクアチント、紙	15.2/31.0×18.7/38.1	中下：Ep. Chimei Hamada	
浜田知明	首	1951	エッチング、アクアチント、紙	15.3/38.1×14.8/26.0	中下：E.A. Chimei Hamada	
浜田知明	頭	1952	エッチング、アクアチント、紙	17.1/33.1×10.9/24.2	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	青桐	1952	エッチング、紙	36.4/50.3×27.0/41.7	中下：E.A. Chimei Hamada	
浜田知明	風景	1952	エッチング、アクアチント、紙	14.0/25.3×20.1/32.8	-	
浜田知明	風景	1953	エッチング、紙	36.2/53.0×29.8/43.7	中下：E.A. Chimei Hamada	
浜田知明	中国の門	1953	エッチング、アクアチント、紙	15.3/32.5×10.9/25.0	-	
浜田知明	風景	1954	エッチング、アクアチント、紙	24.8/41.3×36.2/54.7	中下：17/100 Chimei Hamada	
浜田知明	假標	1954	エッチング、アクアチント、紙	19.5/38.2×12.0/28.6	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	絞首台	1954	エッチング、アクアチント、紙	23.1/40.6×13.0/28.4	中下：27/50 Chimei Hamada	
浜田知明	高足踊り	1954	ドライポイント、紙	36.4/60.7×24.6/43.7	中下：1/10 Chimei Hamada	
浜田知明	刑場(B)	1954	エッチング、アクアチント、紙	22.8/42.3×11.4/30.5	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	黄土地帯(B)	1954	エッチング、アクアチント、紙	11.8/25.6×19.6/33.2	中下：E.A. Chimei Hamada	
浜田知明	よみがえる亡霊	1956	エッチング、アクアチント、紙	30.8/46.7×21.6/38.3	中下：ép. d'artiste Chimei Hamada	
浜田知明	人	1956	エッチング、アクアチント、紙	28.8/46.1×16.3/33.1	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	一隅	1956	エッチング、アクアチント、紙	22.7/43.1×15.5/30.0	中下：ép. d'artiste Chimei H.	
浜田知明	疑惑	1957	エッチング、アクアチント、紙	27.5/45.0×17.5/31.8	中下：5/200 Chimei Hamada	
浜田知明	狂った男	1957	エッチング、アクアチント、紙	28.8/44.8×19.7/33.0	中下：E.A. Chimei Hamada	
浜田知明	地方名士	1958	エッチング、アクアチント、紙	36.1/53.3×13.0/28.4	中下：24/100 Chimei Hamada	
浜田知明	女	1960	エッチング、アクアチント、紙	29.7/49.3×30.0/45.2	中下：ép. d'artiste Chimei Hamada	
浜田知明	怠惰	1961	エッチング、紙	34.2/50.3×26.0/41.4	中下：E.A. Chimei Hamada	
浜田知明	風	1961	エッチング、アクアチント、紙	36.3/50.6×23.6/37.6	中下：ép. d'artiste Chimei Hamada	
浜田知明	かげ	1962	エッチング、紙	24.0/39.2×36.5/50.3	中下：E.A. Chimei Hamada	
浜田知明	狂った男	1962	エッチング、アクアチント、紙	36.1/48.5×29.2/37.7	中下：ép. d'artiste Chimei Hamada	
浜田知明	現代の長城	1964	エッチング、アクアチント、紙	36.4/52.5×44.8/63.5	中下：E.A. Chimei Hamada	
浜田知明	ブリュッセル王宮	1965	エッチング、紙	7.6/24.5×5.2/18.4	中下：E.p Chimei H.	
浜田知明	桶と兜と貞操帯	1965	エッチング、アクアチント、紙	39.5/53.2×29.7/43.5	中下：ép. d'artiste Chimei Hamada	
浜田知明	風景	1967	エッチング、紙	36.3/50.3×46.1/66.3	中下：E.A. Chimei Hamada	
浜田知明	幻覚	1968	エッチング、アクアチント、紙	31.5/50.0×36.4/57.3	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	騎士と鍵と女 (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」2)	1969	エッチング、紙	17.8/44.3×18.4/34.3	中下：E.p. Chimei Hamada	函入り 限定50部のうちE.A. 大阪フォルム画廊刊(1971年5月1日) 摺り：版画工房KEN 山村素夫 文：土方定一「浜田知明論：アルグスの目をもつ魂の歌」

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	署名年記	備考
浜田知明	ドーバー海峡 (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」6)	1970	エッチング、アクアチント、紙	27.3/44.5×12.9/34.4	中下：E.p. Chimei Hamada	函入り 限定50部のうちE.A. 大阪フォルム画廊刊(1971年5月1日) 摺り：版画工房KEN 山村素夫 文：土方定一「浜田知明論：アルグスの目をもつ魂の歌」
浜田知明	パリの壁から (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」7)	1970	エッチング、アクアチント、紙	16.8/34.5×27.0/44.2	中下：E.A. Chimei Hamada	同上
浜田知明	ウィーン (銅版画集「わたくしのヨーロッパの印象記」9)	1970	エッチング、アクアチント、紙	13.9/34.4×27.4/44.6	中下：E.p. Chimei Hamada	同上
浜田知明	騎士と鍵	1970	エッチング、紙	15.1/30.4×9.4/21.7	中下：E.A. Chimei Hamada	
浜田知明	グランプラス	1970	エッチング、アクアチント、紙	26.2/42.5×15.5/31.0	中下：Ep. Chimei Hamada	
浜田知明	緒方惇詩集飾画Ⅰ (「緒方惇詩集」より)	1971	エッチング、アクアチント、紙	7.6×10.5	中下：Chimei H.	函入り(Ⅱは欠) 限定50部のうちE.A. 大阪フォルム画廊刊(1971年) 摺り：版画工房KEN 山本素夫 本体の寸法：h.26.5×w.18.7×d.1.3
浜田知明	緒方惇詩集飾画Ⅲ (「緒方惇詩集」より)	1971	エッチング、アクアチント、紙	13.0×8.6	中下：Chimei H.	同上
浜田知明	馬は何故風邪をひくか (土方定一童話集「カレバラス国に名高きかの物語」Ⅰ)	1972	エッチング、紙	17.8/29.8×15.0/22.3	中下：E.A. Chimei H.	函入り 限定50部のうち番外XIV 歴程社刊(1974年) 著者：土方定一 製作：南天子画廊 本体の寸法：h.33.6×w.26.0×d.2.4
浜田知明	血にまみれた馬達の話 (土方定一童話集「カレバラス国に名高きかの物語」Ⅱ)	1972	エッチング、紙	21.8/29.6×15.5/22.3	中下：E.A. Chimei H.	同上
浜田知明	カレバラス国のかの名高き礼拝堂 (土方定一童話集「カレバラス国に名高きかの物語」Ⅲ)	1972	エッチング、アクアチント、紙	20.3/29.5×14.0/22.4	中下：E.A. Chimei Hamada	同上
浜田知明	晩年(A)	1972	エッチング、紙	22.8/38.0×15.6/28.5	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	『銅版画作品集 浜田知明』 晩年(A)	1972	エッチング、紙	22.8×15.6	中下：E.A. Chimei Hamada	函入り 限定版116部のうち番外 美術出版社刊(1972年) 本体の寸法：h.34.7×w.26.0×d.2.7
浜田知明	長田弘詩集飾画Ⅰ(長田弘詩集「メランコリックな怪物」)	1973	エッチング、紙	7.1/24.8×5.1/18.4	中下：Ep. Chimei H.	
浜田知明	長田弘詩集飾画Ⅱ(長田弘詩集「メランコリックな怪物」)	1973	エッチング、紙	17.0/27.5×10.0/18.5	中下：Ep. Chimei H.	
浜田知明	アレレ…	1974	エッチング、アクアチント、紙	32.0/47.2×19.1/32.2	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	教授会	1974	エッチング、アクアチント、紙	26.6/40.9×36.3/49.8	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	家族(大)	1974	エッチング、アクアチント、紙	29.5/47.7×23.5/38.2	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	いろいろ(A)	1974	エッチング、アクアチント、紙	36.3/57.5×24.7/41.7	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	銅版画集『見える人』 1. 孤独なやつ	1974	エッチング、アクアチント、紙	20.5/41.2×21.6/31.5	中下：E.A. Chimei H.	函入り 大阪フォルム画廊刊(1975年12月20日) 摺り：版画工房KEN 山村素夫 山村常夫 文：滝口修造「線人抄」
浜田知明	銅版画集『見える人』2. 顔	1974	エッチング、紙	21.1/41.2×15.4/31.5	中下：E.A. Chimei H.	同上
浜田知明	銅版画集『見える人』 3. 情報過多の人間	1975	エッチング、紙	22.4/41.2×14.5/31.5	中下：E.A. Chimei H.	同上
浜田知明	銅版画集『見える人』4. 男	1975	エッチング、紙	25.9/41.2×14.9/31.5	中下：E.A. Chimei H.	同上
浜田知明	銅版画集『見える人』5. 顔	1975	エッチング、紙	22.5/41.2×17.9/31.5	中下：E.A. Chimei H.	同上
浜田知明	銅版画集『見える人』6. 顔	1975	エッチング、紙	22.6/41.2×16.9/31.5	中下：E.A. Chimei H.	同上
浜田知明	銅版画集『見える人』7. 顔	1975	エッチング、紙	24.4/41.2×21.6/31.5	中下：E.A. Chimei H.	同上
浜田知明	銅版画集『見える人』8. 顔	1975	エッチング、紙	19.2/41.2×19.3/31.5	中下：E.A. Chimei H.	同上
浜田知明	せかせか	1975	エッチング、アクアチント、紙	26.8/41.0×28.4/45.6	中下：E.A. Chimei H.	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	署名年記	備考
浜田知明	いらいら(B)	1975	エッチング、アクアチント、紙	36.2/55.3×28.0/42.7	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	二人	1975	エッチング、紙	31.8/49.8×26.6/40.9	中下：H.C. Chimei H.	
浜田知明	江上昭三氏 年賀状のための作品	1975	エッチング、紙	12.3/18.4×11.7/16.0	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	顔	1975	エッチング、手彩色、紙	17.4/41.1×19.3/31.6	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	銅版画集『曇後晴』 1. ややノイローゼ気味	1975	エッチング、アクアチント、紙	22.4/43.2×14.5/33.5	中下：E.A. Chimei H.	函入り 限定50部のうちE.A. ヒロ画廊刊(1977年) 摺り：山本素夫 山村常夫 印刷：秀和印刷
浜田知明	銅版画集『曇後晴』2. 顔	1976	エッチング、アクアチント、紙	22.0/43.2×15.2/33.5	中下：E.A. Chimei H.	同上
浜田知明	銅版画集『曇後晴』 3. お先真っ暗	1976	エッチング、アクアチント、紙	23.4/43.2×12.1/33.5	中下：E.A. Chimei H.	同上
浜田知明	銅版画集『曇後晴』4. かけ	1977	エッチング、アクアチント、紙	21.7/43.2×15.3/33.5	中下：E.A. Chimei H.	同上
浜田知明	銅版画集『曇後晴』5. 叫び	1975	エッチング、アクアチント、紙	21.5/43.2×21.6/33.5	中下：E.A. Chimei H.	同上
浜田知明	銅版画集『曇後晴』 6. 心情不安定	1976	エッチング、アクアチント、紙	21.8/43.2×16.1/33.5	中下：E.A. Chimei H.	同上
浜田知明	銅版画集『曇後晴』 7. 気にしない、気にしない	1976	エッチング、アクアチント、紙	23.6/43.2×14.6/33.5	中下：E.A. Chimei H.	同上
浜田知明	銅版画集『曇後晴』 8. 何とかなさ	1976	エッチング、アクアチント、紙	21.6/43.2×16.5/33.5	中下：E.A. Chimei H.	同上
浜田知明	銅版画集『曇後晴』9. 浮上	1977	エッチング、アクアチント、紙	22.0/43.2×18.1/33.5	中下：E.A. Chimei H.	同上
浜田知明	銅版画集『曇後晴』10. 家族	1977	エッチング、アクアチント、紙	19.4/43.2×16.0/33.5	中下：E.A. Chimei H.	同上
浜田知明	密談	1976	エッチング、紙	16.6/35.0×12.6/28.7	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	男と女	1976	エッチング、アクアチント、紙	23.6/43.5×13.3/33.4	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	月夜	1977	エッチング、アクアチント、紙	25.6/47.3×27.0/40.8	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	風化する街(A)	1977	エッチング、アクアチント、紙	31.8/49.7×23.9/38.4	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	風化する街(B)	1978	エッチング、アクアチント、紙	23.0/43.0×30.1/51.5	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	初年兵哀歌(檻)	1978	エッチング、紙	12.3/28.6×15.2/34.4	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	ある風景	1978	エッチング、紙	23.1/36.4×29.9/47.9	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	だめな奴	1979	エッチング、アクアチント、紙	24.8/42.0×16.8/33.0	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	やもり	1979	エッチング、アクアチント、紙	24.7/42.2×14.6/31.7	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	取引	1979	エッチング、アクアチント、紙	20.6/38.0×26.8/42.8	中下：10/50 Chimei H.	
浜田知明	ボス	1980	エッチング、紙	27.2/46.0×19.5/34.1	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	遠藤周作「沈黙」より	1980	エッチング、ドライポイント、紙	21.5/38.2×16.5/28.7	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	教授達	1981	エッチング、アクアチント、紙	18.3/33.5×25.6/41.5	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	行きどまり	1981	エッチング、アクアチント、紙	19.0/33.0×21.5/38.2	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	見えない壁	1982	エッチング、紙	14.4/40.9×15.3/31.8	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	ある日…。	1982	エッチング、アクアチント、紙	21.7/37.2×15.8/26.2	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	見られている…。	1982	エッチング、アクアチント、紙	20.0/33.0×23.0/38.1	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	カタコンベ	1982	エッチング、アクアチント、紙	49.5/63.2×36.5/45.5	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	マダムA	1983	エッチング、紙	20.5/46.0×9.5/32.3	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	小犬のいる風景	1984	エッチング、アクアチント、紙	20.8/37.9×16.7/28.2	中下：E.A.1/5 Chimei H.	
浜田知明	リンゴ	1984	エッチング、ドライポイント、紙	20.0/38.2×22.8/45.0	中下：H.C. Chimei H.	
浜田知明	怯える人々	1985	エッチング、アクアチント、紙	24.0/45.5×20.7/38.1	中下：E.A.1/5 Chimei H.	
浜田知明	むし暑い夜	1985	エッチング、アクアチント、紙	23.6/38.1×15.9/28.2	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	階段を上がる人	1986	エッチング、アクアチント、紙	32.3/47.3×18.0/32.0	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	月夜	1987	エッチング、アクアチント、紙	26.5/44.1×15.7/30.6	中下：E.A. Chimei H.	
浜田知明	年賀状	1987	エッチング、紙	7.5/15.8×7.8/21.7	左下：E.A. Chimei H.	二つ折り 左側に画面

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	署名年記	備考
浜田知明	夜	1988	エッチング、アクアチント、紙	25.0/45.3×21.4/37.8	中下:E.A. Chimei H.	
浜田知明	ボタン(A)	1988	エッチング、アクアチント、紙	32.5/50.8×35.5/61.4	中下:E.A. Chimei H.	
浜田知明	H氏像	1989	エッチング、紙	32.8/51.9×24.2/38.0	中下:E.A. Chimei H.	
浜田知明	年賀状	1989	エッチング、紙	9.0/15.8×6.5/21.8	左下:E.A. Chimei H. 右:賀春 1989 右下:1989	二つ折り 左側に画面
浜田知明	鳥	1990	エッチング、アクアチント、紙	25.2/45.9×27.0/43.0	中下:E.A. Chimei H.	
浜田知明	『小さな版画集』少女の顔	1991	エッチング、紙	11.2/33.0×8.3/25.0	中下:44/50 Chimei H.	タトウ入り 函入り 44/50 ヒロ画廊刊 (1992年)制作:1991年 印刷:廣橋製版印刷株 式会社
浜田知明	『小さな版画集』時計	1991	エッチング、紙	15.8/33.0×7.2/25.0	中下:44/50 Chimei H.	同上
浜田知明	『小さな版画集』小さな怪物	1991	エッチング、紙	12.0/33.0×13.2/25.0	中下:44/50 Chimei H.	同上
浜田知明	『小さな版画集』 老人の顔(A)	1991	エッチング、紙	11.3/33.0×10.0/25.0	中下:44/50	同上
浜田知明	『小さな版画集』 老人の顔(B)	1991	エッチング、紙	11.3/33.0×10.3/25.0	中下:44/50 Chimei H.	同上
浜田知明	『小さな版画集』 布を被った男	1991	エッチング、紙	15.8/33.0×13.0/25.0	中下:44/50 Chimei H.	同上
浜田知明	『小さな版画集』走る女	1991	エッチング、紙	15.8/33.0×10.8/25.0	中下:44/50 Chimei H.	同上
浜田知明	『小さな版画集』歩く人	1991	エッチング、紙	16.3/33.0×9.3/25.0	中下:44/50 Chimei H.	同上
浜田知明	『小さな版画集』座る人	1991	エッチング、紙	17.3/33.0×12.8/25.0	中下:44/50 Chimei H.	同上
浜田知明	『小さな版画集』振り返る人	1991	エッチング、紙	17.3/33.0×12.8/25.0	中下:44/50 Chimei H.	同上
浜田知明	『小さな版画集』背中	1991	エッチング、紙	17.6/33.0×13.0/25.0	中下:44/50 Chimei H.	同上
浜田知明	『小さな版画集』小鳥と男	1991	エッチング、紙	11.8/33.0×11.3/25.0	中下:44/50 Chimei H.	同上
浜田知明	『小さな版画集』検査	1991	エッチング、紙	14.0/33.0×16.0/25.0	中下:44/50 Chimei H.	同上
浜田知明	『小さな版画集』女	1991	エッチング、紙	18.0/33.0×12.0/25.0	中下:44/50 Chimei H.	同上
浜田知明	『小さな版画集』ボタン	1991	エッチング、紙	14.0/33.0×11.5/25.0	中下:44/50 Chimei H.	同上
浜田知明	いらいら(C)	1992	エッチング、アクアチント、紙	24.0/42.2×16.5/30.8	中下:E.A. Chimei H.	
浜田知明	熊本学園創立50周年記念の ための作品	1992	エッチング、紙	11.0/22.7×7.5/16.8	中下:E.A. Chi. H.	
浜田知明	窓から一何もしてないよ(A)	1994	エッチング、アクアチント、紙	24.4/35.7×19.5/28.5	中下:E.A. Chimei H.	
浜田知明	窓から一何もしてないよ(B)	1994	エッチング、アクアチント、紙	24.4/43.2×19.5/35.5	中下:E.A. Chimei H.	
浜田知明	窓から一何もしてないよ(C)	1994	エッチング、アクアチント、紙	24.4/37.6×19.5/32.0	中下:E.A. Chimei H.	
浜田知明	窓から一白い手袋	1996	エッチング、アクアチント、紙	33.1/50.0×22.1/36.2	中下:E.A. Chimei H.	
浜田知明	カッパドキア追想	2000	エッチング、アクアチント、紙	23.5/41.3×21.0/38.0	中下:E.A. Chimei H.	

〈藤原<sup>わたる</sup>互氏寄贈〉

彫刻・インスタレーション

藤原吉志子	車庫から船出する王。(G.G.マルケス『旅長の秋』より)	1986	ブロンズ	50.5×31.5×25.0	86 吉
藤原吉志子	天使を待たせるナボ。(G.G.マルケス『天使に待ち呆けを食わせた黒人 ナボ』より)	1986	ブロンズ	44.5×22.5×22.5	1986 Aug.Yoshiko
藤原吉志子	キャバツ畑で飛ぶ練習をした。うまいかない…。(G.G.マルケス『翼を持った老人』より)	1986	ブロンズ	24.0×27.0×55.0	よしこ
藤原吉志子	風景 にっちもさっちも	1994	ブロンズ	21.0×22.7×15.3	94 吉
藤原吉志子	記憶 あの日 チェルノブイリ	2001	ブロンズ	15.7×25.3×15.0	2001.Yo

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	署名年記	備考
〈二見彰一氏寄贈〉						
版画						
二見彰一	映像	1968	アクアチント、紙	14.3/24.0×20.5/30.8	左下:映像 1968 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	秋のパラード	1968	アクアチント、紙	13.6/28.4×9.9/19.0	左下:秋のパラード 1968 中下:h.c. S.Foutami	
二見彰一	ノクターン	1968	アクアチント、紙	7.2/15.5×5.9/11.5	左下:ノクターン 1968 中下:1/30 S.Foutami	
二見彰一	異教徒の降誕祭	1968	アクアチント、紙	10.0/18.8×8.0/13.8	左下:異教徒の降誕祭 Weihnachtsabend 1968 中下:28/30 S.Foutami	
二見彰一	飛翔	1968	アクアチント、紙	5.7/12.6×6.8/14.1	左下:飛翔 1968 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	イン・ザ・ガーデン	1968	アクアチント、紙	6.7/12.5×7.7/18.0	左下:イン・ザ・ガーデン 1968 中下:e.a. S.Foutami	
二見彰一	夜明け	1968	アクアチント、紙	6.5/11.1×8.0/15.5	左下:夜明け 1968 中下:7/25. S.Foutami	
二見彰一	とりとめない気分で	1968	アクアチント、紙	7.7/15.3×6.5/11.8	左下:とりとめない気分で 1968 中下:9/20 S.Foutami	
二見彰一	アリエッタ	1968	アクアチント、紙	8.7/18.9×4.3/12.3	左下:アリエッタ 1968 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	アルビレオの微笑	1968	アクアチント、紙	9.8/18.9×4.1/12.2	左下:アルビレオの微笑 1968 中下:8/20 S.Foutami	
二見彰一	グリーンゾーン	1968	アクアチント、紙	4.5/10.2×7.7/17.2	左下:グリーンゾーン 1968 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	遠い国	1969	アクアチント、紙	31.7/49.8×22.5/35.9	左下:遠い国 1969 中下:21/30 S.Foutami	
二見彰一	希望	1969	アクアチント、紙	30.5/49.7×18.8/36.0	左下:希望 1969 中下:18/30 S.Foutami	
二見彰一	オウバード	1969	アクアチント、紙	30.5/49.8×21.0/36.0	左下:Aubade 1969 中下:17/30 S.Foutami	
二見彰一	予感	1969	アクアチント、紙	33.5/49.0×19.3/32.4	左下:予感 1969 中下:P.A. S.Foutami	
二見彰一	海のうた	1969	アクアチント、紙	22.9/37.8×15.6/28.1	左下:海のうた 1969 中下:16/30 S.Foutami	
二見彰一	夏の終り	1969	アクアチント、紙	21.9/37.7×15.0/28.2	左下:夏の終り 1969 中下:20/30 S.Foutami	
二見彰一	ラウンドメロディ	1969	アクアチント、紙	30.5/49.7×24.8/35.9	左下:Round Melody 1969 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	風の歌	1969	アクアチント、紙	25.0/36.0×30.8/49.9	左下:風の歌 1969 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	海のソネット	1969	アクアチント、紙	21.9/31.5×31.0/49.8	左下:海のソネット 1969 中下:10/30 S.Foutami	
二見彰一	マイクロドラマ	1969	アクアチント、紙	23.6/35.9×31.5/49.7	左下:マイクロドラマ 1969 中下:7/30 S.Foutami 右下:Micro Drama 1969	
二見彰一	宇宙へのプレリュード	1969	アクアチント、メゾチント、紙	31.7/49.6×19.7/35.9	左下:宇宙へのプレリュード 1969 中下:8/20 S.Foutami 右下:Prelude to the Cosmos 1969	
二見彰一	カプリース	1969	アクアチント、紙	18.4/26.3×22.6/37.0	左下:カプリース 1969 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	パントマイム	1969	アクアチント、紙	22.7/37.7×17.1/28.0	左下:パントマイム 1969 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	グリーン・ポイント	1969	アクアチント、紙	22.3/37.8×15.8/28.2	左下:グリーン・ポイント 1969 中下:15/15 S.Foutami	
二見彰一	凍った季節	1969	アクアチント、紙	32.9/49.9×20.2/32.5	左下:凍った季節 1969 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	滯	1969	アクアチント、紙	32.1/50.5×20.1/36.0	左下:滯 1969 中下:1/30 S.Foutami	
二見彰一	はばたき	1969	アクアチント、紙	29.5/47.8×24.0/36.5	左下:はばたき 1969 中下:1/30 S.Foutami	
二見彰一	潮騒	1969	アクアチント、紙	22.7/30.9×31.5/48.7	左下:潮騒 1969 中下:8/30 S.Foutami	
二見彰一	光芒	1969	アクアチント、紙	22.3/35.9×35.8/49.9	左下:光芒 1969 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	思い出せない夢	1969	アクアチント、紙	24.3/36.0×30.0/48.4	左下:思い出せない夢 1969 中下:1/30 S.Foutami	
二見彰一	ソナチネ	1969	アクアチント、紙	25.4/38.5×17.8/28.2	左下:ソナチネ 1969 中下:5/30 S.Foutami	
二見彰一	青の宴	1969	アクアチント、紙	30.7/49.9×25.0/36.0	左下:青の宴 1969 中下:E.A. S.Foutami	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	署名年記	備考
二見彰一	未知の軌道	1969	アクアチント、メゾチント、紙	32.2/45.5×23.0/36.0	左下：未知の軌道 1969 中下：Artist's Proof S.Foutami	
二見彰一	ダーク・ゾーン	1969	アクアチント、紙	19.8/31.9×31.9/49.9	左下：ダーク・ゾーン 1969 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	青のメルヘン	1969	アクアチント、紙	23.9/36.0×31.2/44.4	左下：青のメルヘン 1969 中下：5/20 S.Foutami	
二見彰一	時の窓	1969	アクアチント、紙	25.1/37.8×17.7/28.0	左下：時の窓 1969 中下：14/15 S.Foutami	
二見彰一	ラウンド・ミッドナイト	1969	アクアチント、紙	22.8/37.5×15.8/28.3	左下：ラウンド・ミッドナイト 1969 Round Midnight 1969 中下：14/15 S.Foutami	
二見彰一	五月の歌	1969	アクアチント、紙	16.0/28.2×22.3/37.6	左下：五月の歌 1969 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	水曜日	1969	アクアチント、紙	26.6/37.8×11.8/22.0	左下：水曜日 1969 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	間奏曲	1969	アクアチント、紙	23.4/38.0×15.8/28.0	左下：間奏曲 1969 中下：15/15 S.Foutami	
二見彰一	トロイメライ	1969	アクアチント、紙	16.0/28.4×10.0/19.0	左下：トロイメライ 1969 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	贈られた朝	1970	アクアチント、紙	23.0/36.0×29.0/49.7	左下：贈られた朝 1970 中下：28/30 S.Foutami	
二見彰一	旅への誘い	1970	アクアチント、紙	34.6/49.7×17.4/36.0	左下：旅への誘い 1970 中下：14/30 S.Foutami	
二見彰一	孤独の祭	1970	アクアチント、紙	32.1/49.8×22.8/36.1	左下：孤独の祭 1970 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	湖の国	1970	アクアチント、紙	22.0/36.0×30.8/49.7	左下：湖の国 1970 中下：22/30 S.Foutami	
二見彰一	風を離れて	1970	アクアチント、紙	22.4/36.0×32.7/49.7	左下：風を離れて 1970 中下：21/30 S.Foutami	
二見彰一	水の子どもたち	1970	アクアチント、紙	23.1/36.0×27.9/50.5	左下：水の子どもたち 1970 中下：ARTIST'S PROOF S.Foutami	
二見彰一	クレーの扉	1970	アクアチント、紙	22.7/37.6×18.0/27.8	左下：クレーの扉 1970 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	期待	1970	アクアチント、紙	32.1/49.9×15.8/36.0	左下：期待 1970 中下：6/30 S.Foutami	
二見彰一	星の音	1970	アクアチント、紙	32.1/49.8×22.4/35.9	左下：星の音 1970 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	時の間に	1970	アクアチント、紙	30.0/49.9×21.5/36.0	左下：時の間に 1970 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	極点	1970	アクアチント、紙	20.0/36.0×28.2/49.8	左下：極点 1970 中下：8/30 S.Foutami	
二見彰一	とき放たれたモニュメント	1970	アクアチント、紙	31.0/49.8×25.1/36.0	左下：とき放たれたモニュメント 1970 中下：12/30 S.Foutami	
二見彰一	小さい町	1970	アクアチント、紙	22.0/36.0×30.9/49.8	左下：小さい町 1970 中下：22/30 S.Foutami	
二見彰一	海のパストラル	1970	アクアチント、紙	22.0/32.5×30.9/49.0	左下：海のパストラル 1970 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	兆候	1970	アクアチント、紙	30.8/49.6×22.0/36.0	左下：兆候 1970 中下：21/30 S.Foutami	
二見彰一	なくした玩具	1970	アクアチント、紙	24.0/38.0×17.0/28.0	左下：なくした玩具 1970 中下：10/30 S.Foutami	
二見彰一	青い花	1970	アクアチント、紙	24.8/37.8×12.4/28.2	左下：青い花 1970 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	透明な街	1970	アクアチント、紙	22.5/38.0×18.0/28.4	左下：透明な街 1970 中下：5/30 S.Foutami	
二見彰一	ブルー・エイジ	1970	アクアチント、紙	29.6/48.0×23.6/35.9	左下：ブルー・エイジ 1970 中下：1/30 S.Foutami	
二見彰一	時の兆し	1971	アクアチント、ソフトグラウンドエッチング、紙	31.8/49.6×17.9/36.0	左下：時の兆し 1971 中下：26/30 S.Foutami	
二見彰一	祈り	1971	アクアチント、ソフトグラウンドエッチング、紙	28.7/49.7×20.6/36.0	左下：祈り 1971 中下：29/30 S.Foutami 右下：Andacht 1971	
二見彰一	夏の朝	1971	アクアチント、デカルコマニー、紙	28.1/49.5×22.8/36.0	左下：夏の朝 1971 中下：18/30 S.Foutami 右下：Morning in Summer 1971	
二見彰一	カーニバルの夜	1971	アクアチント、デカルコマニー、紙	32.4/49.8×23.1/35.8	左下：カーニバルの夜 1971 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	記憶の中で	1971	アクアチント、紙	30.8/49.6×24.8/36.0	左下：記憶の中で 1971 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	冬の窓	1971	アクアチント、紙	23.8/36.0×33.5/49.7	左下：冬の窓 1971 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	風の贈物	1971	アクアチント、紙	23.2/37.8×16.2/28.2	左下：風の贈物 1971 中下：2/30 S.Foutami	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	署名年記	備考
二見彰一	ザ・ナイト	1971	アクアチント、 デカルコマニー、紙	32.1/49.7×23.0/36.0	左下: The Night 1971 中下: 13/30 S.Foutami	
二見彰一	追憶	1971	アクアチント、紙	23.8/37.8×16.5/28.0	左下: 追憶 1971 中下: 10/30 S.Foutami	
二見彰一	深海のエピソード	1971	アクアチント、紙	24.5/36.0×30.0/49.9	左下: 深海のエピソード 1971 中下: 11/30 S.Foutami	
二見彰一	港の風	1971	アクアチント、 デカルコマニー、紙	30.0/49.8×24.1/36.0	左下: 港の風 1971 中下: 10/30 S.Foutami	
二見彰一	海への道	1971	アクアチント、紙	28.8/49.8×23.1/36.0	左下: 海への道 1971 中下: 7/30 S.Foutami 右下: Way to the Sea 1971	
二見彰一	海のそばの像	1971	アクアチント、紙	30.3/49.6×21.5/36.0	左下: 海のそばの像 1971 中下: E.A. S.Foutami	
二見彰一	地の明り	1971	アクアチント、紙	20.8/36.0×33.8/49.7	左下: 地の明り 1971 中下: 8/30 S.Foutami	
二見彰一	風の招待	1971	アクアチント、 リフトグラウンドエッチング、紙	29.4/49.7×23.8/36.0	左下: 風の招待 1971 中下: 6/30 S.Foutami	
二見彰一	孤独の魔術師	1971	アクアチント、 デカルコマニー、紙	32.1/49.6×19.9/36.0	左下: 孤独の魔術師 1971 中下: 10/30 S.Foutami 右下: Einsamer Zanberer	
二見彰一	朝の精(1)	1971	アクアチント、紙	23.1/38.0×16.6/28.2	左下: 朝の精(1) 1971 中下: E.A. S.Foutami	
二見彰一	朝の精(2)	1971	アクアチント、紙	12.7/28.5×11.8/19.1	左下: 朝の精(2) 1971 中下: E.A. S.Foutami	
二見彰一	北の森	1971	アクアチント、紙	19.7/37.7×13.6/28.0	左下: 北の森 1971 中下: E.A. S.Foutami	
二見彰一	ロンディーノ	1971	アクアチント、 デカルコマニー、紙	14.8/28.0×7.3/19.2	左下: ロンディーノ 1971 中下: 5/50 S.Foutami	
二見彰一	狂えるオフィーリア	1972	アクアチント、紙	24.7/37.5×15.3/28.0	左下: 狂えるオフィーリア 1972 中下: 28/30 S.Foutami	
二見彰一	深夜の羽化	1972	アクアチント、紙	24.9/37.8×15.0/28.2	左下: 深夜の羽化 1972 中下: 29/30 S.Foutami 右下: Mitternächliche Verwandlung	
二見彰一	樹の伝説	1972	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、紙	32.0/49.5×19.9/36.0	左下: 樹の伝説 1972 中下: 27/30 S.Foutami Baumlegende 右下: Legend of the Tree 1972	
二見彰一	祝祭の夜	1972	アクアチント、紙	32.0/49.5×20.0/35.7	左下: 祝祭の夜 1972 中下: 28/30 S.Foutami	
二見彰一	遠くを見る眼	1972	アクアチント、紙	31.6/49.6×22.4/36.0	左下: 遠くを見る眼 1972 中下: 19/30 S.Foutami	
二見彰一	聖堂にて	1972	アクアチント、紙	32.5/48.8×20.0/35.8	左下: 聖堂にて 1972 中下: 29/30 S.Foutami	
二見彰一	星の誕生	1972	アクアチント、紙	30.9/49.5×21.9/36.0	左下: 星の誕生 1972 中下: E.A. S.Foutami	
二見彰一	星の時間	1972	アクアチント、紙	30.1/49.5×23.7/36.0	左下: 星の時間 1972 中下: 21/30 S.Foutami	
二見彰一	ユーモラスな告白	1972	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、 デカルコマニー、紙	26.7/49.7×25.9/36.0	左下: ユーモラスな告白 1972 中下: 25/30 S.Foutami 右下: Humorous Confession	
二見彰一	朝のコラール	1972	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、紙	31.5/49.6×22.5/36.0	左下: 朝のコラール 1972 中下: 23/30 S.Foutami	
二見彰一	最後の輝き	1972	アクアチント、紙	33.0/49.7×20.5/36.0	左下: 最後の輝き 1972 中下: 13/30 S.Foutami	
二見彰一	光の廃墟	1972	アクアチント、紙	30.8/49.7×22.0/36.0	左下: 光の廃墟 1972 中下: 6/30 S.Foutami	
二見彰一	飾られた夜	1972	アクアチント、紙	24.0/36.0×29.3/49.7	左下: 飾られた夜 1972 中下: 7/30 S.Foutami	
二見彰一	風をはらんだ海	1972	アクアチント、 デカルコマニー、紙	23.9/36.0×29.5/49.7	左下: 風をはらんだ海 1972 中下: 8/30 S.Foutami	
二見彰一	青い夏	1972	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、紙	22.9/36.0×32.4/49.7	左下: 青い夏 1972 中下: 6/30 S.Foutami	
二見彰一	予期せぬドラマ	1972	アクアチント、 デカルコマニー、紙	29.5/49.6×23.8/36.0	左下: 予期せぬドラマ 1972 中下: 5/30 S.Foutami	
二見彰一	フロゼンエリア	1972	アクアチント、紙	22.2/36.0×31.3/48.0	左下: Frozen Area 1972 中下: 23/30 S.Foutami	
二見彰一	ガラスのとり	1972	アクアチント、紙	16.5/28.3×9.9/19.0	左下: ガラスのとり 1972 中下: 38/50 S.Foutami	
二見彰一	シンボル	1972	アクアチント、紙	8.9/19.0×14.3/28.0	左下: シンボル 1972 中下: 14/50 S.Foutami	
二見彰一	シルフィード	1972	アクアチント、紙	5.7/11.0×8.8/18.7	左下: Sylphides (I) 1972 中下: E.A. S.Foutami	
二見彰一	見知らぬ街で	1972	アクアチント、紙	13.9/28.0×10.0/19.0	左下: 見知らぬ街で 1972 17/50 S.Foutami	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	署名年記	備考
二見彰一	風のかたみ	1972	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、紙	14.0/28.2×10.2/18.8	左下：風のかたみ 1972 中下：e.a. S.Foutami	
二見彰一	愛	1972	アクアチント、紙	7.7/18.1×6.6/15.1	左下：愛 1972 中下：H.C. S.Foutami	
二見彰一	ヘカティの花	1973	アクアチント、 デカルコマニー、紙	32.3/49.7×22.7/36.1	左下：ヘカティの花 1973 中下：1/30 ヘカティの花 S.Foutami 右下：Hekte's Flower 1973	
二見彰一	凍れる光	1973	アクアチント、紙	31.7/49.9×21.8/36.0	左下：凍れる光 1973 中下：19/30 S.Foutami	
二見彰一	やわらかい闇	1973	アクアチント、紙	32.2/49.7×22.8/36.0	左下：やわらかい闇 1973 中下：12/30 S.Foutami	
二見彰一	リストとともに	1973	アクアチント、紙	28.1/50.0×24.4/36.0	左下：リストとともに 1973 中下：30/30 S.Foutami 右下：Mit Franz Lisszt	
二見彰一	海の星	1973	アクアチント、 リフトグラウンドエッチング、紙	22.1/35.9×31.0/49.6	左下：海の星 1973 中下：15/30 S.Foutami	
二見彰一	海の神話	1973	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、 リフトグラウンドエッチング、紙	31.2/49.9×22.5/36.0	左下：海の神話 1973 中下：23/30 S.Foutami 右下：Mithe von Meer	
二見彰一	旅の感傷	1973	アクアチント、紙	24.0/37.8×16.6/28.0	左下：旅の感傷 1973 中下：E.A. S.Foutami 右下：Sentimentalität einer Reise	
二見彰一	かなしいたより	1973	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、 リフトグラウンドエッチング、紙	24.3/37.8×15.9/28.0	左下：かなしいたより 1973 中下：10/30 S.Foutami	
二見彰一	ノクチュルヌ	1973	アクアチント、 デカルコマニー、紙	33.7/49.7×20.0/36.0	左下：ノクチュルヌ 1973 中下：21/30 S.Foutami 右下：Nocturne 1973	
二見彰一	A.M.3:30	1973	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、紙	32.1/49.8×20.0/36.0	左下：A.M.3:30 1973 中下：16/30 S.Foutami Geon 3:30 右下：三時三十分	
二見彰一	エピローグ	1973	アクアチント、 デカルコマニー、紙	31.6/49.0×21.8/35.9	左下：エピローグ 1973 中下：19/30 S.Foutami 右下：Epilog	
二見彰一	夜の音色	1973	アクアチント、紙	32.0/49.9×20.7/36.0	左下：夜の音色 1973 中下：10/30 S.Foutami	
二見彰一	あらしの夜	1973	アクアチント、紙	32.2/49.8×22.7/36.0	左下：あらしの夜 1973 中下：7/30 S.Foutami	
二見彰一	青のよそおい	1973	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、 リフトグラウンドエッチング、紙	32.8/49.8×20.4/36.1	左下：青のよそおい 1973 中下：e.a. S.Foutami 右下：Blaue Kleidung	
二見彰一	遠い町にて	1973	アクアチント、紙	25.6/37.8×15.0/28.2	左下：遠い町にて 1973 中下：23/30 S.Foutami 右下：Au einer fernen stadt	
二見彰一	祭の夜	1973	アクアチント、紙	25.5/37.8×13.2/28.2	左下：祭の夜 1973 中下：5/30 S.Foutami	
二見彰一	内気な憧れ	1973	アクアチント、紙	23.3/37.7×17.2/28.0	左下：内気な憧れ 1973 中下：3/30 S.Foutami 右下：Schüchterne sehnsucht	
二見彰一	星の精	1973	アクアチント、紙	15.0/28.2×9.6/18.9	左下：星の精 1973 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	星の音	1973	アクアチント、紙	10.9/19.0×13.3/28.1	左下：星の音 1973 中下：23/50 S.Foutami	
二見彰一	春のうた	1973	アクアチント、紙	6.4/16.6×6.4/16.3	左下：春のうた 1973 中下：e.a. s.foutami	
二見彰一	不安な夜(1)	1974	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、紙	30.7/49.7×19.0/36.0	左下：不安な夜(1) 1974 中下：6/30 S.Foutami	
二見彰一	不安な夜(2)	1974	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、紙	29.4/48.9×21.0/35.9	左下：不安な夜(2) 1974 中下：S.Foutami 右下：Besorgte Nacht(2)	
二見彰一	デネブへの帰還	1974	アクアチント、 デカルコマニー、紙	34.6/49.6×17.6/35.9	左下：デネブへの帰還 1974 中下：11/30 S.Foutami 右下：Return to Denebu 1974	
二見彰一	敬虔な夜への記憶(1)	1975	アクアチント、 デカルコマニー、紙	29.0/49.7×23.1/35.9	左下：敬虔な夜への記憶(1) 1975 中下：10/30 S.Foutami	
二見彰一	敬虔な夜への記憶(2)	1975	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、紙	32.4/49.7×20.0/36.0	左下：敬虔な夜への記憶(2) 1975 中下：15/30 S.Foutami 右下：Erinnerung der himmlischen Nacht(2)	
二見彰一	期待と不安への告知(1)	1975	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、紙	30.0/49.6×21.1/36.0	左下：不安と期待への告知 1975 中下：H.C. S.Foutami	
二見彰一	期待と不安への告知(2)	1975	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、紙	30.0/49.7×21.0/35.8	左下：不安と期待への告知 1975 中下：29/50 S.Foutami	
二見彰一	青い闇(1)	1975	アクアチント、 リフトグラウンドエッチング、紙	30.1/49.5×19.5/35.9	左下：青い闇(1) 1975 中下：4/30 S.Foutami	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	署名年記	備考
二見彰一	秋の手に	1975	アクアチント、 ソフトグランドエッチング、紙	29.6/49.5×20.8/35.9	左下:秋の手に 1975 中下:8/30 S.Foutami	
二見彰一	聖なる予感	1975	アクアチント、紙	31.1/49.5×21.5/35.0	左下:聖なる予感 1975 中下:8/30 S.Foutami 右下:Holy Presentiment	
二見彰一	青い椅子	1975	アクアチント、紙	31.0/45.6×19.6/36.0	左下:青い椅子 1975 中下:9/30 S.Foutami	
二見彰一	北の国から(1)	1975	アクアチント、紙	35.3/49.5×20.8/35.9	左下:北の国から(1) 1975 中下:5/30 S.Foutami 右下:Aus einem nördlichen Land(1)	
二見彰一	北の国から(2)	1975	アクアチント、紙	26.4/36.0×28.1/49.6	左下:北の国から(2) 1975 中下:5/30 S.Foutami	
二見彰一	北の国から(3)	1975	アクアチント、紙	22.3/36.0×26.8/49.7	左下:北の国から(3) 1975 中下:6/30 S.Foutami 右下:From Nothern Land(3)	
二見彰一	北の国から(4)	1975	アクアチント、紙	27.5/49.5×19.6/35.8	左下:北の国から(4) 1975 中下:3/30 S.Foutami	
二見彰一	一本の菊	1975	アクアチント、紙	24.3/37.8×16.8/28.0	左下:一本の菊 1975 中下:23/30 S.Foutami	
二見彰一	眠れぬ夜に	1975	アクアチント、紙	26.0/37.7×16.3/28.0	左下:眠れぬ夜に 1975 Schlaflos Nacht 中下:18/30 S.Foutami	
二見彰一	夜の庭	1975	アクアチント、紙	25.1/38.0×16.2/28.0	左下:夜の庭 1975 1975 中下:14/30 S.Foutami 右下:Garden in the Night	
二見彰一	遙かな町から	1975	アクアチント、紙	25.6/38.2×14.5/28.4	左下:遙かな町から 1975 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	ティー・フォア・ツー	1975	アクアチント、紙	20.5/38.0×15.5/28.2	中下:e.a. Tea for two 1975 S.Foutami	
二見彰一	夜明け	1975	アクアチント、紙	24.5/36.0×17.1/26.0	左下:夜明け 1975 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	星を見る子	1975	アクアチント、紙	11.3/18.6×7.8/14.5	左下:星を見る子 1975 中下:45/50 S.Foutami	
二見彰一	五月の夜	1975	アクアチント、紙	6.9/19.0×6.9/14.4	左下:五月の夜 1975 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	寓話の部屋(1)	1976	アクアチント、紙	41.9/49.6×31.0/36.0	左下:寓話の部屋(1) 1976 中下:14/30 S.Foutami 右下:Zimmer des Allegorie(1)	
二見彰一	寓話の部屋(2)	1976	アクアチント、紙	43.1/49.8×29.1/35.9	左下:寓話の部屋(2) 1976 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	ひそやかな誕生	1976	アクアチント、紙	29.6/49.6×21.0/35.8	左下:ひそやかな誕生 1976 中下:17/50 S.Foutami	
二見彰一	遠い祭	1976	アクアチント、紙	15.3/28.1×11.0/19.0	左下:遠い祭 1976 中下:17/50 S.Foutami	
二見彰一	海からのメッセージ	1976	アクアチント、紙	9.3/19.0×13.7/28.0	左下:海からのメッセージ 1976 中下:37/50 S.Foutami	
二見彰一	コーヒーを待つ間	1976	アクアチント、紙	14.6/28.3×9.0/19.0	左下:コーヒーを待つ間 1976 中下:37/75 S.Foutami	
二見彰一	深夜の精	1976	アクアチント、紙	10.8/19.0×15.9/28.2	左下:深夜の精 1976 中下:31/75 S.Foutami	
二見彰一	デュエット・イン・ローマ	1976	アクアチント、紙	10.4/19.0×5.1/14.1	左下:デュエット・イン・ローマ 1976 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	シエナの塔	1976	アクアチント、紙	10.5/18.8×6.8/14.0	左下:シエナの塔 1976 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	小さなロマンツェ	1976	アクアチント、紙	10.0/19.2×6.5/14.1	左下:小さなロマンツェ 中下:H.C. S.Foutami	
二見彰一	ある秋の夜に	1976	アクアチント、紙	8.9/19.0×6.9/14.1	左下:ある秋の夜に 1976 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	ヴェネツィアからのたより	1976	アクアチント、紙	8.3/19.0×4.0/13.7	左下:ヴェネツィアからのたより 1976 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	夢のもつれ	1976	アクアチント、紙	8.7/18.9×3.2/14.1	左下:夢のもつれ 1976 中下:3/50 S.Foutami	
二見彰一	やさしい歌	1976	アクアチント、紙	11.8/18.9×6.2/14.2	左下:やさしい歌 1976 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	短いワルツ	1976	アクアチント、紙	6.8/19.1×6.1/13.9	左下:短いワルツ 1976 中下:23/50 S.Foutami 右下:Short Walz	
二見彰一	インヴィテーション	1976	アクアチント、紙	5.6/14.8×6.1/10.0	左下:インヴィテーション 1976 中下:h.c. S.Foutami	
二見彰一	海の見える部屋	1976	アクアチント、紙	8.2/19.2×5.0/14.1	左下:海の見える部屋 1976 中下:33/50 S.Foutami	
二見彰一	リュネブルクの月	1976	アクアチント、紙	12.1/19.2×6.0/14.1	左下:リュネブルクの月 1976 中下:9/50 S.Foutami	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	署名年記	備考
二見彰一	夕べの祈り	1976	アクアチント、紙	7.4/19.0×4.4/14.5	左下:夕べの祈り 1976 中下:52/75 S.Foutami 右下:Abendgebet	
二見彰一	こどもの歌	1976	アクアチント、紙	9.5/19.0×6.3/14.1	左下:こどもの歌 1976 中下:h.c. S.Foutami	
二見彰一	星が降る	1976	アクアチント、紙	10.5/19.0×6.1/14.0	左下:星が降る 1976 中下:2/75 S.Foutami	
二見彰一	真夜中の公園	1976	アクアチント、紙	8.8/19.0×5.9/13.9	左下:真夜中の公園 1976 中下:15/75 S.Foutami	
二見彰一	Tell Tell Heart	1976	アクアチント、紙	9.4/19.1×6.2/14.1	左下:Tell Tell Heart 1976 中下:64/75 S.Foutami	
二見彰一	小さい空	1976	アクアチント、紙	9.7/18.9×6.2/14.2	左下:小さい空 1976 中下:28/75 S.Foutami 右下:Small Sky	
二見彰一	こぼれた時間(1)	1977	アクアチント、紙	23.0/36.0×32.2/49.8	左下:こぼれた時間(1) 1977 中下:20/50 S.Foutami 右下:Fließende Zeit(1)	
二見彰一	こぼれた時間(2)	1977	アクアチント、紙	32.1/49.7×22.9/36.0	左下:こぼれた時間(2) 1977 中下:16/50 S.Foutami	
二見彰一	風がささやく	1977	アクアチント、紙	24.2/38.2×16.7/28.0	左下:風がささやく 1977 中下:17/50 S.Foutami	
二見彰一	凍ったモニュメント	1977	アクアチント、紙	29.5/49.7×21.0/36.0	左下:凍ったモニュメント 1977 中下:22/50 S.Foutami	
二見彰一	水の中の部屋	1977	アクアチント、紙	24.2/37.8×16.8/28.2	左下:水の中の部屋 1977 中下:24/50 S.Foutami 右下:Wassergemach	
二見彰一	Bonne Nuit	1977	アクアチント、紙	14.6/28.0×9.8/19.0	左下:Bonne Nuit 1977 中下:66/75 S.Foutami	
二見彰一	アリエッタ(2)	1977	アクアチント、紙	10.4/19.0×5.9/14.3	左下:Arietta(2) 1977 中下:49/75 S.Foutami	
二見彰一	やさしい風	1977	アクアチント、紙	7.1/18.9×7.1/14.2	左下:やさしい風 1977 中下:63/75 S.Foutami	
二見彰一	夢占い	1977	アクアチント、紙	7.1/19.1×7.1/14.1	左下:夢占い 1977 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	星の道程	1978	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、紙	32.1/49.5×22.5/35.9	左下:星の道程 1978 中下:42/50 S.Foutami 右下:Planeterabstand	
二見彰一	青い飛行	1978	アクアチント、 ラインエッチング、紙	32.2/49.8×22.3/36.0	左下:青い飛行 1978 中下:10/50 S.Foutami 右下:Blauer Flug	
二見彰一	青い虹	1978	アクアチント、紙	33.6/49.7×21.6/36.0	左下:青い虹 1978 中下:46/50 S.Foutami 右下:Blauer Regenbogen	
二見彰一	星の航跡	1978	アクアチント、紙	23.5/36.0×32.8/49.7	左下:星の航跡 1978 中下:15/50 S.Foutami 右下:TRACE OF THE STARS	
二見彰一	休日の朝	1978	アクアチント、 ラインエッチング、紙	22.0/38.0×16.6/28.0	左下:休日の朝 1978 中下:59/75 S.Foutami	
二見彰一	雨あがり	1978	アクアチント、紙	15.5/28.3×22.0/37.8	左下:雨あがり 1978 中下:25/75 S.Foutami	
二見彰一	虹のたより	1978	アクアチント、紙	25.3/38.0×15.0/28.2	左下:虹のたより 1978 中下:17/75 S.Foutami	
二見彰一	朝のテーブル	1978	アクアチント、 ラインエッチング、紙	20.8/37.8×15.6/28.0	左下:朝のテーブル 1978 中下:e.a. S.Foutami	
二見彰一	聖堂の見える窓	1978	アクアチント、紙	25.2/36.0×17.6/26.0	左下:聖堂の見える窓 1978 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	透る風	1978	アクアチント、紙	15.8/28.0×10.4/19.2	左下:透る風 1978 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	ミッドナイトインブルー	1978	アクアチント、紙	11.4/19.2×13.5/28.5	左下:ミッドナイトインブルー 1978 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	花のコラール	1979	アクアチント、紙	27.4/35.9×33.7/49.0	左下:花のコラール 1979 中下:29/30 S.Foutami 右下:Choral der Blumen	
二見彰一	ハバナラ	1979	アクアチント、紙	27.5/35.7×33.8/49.1	左下:ハバナラ 1979 中下:29/30 S.Foutami 右下:Habanera	
二見彰一	青いメヌエット	1979	アクアチント、紙	27.3/36.0×33.4/49.6	左下:青いメヌエット 1979 中下:15/30 S.Foutami	
二見彰一	五月の星座	1979	アクアチント、紙	27.5/36.0×33.6/49.0	左下:五月の星座 1979 中下:16/30 S.Foutami 右下:Die Konstellation im Mai	
二見彰一	あたらしい星	1979	アクアチント、紙	27.3/36.0×33.5/49.5	左下:あたらしい星 1979 中下:3/30 S.Foutami	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	署名年記	備考
二見彰一	コーヒー・カンタータ(1)	1979	アクアチント、紙	27.5/36.2×33.6/49.8	左下:コーヒー・カンタータ(1) 1979 中下:15/30 S.Foutami	
二見彰一	コーヒー・カンタータ(2)	1979	アクアチント、紙	26.9/36.0×33.1/49.7	左下:コーヒー・カンタータ(2) 1979 中下:7/30 S.Foutami	
二見彰一	河の上の夏の夜	1979	アクアチント、 ラインエッチング、紙	10.5/20.5×7.8/14.9	左下:河の上の夏の夜 1979 三浦敦史「レコードのある部屋」限定版のために 中下:H.C. S.Foutami	
二見彰一	夕べの語らい	1979	アクアチント、紙	6.6/19.0×9.7/14.2	左下:Aberdunterhaltung 1979 中下:12/75 S.Foutami 右下:夕べの語らい	
二見彰一	マイファミリー	1979	アクアチント、紙	3.6/14.0×3.3/10.0	左下:マイファミリー 1979 中下:e.a. S.Foutami	
二見彰一	早朝の訪問(2)	1979	アクアチント、紙	4.5/19.1×6.5/13.0	左下:早朝の訪問(2) 1979 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	九月の月	1979	アクアチント、紙	7.8/18.8×6.8/14.3	左下:September moon 1979 中下:56/75 S.Foutami	
二見彰一	ひとりの宴	1979	アクアチント、紙	9.6/19.4×7.3/13.1	左下:Einziges Mahl 1979 中下:70/75 S.Foutami	
二見彰一	薔薇と予感	1980	アクアチント、紙	32.1/48.9×19.9/35.8	左下:薔薇と予感 1980 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	ガラスのホルン	1980	アクアチント、紙	24.0/35.9×31.1/49.5	左下:ガラスのホルン 1980 中下:22/30 Glashorn 1980 ガラスのホルン S.Foutami 右下:Glashorn	
二見彰一	FIVE POINTS	1980	アクアチント、紙	28.3/49.6×23.0/35.9	左下:FIVE POINTS 1980 中下:9/30 S.Foutami	
二見彰一	星と玻璃	1980	アクアチント、紙	20.3/36.0×32.3/48.7	左下:星と玻璃 1980 中下:E.A. S.Foutami 右下:Stern und Gläser	
二見彰一	ホルンのノクターン	1980	アクアチント、紙	22.4/35.9×31.5/49.5	左下:ホルンのノクターン 1980 中下:17/30 S.Foutami 右下:Nokturne für Horn	
二見彰一	氷壁	1980	アクアチント、紙	22.2/37.6×15.3/28.0	左下:氷壁 1980 中下:21/30 S.Foutami 右下:Eishang	
二見彰一	デニスの部屋	1980	アクアチント、紙	23.9/37.5×16.8/28.0	左下:デニスの部屋 1980 中下:30/30 S.Foutami	
二見彰一	コーヒーのバラード(1)	1980	アクアチント、紙	22.5/38.0×15.8/28.5	左下:コーヒーのバラード 1980 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	静かな誘い(1)	1980	アクアチント、紙	23.0/38.0×15.9/28.3	左下:静かな誘い 1980 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	ふたつのホルン	1980	アクアチント、紙	23.4/37.7×17.6/28.4	左下:ふたつのホルン 1980 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	秋のたより	1980	アクアチント、紙	24.3/38.0×16.7/28.4	左下:秋のたより 1980 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	霧の城	1980	アクアチント、紙	11.0/19.0×7.9/14.4	左下:霧の城 1980 中下:34/75 S.Foutami	
二見彰一	旅の日に	1980	アクアチント、紙	8.5/19.0×4.7/14.4	左下:旅の日に 1980 中下:64/75 S.Foutami	
二見彰一	瞑想的な対話	1980	アクアチント、紙	7.4/14.5×10.7/18.8	左下:瞑想的な対話 1980 中下:29/75 S.Foutami	
二見彰一	ポストホルン	1980	アクアチント、紙	7.3/19.0×4.7/14.6	左下:ポストホルン 1980 中下:24/75 S.Foutami	
二見彰一	夜のかおり(A)	1980	アクアチント、紙	15.4/22.7×9.4/16.0	左下:夜のかおり(A) 1980 中下:e.a. S.Foutami	
二見彰一	夜のかおり(B)	1980	アクアチント、紙	13.8/22.7×8.3/16.1	左下:夜のかおり(B) 1980 中下:e.a. S.Foutami	
二見彰一	ひそやかな贈物	1980	アクアチント、紙	9.4/14.8×6.2/10.8	左下:ひそやかな贈物 Les Geschenk 1980 中下:32/75 S.Foutami	
二見彰一	コーヒーのバラード(2)	1981	アクアチント、紙	19.3/37.8×13.0/28.5	左下:コーヒーのバラード(2) 1981 中下:23/30 S.Foutami	
二見彰一	青いホルン(夜明)	1981	アクアチント、紙	29.3/48.9×19.3/35.8	左下:青いホルン(夜明) 1981 中下:16/30 S.Foutami	
二見彰一	空に向かって	1981	アクアチント、紙	10.0/18.9×6.8/14.4	左下:空に向かって 1981 中下:e.a. S.Foutami 右下:In den Himmel	
二見彰一	ファンタスティックな街	1981	アクアチント、紙	9.1/18.7×8.3/14.4	左下:ファンタスティックな街 1981 中下:28/75 S.Foutami 右下:Phantastische stadt	
二見彰一	青い花	1981	アクアチント、紙	9.8/21.2×6.9/15.0	左下:青い花 1981 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	カクテルタイム	1981	アクアチント、紙	14.3/26.5×9.5/19.0	左下:カクテルタイム 1981 中下:E.A. S.Foutami	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	署名年記	備考
二見彰一	深海の蝶	1981	アクアチント、紙	8.8/18.8×4.7/14.3	左下:深海の蝶 1981 中下:15/75 S.Foutami	
二見彰一	凍ったつぼみ	1982	アクアチント、 ソフトグランドエッチング、紙	22.3/37.7×16.3/28.0	左下:凍ったつぼみ 1982 中下:16/30 S.Foutami 右下:Gefrorene Knospe	
二見彰一	Space Focus(1)	1982	アクアチント、 ソフトグランドエッチング、紙	28.4/48.8×18.3/34.0	左下:Space Focus(1) 1982 中下:25/30 S.Foutami	
二見彰一	凍った海(2)	1982	アクアチント、 ソフトグランドエッチング、紙	17.8/38.0×17.1/28.6	左下:凍った海(2) 1982 中下:E.A. S.Foutami 右下:Gefrorenes Meer(2)	
二見彰一	深夜のクレシエンド	1982	アクアチント、紙	21.5/37.8×16.0/28.5	左下:深夜のクレシエンド 1982 中下:5/30 S.Foutami	
二見彰一	静かな誘い(2)	1982	アクアチント、紙	19.5/37.6×13.8/28.0	左下:静かな誘い(2) 1982 中下:25/30 S.Foutami 右下:Ruhige Einladung(2)	
二見彰一	無言歌・冬	1982	アクアチント、 ソフトグランドエッチング、紙	19.1/28.0×21.7/37.7	左下:無言歌・冬 1982 中下:14/30 S.Foutami 右下:Lied ohne Wort:Winter	
二見彰一	無言歌・早春	1982	アクアチント、 ソフトグランドエッチング、紙	21.6/37.7×16.4/27.8	左下:無言歌・早春 1982 中下:13/30 S.Foutami	
二見彰一	冬の華	1982	アクアチント、紙	5.8/20.6×5.8/13.8	左下:冬の華 1982 中下:51/75 S.Foutami 右下:Winterblume	
二見彰一	旅立ち	1982	アクアチント、紙	10.0/19.1×8.3/14.4	左下:旅立ち Abflug 1982 中下:2/75 S.Foutami	
二見彰一	青い杯	1982	アクアチント、紙	15.4/26.5×10.1/19.2	左下:青い杯 1982 中下:e.a. S.Foutami	
二見彰一	フライブルクの朝	1982	アクアチント、紙	14.3/26.5×9.8/19.2	左下:フライブルクの朝 1982 中下:S.Foutami 右下:Morgen in Freiburg	
二見彰一	窓辺の対話	1982	アクアチント、紙	11.0/25.5×11.0/21.0	左下:窓辺の対話 1982 中下:E.P. S.Foutami	
二見彰一	アンダンテ・カンタビレ	1983	アクアチント、紙	24.6/35.0×30.7/47.7	左下:Andante Cantabile 1983 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	透る音(1)	1983	アクアチント、紙	25.5/48.7×24.9/35.0	左下:夜へのプレリュード透る音"1983 中下:34/35 S.Foutami 右下:Transparente Pläuge(1)	
二見彰一	舞う音(1)	1983	アクアチント、紙	24.7/35.8×31.2/48.5	左下:Vorspiel zur Nacht Tanzende Bruchstücke(1) 中下:17/35 S.Foutami 右下:夜へのプレリュード 舞う音(1)	
二見彰一	浮ぶ花(1)	1983	アクアチント、紙	30.4/48.6×23.5/35.9	左下:Schwebende Blumen(1) 1983 中下:28/35 S.Foutami 右下:浮ぶ花(1)	
二見彰一	瞑想の時	1983	アクアチント、紙	33.8/48.7×20.8/35.0	左下:瞑想の時 1983 中下:7/35 S.Foutami	
二見彰一	夜への扉	1983	アクアチント、紙	31.7/48.8×23.3/35.8	左下:夜への扉 1983 中下:9/35 S.Foutami 右下:Dir Tür zur Nacht	
二見彰一	もう一度バッハを	1983	アクアチント、紙	23.0/34.9×33.7/47.5	左下:もう一度バッハを 1983 中下:1/25 S.Foutami 右下:Bach-Musik nochmals!	
二見彰一	北海のポンプハウス	1983	アクアチント、紙	9.8/19.0×8.1/14.0	左下:北海のポンプハウス Pompwerk au den Nordsee 1983 中下:18/75 S.Foutami	
二見彰一	夜明けの詩	1983	アクアチント、紙	11.9/18.9×7.6/14.3	左下:夜明けの詩 Lied in Morgen grauen 1983 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	エメラルドの夜(1)	1984	アクアチント、紙	24.3/35.8×30.3/48.8	左下:エメラルドの夜(1) 1984 中下:8/35 S.Foutami 右下:Smaragd Nacht(1)	
二見彰一	エメラルドの夜(2)	1984	アクアチント、紙	33.1/48.7×25.1/35.8	左下:エメラルドの夜(2) 1984 中下:1/35 S.Foutami	
二見彰一	舞う音(2)	1984	アクアチント、紙	25.5/36.0×30.4/48.5	左下:舞う音(2) Tanzende Bruchstück(2) 中下:15/35 S.Foutami	
二見彰一	花のグリサンド(2)	1984	アクアチント、紙	21.7/35.8×33.9/48.7	左下:Vorspiel zur Nacht Blumen Glissendo(2) 1984 中下:8/35 S.Foutami 右下:花のグリサンド(2)	
二見彰一	浮ぶ花(2)	1984	アクアチント、紙	33.6/48.6×20.8/35.9	左下:Schwebende Blumen (2) 1984 中下:10/35 S.Foutami 右下:浮ぶ花(2)	
二見彰一	風の中のモーツァルト	1984	アクアチント、紙	31.9/48.8×22.0/35.7	左下:風のモーツァルト 1984 中下:1/35 S.Foutami	
二見彰一	五月の音色	1984	アクアチント、紙	32.5/48.8×23.0/35.8	左下:五月の音色 1984 中下:23/35 S.Foutami 右下:Klänge im Mai	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	署名年記	備考
二見彰一	ふたつの塔	1984	アクリル、紙	8.6/19.1×9.6/14.4	左下:ふたつの塔 1984 中下:14/75 S.Foutami	
二見彰一	マリーエン教会	1984	アクリル、紙	9.0/19.0×8.4/14.3	左下:マリーエン教会 1984 中下:36/75 S.Foutami	
二見彰一	春の月(1)	1984	アクリル、紙	7.4(直径)×7.4(直径)	左下:春の月(1) Mond in Frühling 1984 中下:e.a. S.Foutami	
二見彰一	旅愁	1985	アクリル、紙	27.2/37.8×16.8/27.8	左下:旅愁 1985 中下:17/35 S.Foutami	
二見彰一	緑の城館	1985	アクリル、 デカルコマニー、紙	27.8/49.0×19.7/36.0	左下:緑の城館 1985 中下:13/35 S.Foutami	
二見彰一	風のモノローグ	1985	アクリル、 ソフトグラウンドエッチング、紙	20.0/37.8×16.2/28.6	左下:風のモノローグ 1985 中下:28/35 S.Foutami	
二見彰一	風の対話	1986	アクリル、 ソフトグラウンドエッチング、紙	34.6/48.1×24.9/35.8	左下:風の対話 1986 中下:27/35 S.Foutami	
二見彰一	ヴェネツィアの風	1986	アクリル、 ソフトグラウンドエッチング、紙	23.0/35.6×31.4/48.9	左下:ヴェネツィアの風 1986 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	海のホルン	1986	アクリル、紙	23.6/35.8×32.7/48.9	左下:海のホルン 1986 中下:34/35 S.Foutami	
二見彰一	ブラハの風	1986	アクリル、紙	23.3/38.2×17.0/25.3	左下:ブラハの風 1986 中下:H.C. S.Foutami	
二見彰一	英国紅茶	1986	アクリル、紙	13.0/28.8×11.4/20.0	左下:英国紅茶 1986 中下:58/100 S.Foutami	
二見彰一	茶室にて	1986	アクリル、紙	11.2/28.5×8.6/20.0	左下:茶室にて 1986 中下:58/100 S.Foutami	
二見彰一	お茶をどうぞ	1986	アクリル、 ラインエッチング、紙	14.0/28.5×10.6/20.0	左下:お茶をどうぞ 1986 中下:57/100 S.Foutami	
二見彰一	朝のテーマ	1987	アクリル、紙	14.5/28.5×14.5/21.2	左下:朝のテーマ 1987 中下:42/75 S.Foutami 右下: Morgenstunde	
二見彰一	コンサートへの招待(1)	1988	アクリル、紙	35.8/48.9×18.2/35.9	左下:コンサートへの招待(1) 1988 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	コンサートへの招待(2)	1988	アクリル、紙	34.1/48.9×20.0/35.8	左下:コンサートへの招待(2) 1988 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	バッハとジャズと	1989	アクリル、紙	23.0/35.8×32.3/48.9	左下:Bach und Jazz 1989 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	ホルンのユモレスク	1989	アクリル、紙	32.0/48.9×23.0/35.7	左下:Humoreske für Hörner 1989 中下:21/35 S.Foutami 右下:ホルンのユモレスク	
二見彰一	グラス・セレナード	1989	アクリル、紙	32.0/38.0×17.0/28.3	左下:Glas Serenade 1989 中下:18/35 S.Foutami 右下:グラス・セレナード	
二見彰一	ブラウン・アーチ	1989	アクリル、紙	16.5/38.0×24.4/28.0	左下:ブラウン・アーチ 1989 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	微風の季節	1989	アクリル、 ソフトグラウンドエッチング、紙	10.6/23.0×10.0/18.7	左下:微風の季節 1989 中下:e.a. S.Foutami	
二見彰一	グラス・ノクターン	1990	アクリル、紙	21.5/36.0×17.0/27.0	左下:グラス・ノクターン 1990 中下:H.C. S.Foutami	
二見彰一	風の色	1990	アクリル、 ソフトグラウンドエッチング、紙	14.8/28.3×10.6/19.0	左下:風の色 Farbe des Windes 1990 中下:e.a. S.Foutami	
二見彰一	早春	1990	アクリル、紙	12.0/20.9×8.1/16.0	左下:早春 1990 中下:H.C. S.Foutami	
二見彰一	プレーメンのドーム・夏	1990	アクリル、紙	13.0/25.6×13.0/21.0	左下:プレーメンのドーム・夏 Am Dom, Sommer in Bremen 1990 中下:10/50 S.Foutami	
二見彰一	プレーメンのドーム・秋	1990	アクリル、紙	13.0/25.8×13.0/21.0	左下:プレーメンのドーム・秋 1990 中下:e.a. S.Foutami	
二見彰一	「黄昏の古都物語」から	1990	アクリル、紙	13.5/23.1×9.9/19.0	左下:「黄昏の古都物語」から 1990 辻邦生「黄昏 の古都物語」限定版のため 中下:H.C. S.Foutami	
二見彰一	ハーブのために	1991	アクリル、紙	23.0/35.7×30.0/48.8	左下:ハーブのために 1991 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	透る風	1991	アクリル、 ソフトグラウンドエッチング、紙	31.4/48.9×24.0/35.8	左下:透る風 1991 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	弦のアリア	1991	アクリル、紙	21.7/35.9×33.7/48.9	左下:弦のアリア 1991 中下:22/35 S.Foutami	
二見彰一	駿河台ニコライ堂	1992	アクリル、 ソフトグラウンドエッチング、紙	41.5/48.9×28.0/35.9	左下:駿河台ニコライ堂(東京百景のために)1992 中下:P.P. Russischen Dom 1992 S.Foutami	
二見彰一	ミニ・デュエット	1992	アクリル、紙	10.9/20.8×7.6/15.1	左下:ミニ・デュエット 1992 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	スプリング・ソナタ	1993	アクリル、コラージュ、紙	22.8/33.2×31.7/46.0	左下:スプリング・ソナタ 1993 中下:E.A. S.Foutami	
二見彰一	プラネットから(1)	1993	アクリル、紙	25.6/38.0×20.2/28.4	左下:プラネットから(1) 1993 中下:17/35 S.Foutami	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	署名年記	備考
二見彰一	森霜月	1993	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、紙	15.2/26.8×10.1/21.0	左下：森霜月 Wald im November 1993 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	ふたつのホルンのために(1)	1994	アクアチント、紙	19.6/36.0×29.8/48.8	左下：ふたつのホルンのために(1) 1994 中下：15/35 S.Foutami 右下：Für Zwei Hörner(1)	
二見彰一	ふたつのホルンのために(2)	1994	アクアチント、紙	20.9/33.2×29.6/45.5	左下：ふたつのホルンのために(2) 1994 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	青の軌跡	1994	アクアチント、紙	33.0/48.8×22.6/36.0	左下：青の軌跡 1994 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	海のノスタルジア	1994	アクアチント、紙	26.6/38.0×17.7/28.5	左下：海のノスタルジア 1994 中下：16/35 S.Foutami	
二見彰一	トランベットのモノローグ	1994	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、紙	10.8/25.5×9.9/18.2	左下：トランベットのモノローグ 1994 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	夏の庭	1994	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、紙	13.6/25.4×11.4/18.3	左下：夏の庭 Garten in Sommer Erinnerung an Friesland 1994 中下：9/75 S.Foutami	
二見彰一	水辺のバラード	1995	アクアチント、紙	19.3/28.5×25.2/37.8	左下：水辺のバラード 1995 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	朝のホルン	1995	アクアチント、紙	20.1/28.5×27.0/38.2	左下：Horn am Morgen 1995 中下：21/35 S.Foutami 右下：朝のホルン	
二見彰一	初夏のファンファーレ	1995	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、紙	13.0/26.7×13.0/21.0	左下：初夏のファンファーレ 1995 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	ホークジールの思い出	1995	アクアチント、紙	9.7/19.1×5.8/14.2	左下：ホークジールの思い出 1995 中下：e.a. S.Foutami	
二見彰一	華やかな終幕	1995	アクアチント、紙	4.9/14.5×4.8/14.5	左下：華やかな終幕 Magnificent Ending 1995 中下：e.a. S.Foutami	
二見彰一	青い帆走	1996	アクアチント、紙	19.5/28.2×25.3/37.9	左下：青い帆走 1996 中下：21/35 S.Foutami	
二見彰一	旅立ち(2)	1996	アクアチント、紙	4.5/18.2×6.8/14.1	左下：旅立ち(2) 1996 中下：37/50 S.Foutami	
二見彰一	地平へ(1)	1997	アクアチント、紙	23.7/35.9×29.0/48.6	左下：To Horizon 1997 中下：e.a. S.Foutami 右下：地平へ(1)	
二見彰一	地平へ(2)	1997	アクアチント、紙	29.7/48.5×22.7/35.8	左下：地平へ(2) 1997 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	波のフーガ(2)	1998	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、 コラージュ、紙	22.8/36.0×30.4/48.7	左下：波のフーガ(2) 1998 中下：e.a. S.Foutami	
二見彰一	バロックの塔を望む	1998	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、紙	16.1/23.6×11.0/17.0	左下：バロックの塔を望む 1998 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	2000年へのプレリュード	1999	アクアチント、紙	27.6/36.0×33.8/49.0	左下：2000年へのプレリュード 1999 中下：H.C. S.Foutami Präludum zum Jahr 2000	
二見彰一	クラシックな夜(1)	1999	アクアチント、紙	28.5/48.7×22.8/35.8	左下：Classic Night(1) 1999 中下：e.a. S.Foutami	
二見彰一	クラシックな夜(2)	1999	アクアチント、紙	28.2/48.7×23.0/35.8	左下：Classic Nigh(2) 1999 中下：H.C. S.Foutami	
二見彰一	初旅の思い出	2000	アクアチント、紙	10.2/19.0×7.5/16.0	左下：初旅の思い出 2000 中下：E.A. S.Foutami	
二見彰一	エメラルド・エコー	2002	アクアチント、 ソフトグラウンドエッチング、紙	6.0/13.3×6.0/12.0	左下：エメラルド・エコー 2002 中下：e.a. S.Foutami	

#### その他・資料

二見彰一	銅版画集『お茶のひととき』(6点組)の原版 全11点					
	はじめに	1994	-	8.2×6.3	-	
	茶の本	1994	-	各10.5×7.5	-	2点組
	サイコロジー	1994	-	各9.9×8.4	-	2点組
	ティーをめぐって	1994	-	各11.9×8.3	-	2点組
	禅と日本文化	1994	-	各10.7×7.8	-	2点組
	アイルランド日記	1994	-	各12.2×8.8	-	2点組

#### 〈宮田佳子氏寄贈〉

##### 油彩画・アクリル画など

宮田重雄	横浜風景	1923	油絵具、カンヴァス	44.0×52.0	-	
------	------	------	-----------	-----------	---	--

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	署名年記	備考
〈矢嶋隆氏寄贈〉						
油彩画・アクリル画など						
矢嶋美枝子	暴走	1957	油絵具、カンヴァス	73.0×91.0	右下：M.Yajima	
矢嶋美枝子	えだ	1957	油絵具、カンヴァス	45.7×38.0	－	
矢嶋美枝子	はちうえ	1957頃	油絵具、カンヴァス	91.0×72.8	－	
矢嶋美枝子	饗宴の森へ流れる I - A	1992	アクリル絵具、カンヴァス	145.5×112.3	－	
〈湯原和夫氏寄贈〉						
彫刻・インスタレーション						
湯原和夫	作品 No.5-68	1968	鉄、クロームメッキ	77.0×37.0×37.0	－	
湯原和夫	作品 No.11-70	1970	アルミニウム、 鏡面研磨、人造毛皮	90.0×55.0×70.0	－	
湯原和夫	無題 No.1-86	1986	鉄、亜鉛メッキ、ガラス	133.4×107.1×108.1	－	
湯原和夫	無題 95-4	1993-95	鉄、焼付塗装	211.0×255.4×255.4	－	
湯原和夫	無題 00-2	2000	フェルト、スチール	130.0×130.0×130.0	－	
湯原和夫	作品 No.5-03	2003	シリコン、ガラス	21.0×49.0(各21.3)×3.0	－	
〈吉村洋子氏寄贈〉						
写真・印刷物						
吉村弘	KAMAKURA SOUND LOGO 1	2003	印刷(インクジェット)、紙	11.8×13.5	－	
吉村弘	KAMAKURA SOUND LOGO 2	2003	印刷(インクジェット)、紙	11.4×13.1	－	
吉村弘	HAYAMA SOUND LOGO 1	2003	印刷(インクジェット)、紙	11.8×13.3	－	
吉村弘	HAYAMA SOUND LOGO 2	2003	印刷(インクジェット)、紙	11.3×13.4	－	

## 館外貸出作品一覧

開催初日が2008年度内のものに限る。

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」 会場(会期)
1	1	中村岳陵《気球揚がる(下図)》	「中村岳陵展」 横須賀美術館(2008年4月1日-5月11日)
2	2	寄託作品(油彩)	「藤井達吉のいた大正 大正の息吹を体現したフェウザン会と前衛の芸術家たち」 碧南市藤井達吉現代美術館(2008年4月5日-6月8日)
3	3	木下孝則《読書》	「昭和の <sup>フューザン</sup> 気品、横浜の洋画家・木下孝則展」 横浜美術館(2008年4月11日-6月8日)
4	4	土方久功《月》	「美術家たちの『南洋群島』」 町田市立国際版画美術館(2008年4月12日-6月22日)、
	5	土方久功《蜃蜃占》	高知県立美術館(7月13日-9月15日)、沖縄県立博物館・美術館(11月7日-2009年1月18日)
	6	土方久功《まひるの夢》(レリーフ)	「同展」 町田市立国際版画美術館(2008年4月12日-6月22日)
	7	土方久功《まひるの夢》(水彩)	
	8	土方久功《ゆうべのアンニュイ》(レリーフ)	
	9	土方久功《夕べのアンニュイ》(水彩)	
	10	土方久功《妖霊》(レリーフ)	
	11	土方久功《妖霊》(水彩)	
	12	土方久功《何かきこえる》(レリーフ)	「同展」 高知県立美術館(7月13日-9月15日)、沖縄県立博物館・美術館(11月7日-2009年
	13	土方久功《何かきこえる》(水彩)	1月18日)
	14	土方久功《南島閑日》(レリーフ)	
	15	土方久功《南島閑語》(水彩)	
5	16	《歡喜天曼荼羅》	「曼荼羅 つどうほとけたち」 神奈川県立金沢文庫(2008年 4月18日-5月25日)
	17	《五秘密菩薩図》	
	18	《両界曼荼羅(金剛界)》	
	19	《両界曼荼羅(胎藏界)》	
6	20	アルブレヒト・デューラー《『ヨハネ黙示録』 龍と闘う大天使ミカエル》	「実篤 美術への眼差し」 調布市武者小路実篤記念館(前期:2008年4月26日-5月18日)
	21	ウィリアム・ブレイク《『神曲』1 愛欲者の圏:フラン チェスカ・ダ・リミニ(恋人たちのつむじ風)》	
	22	ウィリアム・ブレイク《『ヨブ記』第14図:明けの星 が相共に歌う時》	
	23	オディロン・ルドン《『聖アントワヌの誘惑』 第3集(ギュスタヴ・フロベールの原文による) 4 …わが口づけは汝の心にとろける果物の味 ……汝はわれをさげすむ。さよなら!	
	24	オディロン・ルドン《『聖アントワヌの誘惑』 第3集(ギュスタヴ・フロベールの原文による) 5 …花が散り 怪しい蛇の頭が現われる》	
	25	アルブレヒト・デューラー《『ヨハネ黙示録』 太陽の女と7つの顔をもつ龍》	「同展・同館」(後期:2008年5月19日-6月1日)
	26	ウィリアム・ブレイク《『神曲』7 ボッカ・デリ・アバ ーティにつまづくダンテ》	
	27	ウィリアム・ブレイク《『ヨブ記』第21図:繁栄を回 復したヨブとその家族》	
	28	オディロン・ルドン《『聖アントワヌの誘惑』第3集 (ギュスタヴ・フロベールの原文による) 7 … そして彼は乾いた起伏のある平原を見わたる	
	29	オディロン・ルドン《『聖アントワヌの誘惑』第3集 (ギュスタヴ・フロベールの原文による) 23 … オケアノスにはさまざまな人々が住んでいる》	
7	30	前田寛治《風景》	「前田寛治のバリ」 鳥取県立博物館(2008年5月19日-6月22日)、大阪市立近代美術館
	31	前田寛治《裸婦》	(仮称)心齋橋展示室(6月28日-8月3日)
8	32	片岡球子《面構 葛飾北斎》	「富士山展 近代に展開した日本の象徴」 山梨県立美術館(2008年6月7日-7月21日)
9	33	岸田劉生《童女図(麗子立像)》	「画家 岸田劉生の軌跡-油彩画、装丁画、水彩画などを中心に」 ニューオータニ美術 館(2008年6月28日-9月7日)

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」 会場(会期)
10	34	藤田嗣治《二人裸婦》	「没後40年 レオナルド・フジタ展」 北海道立近代美術館(2008年7月12日-9月4日)、宇都宮美術館(9月14日-11月9日)、上野の森美術館(11月15日-2009年1月18日)
11	35	片岡球子《海(鳴門)》	「特別展示 片岡球子展」 愛知県美術館(2008年7月28日-10月15日)
	36	片岡球子《火山(浅間山)》	
	37	片岡球子《火山(浅間山)》	
	38	片岡球子《カナ》	
	39	片岡球子《幻想》	
	40	片岡球子《面構 足利尊氏》	
	41	片岡球子《面構 足利義政》	
	42	片岡球子《面構 足利義満》	
	43	片岡球子《面構 安藤広重》	
	44	片岡球子《面構 上杉謙信と直江山城守》	
	45	片岡球子《面構 葛飾北斎》	
	46	片岡球子《面構 喜多川歌麿と鳥居清長》	
	47	片岡球子《面構 国貞改め三代豊国》	
	48	片岡球子《面構 鳥文斎栄之》	
	49	片岡球子《面構 東洲斎写楽》	
	50	片岡球子《面構 等持院殿》	
	51	片岡球子《面構 徳川家康公》	
	52	片岡球子《面構 豊太閤と黒田如水》	
	53	片岡球子《面構 日蓮》	
	54	片岡球子《面構 白隠》	
	55	片岡球子《面構 山崎辨栄上人・狛則承陵王楽人》	
12	56	ピート・モンドリアン《コンポジション》	「オランダの版画とモダンデザイン レンブラントからエッシャー、モンドリアン、リートフェルト、ブルーナまで」 石川県七尾美術館(2008年8月2日-9月15日)
13	57	安藤伸太郎《日本の寺の内部》	「明治の洋画 解説から鑑賞へ」 茨城県近代美術館(2008年8月2日-9月23日)
	58	高橋由一《江の島図》	
14	59	山口蓬春《雲崗第一洞にて》	「山口蓬春写生展 観たまま、感じたまま、知ったままの素描」 山口蓬春記念館(2008年8月5日-10月5日)
	60	山口蓬春《雲崗第六洞にて》	
	61	山口蓬春《花(台湾林本源庭園にて)》	
	62	山口蓬春《飛天大同雲崗第二十洞》	
	63	山口蓬春《仏相花》	
	64	山口蓬春《舞踏人物》	
	65	山口蓬春《菩薩大同雲崗第一洞》	
	66	山口蓬春《松花江》	
	67	山口蓬春《力士俑(一)》	
15	68	五姓田義松《港(横浜風景)》	「五姓田のすべて-近代絵画への架け橋-」 神奈川県立歴史博物館(2008年8月9日-9月28日)、岡山県立美術館(10月7日-11月9日)
	69	寄託作品(油彩)	
16	70	山口薫《神話Ⅱ》	「山口薫展」 群馬県立近代美術館(2008年9月6日-10月28日)、世田谷美術館(11月3日-12月23日)、三重県立美術館(2009年1月4日-2月22日)
	71	山口薫《千手(黒夫人)像》	
	72	寄託作品(油彩)	
17	73	佐伯祐三《自画像》	「没後80年記念 佐伯祐三展-パリで夭折した天才画家の道-」 大阪市立近代美術館(仮称)心斎橋展示室(2008年9月9日-10月19日)、高松市美術館(10月24日-12月7日)、北海道立近代美術館(2009年4月24日-6月14日)、新潟県立万代島美術館(7月4日-8月30日)
	74	佐伯祐三《滞船》	
	75	寄託作品(油彩)	
	76	寄託作品(油彩)	
18	77	堀文子《蓮》	「第2回所蔵品展特別出品(生誕100年記念 秋野不矩展交換展)」 秋野不矩美術館(2008年9月11日-10月19日)
	78	堀文子《初秋》	
	79	堀文子《霧氷》	
	80	三谷十糸子《蝶(Papillon)》	
	81	三谷十糸子《夜の海》	
19	82	高山辰雄《夜》	「高山辰雄遺作展 人間の風景」 練馬区立美術館(2008年9月13日-11月3日[後期:10月11日-11月3日のみ])

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」 会場(会期)
20	83	田淵安一《インディアン・サマー IV》	「第72回新制作展 田淵安一特別展示」 国立新美術館(2008年9月17日-9月29日)
	84	田淵安一《黒い火山 III》	
	85	田淵安一《危険な水路》	
	86	田淵安一《日没の樹(「未完の季節」No.38)》	
	87	田淵安一《ヘスペリデスの園》	
21	88	渡辺豊重《カッカカラカラ》	「六つの軌跡 川崎の作家」 新百合21(トウェンティワン)多目的ホール(2008年9月20日-9月29日)
	89	渡辺豊重《庭には光がいっぱい》	
	90	渡辺豊重《みどりの中の一つの白(ピクニック)》	
22	91	山口蓬春《朝顔》	「超『日本画』モダニズム-堂本印象・児玉希望・山口蓬春-」 京都府立堂本印象美術館(2008年10月3日-11月30日)
	92	山口蓬春《五つのりんご》	
	93	山口蓬春《宴》	
	94	山口蓬春《宴(下図)》	
	95	山口蓬春《海老》	
	96	山口蓬春《がく紫陽花と菖蒲》	
	97	山口蓬春《栗》	
	98	山口蓬春《九龍碼頭》	
	99	山口蓬春《九龍碼頭を望む》	
	100	山口蓬春《古赤絵列仙図鈔》	
	101	山口蓬春《サイゴン》	
	102	山口蓬春《新京》	
	103	山口蓬春《筍》	
	104	山口蓬春《とちの木(秋下図)》	
	105	山口蓬春《梨(春下図)》	
23	112	フランシスコ・ゴヤ・イルシエンテス《版画集『戦争の惨禍』33 さらになにをすべきか?》	「スタジオジブリが描く乱世。堀田善衛展」 県立神奈川近代文学館(2008年10月4日-11月24日)
	113	フランシスコ・ゴヤ・イルシエンテス《版画集『戦争の惨禍』39 立派なお手柄! 死人を相手に!》	
	114	フランシスコ・ゴヤ・イルシエンテス《版画集『戦争の惨禍』44 私は見た》	
	115	フランシスコ・ゴヤ・イルシエンテス《版画集『戦争の惨禍』45 そしてこれも見た》	
	116	山下新太郎《百合子像》	
25	117	佐藤哲三《クンセイ》	「佐藤哲三の時代」 新潟県立万代島美術館(2008年10月11日-12月14日)
	118	寄託作品(油彩)	
	119	寄託作品(油彩)	
	120	寄託作品(油彩)	
	121	寄託作品(油彩)	
	122	寄託作品(油彩)	
	123	寄託作品(油彩)	
	124	寄託作品(油彩)	
	125	寄託作品(油彩)	
	126	寄託作品(油彩)	
	127	寄託作品(油彩)	
	128	寄託作品(油彩)	
	129	寄託作品(水彩)	
26	130	米林雄一《CUBIC CASTLE》	「米林雄一展 微空からの波動」 東京藝術大学美術館(2008年10月17日-11月3日)

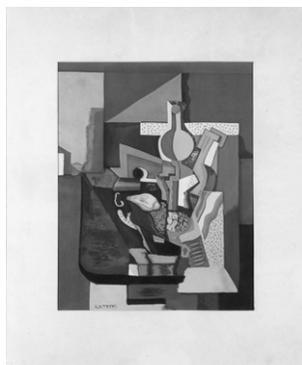
件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」 会場(会期)
27	131	俵屋宗達《狗子図》	「朝鮮王朝の絵画と日本 宗達、大雅、若冲も学んだ隣国の美」 栃木県立美術館(2008年11月2日-12月14日)、静岡県立美術館(2009年2月17日-3月29日)、仙台市立博物館(4月17日-5月24日)、岡山県立美術館(6月5日-7月12日)
28	132	麻生三郎《女》	「新人画会展 戦時下の画家たち 絵があるから生きている」 板橋区立美術館(2008年11月22日-2009年1月12日)
	133	鶴岡政男《死の静物(松本竣介の死)》	
	134	松本竣介《橋(東京駅裏)》	
	135	寄託作品(油彩)	
	136	松本竣介《立てる像》	
29	137	石垣栄太郎《街》	「アメリカの見た夢 1920-30年代の絵画、写真、デザインと日本」 島根県立石見美術館(2009年1月2日-3月9日)
30	138	山本正道《ポートレイト》	「退任記念 山本正道展 刻まれた時の記憶」 東京藝術大学美術館(2009年1月8日-1月25日)
	139	山本正道《ポートレイト》	
31	140	森芳雄《動》	「没後35年 香月泰男と1940-50年代の絵画 時代の造形詩-モダニズムから新たな地平へ」 下関市立美術館(2009年2月5日-3月22日)
32	141	上村松篁《杜若》	「上村松園・松篁・淳之 三代展」 東京・日本橋高島屋(2009年3月4日-3月16日)、大阪高島屋(3月25日-4月6日)、京都高島屋(4月8日-4月19日)、横浜高島屋(4月22日-5月11日)、ジェイアール名古屋高島屋(5月21日-6月1日)
33	142	片岡球子《海(小田原海岸)》	「追悼103歳 天に献げる地上の花 片岡球子展」 名古屋・松坂屋美術館(2009年3月20日-4月12日)、大阪高島屋(4月15日-4月26日)、岡山県立美術館(4月29日-5月17日)、東京・日本橋高島屋(5月20日-6月1日)
	143	片岡球子《海(鳴門)》	
	144	片岡球子《海(真鶴の海)》	
	145	片岡球子《火山(浅間山)》	
	146	片岡球子《火山(浅間山)》	
	147	片岡球子《カナナ》	
	148	片岡球子《幻想》	
	149	片岡球子《面構 足利尊氏》	
	150	片岡球子《面構 足利義満》	
	151	片岡球子《面構 足利義政》	
	152	片岡球子《面構 葛飾北斎》	
	153	片岡球子《面構 鳥文斎栄之》	
	154	片岡球子《面構 東洲斎写楽》	
	155	片岡球子《面構 豊太閤と黒田如水》	
	156	片岡球子《面構 日蓮》	
	157	片岡球子《面構 白隠》	
	158	片岡球子《剃髪》	

当館を含む巡回展への貸出作品一覧

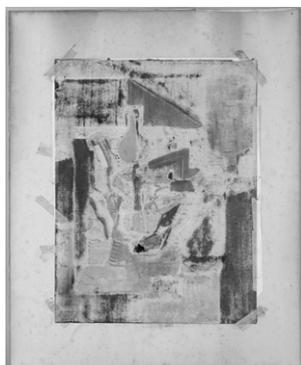
2008年度内に巡回したものに限り。

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」 会場(会期)
1	1	青木繁《真・善・美》	「誌上のユートピア-近代日本の絵画と美術雑誌1889-1915」 神奈川県立近代美術館 葉山(2008年1月26日-3月9日)、うらわ美術館(4月26日-6月8日)、愛知県美術館(6月14日-7月27日)
	2	織田一磨《『東京風景版画集』1 上野廣小路》	
	3	織田一磨《『東京風景版画集』3 目白阪下》	
	4	織田一磨《『東京風景版画集』4 待乳山から隅田川》	
	5	織田一磨《『東京風景版画集』6 十二階》	
	6	織田一磨《『東京風景版画集』9 洲崎之景》	
	7	織田一磨《『東京風景版画集』19 本郷龍岡町》	
	8	久米民十郎《Off England》	
	9	久米民十郎《男子裸像》	
	10	小出橋重《原田良吉宛絵葉書(1908年2月22日)》	
	11	小出橋重《原田良吉宛絵葉書(1908年6月7日)》	
	12	坂本繁二郎《棕呂の見える風景》	

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」 会場(会期)
1	13	南薫造 模写(バーン・ジョーンズ原画) 《夫の無事の帰還を願うプルーターニュのドリゲン》	
	14	山口蓬春《スケッチブック1(S.Y.の署名のある水彩スケッチ)豪徳寺》	
	15	寄託作品(油彩)	
	16	寄託作品(油彩)	
	17	『ユーゲント』第1巻第1・2合併号、第1巻第5号、第1巻第7-8号、第1巻10-12号、第1巻第14-15号、第1巻第20号、第1巻第33号、第1巻第35号、第1巻第40号、第1巻第43-45号、第1巻第49号、第2巻第4号、第2巻第10号、第2巻第25号、第2巻第28号、第2巻第33号、第2巻第40号、第2巻第42号(高野三三男文庫)	
	18	『國華』第1号、第12号、第19号、第36号、第85号(山口蓬春文庫)	
2	19	絵入小唄集『三味線草』竹久夢二著・装丁、1915年、新潮社(山口蓬春文庫)	
	20	『方寸』第2巻第3号	
	21	アンリ・マティス《横たわる踊り子》(《踊り子十態》より)	「マティスとボナール——地中海の光の中へ——」 川村記念美術館(2008年3月15日-5月25日)、神奈川県立近代美術館 葉山(5月31日-7月27日) [『ジャズ』については当館のみ出品]
	22	アンリ・マティス《肘をつく踊り子》(《踊り子十態》より)	
	23	アンリ・マティス《左に傾けた首》	
	24	アンリ・マティス『シャルレ・ドルレアン詩集』(山口蓬春文庫)	
25	アンリ・マティス素描集「主題と変奏」(山口蓬春文庫)		
26	アンリ・マティス『ジャズ』		
3	27	『ヴェルヴ』I-1, I-3, II-8, IV-13, V-17, V-18, VI-21/22, VI-23, IX-35/36(山口蓬春文庫)	
	28	岸田劉生《童女図(麗子立像)》	「SELF and OTHER アジアとヨーロッパの肖像」 国立民族学博物館(2008年9月11日-11月25日)、福岡アジア美術館(12月6日-2009年1月25日)、神奈川県立歴史博物館(2月7日-3月29日)
	29	中原悌二郎《若きカフカス人》	
	30	藤島武二《T氏肖像》	
	31	寄託作品(油彩)	
	32	アルベルト・ジャコメッティ《イサク・ヤナイハラ	[同展] 国立国際美術館(2008年9月30日-11月24日)、神奈川県立近代美術館 葉山(2009年2月7日-3月29日)
	33	オーギュスト・ロダン《花子のマスク》	
	34	チャールズ・ワーグマン《妻 カネ》	
	35	チャールズ・ワーグマン《二人の日本人女性》	
	36	浅井忠《河合辰太郎肖像》	
	37	有島生馬《舞台衣装》	
	38	岸田劉生《近藤医学博士之像》	
	39	草間彌生《自画像》	
	40	草間彌生《自画像》	
41	久米民十郎《婦人像(イネの肖像)》		
42	関根正二《村岡みんの肖像》		
43	武石弘三郎《婦人像》		
44	野中ユリ《ナンセンス詩人の肖像 13 members at table》		
45	野中ユリ《ナンセンス詩人の肖像 A Round Table Affair》		
46	舟越桂《彫刻のためのドローイング(アンソニー・カロの肖像)》		
47	松本竣介《立てる像》		
48	南薫造《英国婦人像》		
49	村山知義《ヴォロージャ・ヴォローギンの肖像》		
50	撮影者不詳《イネの肖像》(写真)		
51	寄託作品(油彩)	[同展] 神奈川県立近代美術館 葉山(2009年2月7日-3月29日)	
52	藤田嗣治《ちんどんや 職人と女中》	[同展] 神奈川県立歴史博物館(2009年2月7日-3月29日)	



〈修復前〉マットは劣化が進み黄変し、画面への被り部分が多い。



〈修復前〉マット装裏面 支持体裏面に直接、テープを接着している。



〈修復中〉旧マット除去作業 部分的に切断しながら、貼りついた部分は紙の層を剥きながら除去した。



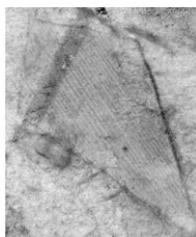
〈修復後〉旧マット除去後、マット下に隠れていた部分が見えるようになり、画面に広がりを感じられるようになった。



〈修復後〉新調マットは画面を広く出す窓寸法に変更し、修復、調整をしたオリジナルの額に納めた。



(印刷文字部分)表  
転写されている印刷文字。その範囲の支持体が凸状に変形している。



(印刷文字部分)裏面  
転写部分の範囲が凹状になっている。その内側には薄いワックスの層が認められる。

作者：鷹山宇一

題名：静物

多色木版、紙

制作年：1931年頃

寸法(mm)：590×452

### 修復前の状態

作品はマット装の上、額装されていて、額は制作当時のものと思われる。額の右側面上方に数センチに渡り、木が削られたような損傷がある。マット紙は酸化して劣化が進んでいる。窓マットのみで、支持体裏面の周辺部に直接、紙テープを粗雑に接着して固定している。また、画面側の着色部にも、マットが貼り付いている箇所がある。

支持体は全体的にかるい変形がある。周辺部まで全面に着色層があり、周囲が切断された跡がある。画面中央付近と上辺部に、ピンホール状の穴が散見される。裏面はパレンで強くこすった跡があり、紙の繊維がかなり毛羽立っている。

画面は全体的に埃の付着があり、左上と右下の淡い青色部分に褐色のシミがある。中央やや右寄りの濃い青色部分には、着色材のメディウムの収縮により、浮き上がりを伴った亀裂が生じている。中央付近に数センチの四辺形内に、印刷物の切断片のような反転文字がみられる。当箇所は一見コラージュのように見えるが、拡大観察すると印刷物から転写されていることが分かる。この四辺形部分の支持体は画面側が制作時についた凸状の跡が残り、周辺部にわずかな滲み跡がある。裏面の当該箇所は凹状になり、変形跡内側の面には、ワックスと思われる薄い塗膜層が認められる。

### 施工処置

1. 裏面のマット固定の接着テープ除去
2. 画面周辺部に接着されたマットの除去：接着されていない箇所のマット紙を部分的に切断して除去した後、接着された部分のマット紙の層を少しずつ剥ぐようにして除去した。
3. 画面の埃、汚れを粉消しゴムと刷毛で除去した。
4. マット除去部分の着色層の修正：毛羽立った箇所をセルロース系接着剤で修正した。(klucel G 2%エタノール溶液)
5. 絵具剥落箇所の補彩(顔料、klucel G 2%エタノール溶液)
6. 台紙つきのマットを新調し、和紙のヒンジでマットに装着
7. 低反射アクリル装着、マット新調後のマット厚みの変化、旧裏板の装着方法を考慮し、オリジナルの額を調整した。

### 修復後の所見

当初、装着されていたマットは作品周辺部に掛かる部分が多かったが、新調マットでは可能な限り画面を出し隠れていた図柄の一部も出して、画面に広がりを感じられるようになった。印刷文字の転写は、活字のインクを溶剤で溶かし、印刷片を強くプレスして転写したと思われる、裏面のワックスは溶剤のしみ止めと考えられる。

## 修復報告—彫刻

彫刻家 眞板雅文\*

作者：眞板雅文

題名：静思空間

鉄、塗料、石

制作年：1994/2009年

寸法(mm)：1600×1895×h.1560

### 修復前の状態

本作品はコールテン鋼のベース部分と塗装された鉄製の板や幾何学的な形のパーツで構成されている屋外展示彫刻である。コールテン鋼部分は屋外の環境下で全面に赤茶色の錆が生じている。ベース上に水平に置かれた塗装鉄板にも部分的に錆のため塗装膜の浮き上がりや剥落が生じていて、その他のパーツにも、部分的な錆や擦れなどの損傷が見られる。パーツの一部は、当初、鉄製のボルトが取り付けられていたが、移設された時点からボルトが欠失している。また、上部の鉄板に形成されている浅い溝には、制作当初は水が張られていたが、移設した後は、鉄板のみでの展示となっている。

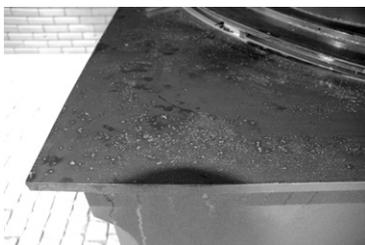
### 施工処置

1. 塗装パーツをベースから取り外し、解体した。
2. 各パーツは研磨により、塗装と錆を除去、清掃した。
3. パーツに錆止め塗料(ザウルスEX)を塗布した。
4. 研磨後、仕上げにウレタン樹脂塗料(セラMレタン)を塗布した。乾燥後に研磨を行いながら、3回塗布を繰り返した。
5. 最終仕上げ塗装の後、表面をサンドペーパーで研磨し、黒鉛を手で擦りこんで光沢を調整した。
6. 解体したパーツを元の位置に戻した。
7. ベース部分のコールテン鋼の錆をサンダーで除去した。
8. 制作当初に取り付けられていたボルトは補充せずに、接着剤で鉄板に固定した。
9. 上部の鉄板の浅い溝には、水の代わりに小石を敷きつめた。

### 修復後の所見

上部の塗装パーツの錆が除去され、元の滑らかな黒色の塗装面が回復した。また、ベース部分も錆やしみ状に変色した部分などが鑑賞の妨げとなっていたが、状態が改善された。上部鉄板上の溝には、現在の展示環境を考慮し、当初の水の代わりに枯山水をイメージして小石を敷き詰めた。材料は変更されたが、当初の発想から大きく離れることなく修復を完成した。

\*眞板雅文氏は2009年3月にご逝去されました。本報告は修復施工時の修復報告書を元に編集いたしました。



〈修復前〉上部鉄板塗装面の錆による浮き上がりと剥落



〈修復前〉ベースのコールテン鋼部分の錆



〈修復中〉塗装、錆の除去作業



〈修復中〉仕上げ塗装作業 乾燥、研磨を繰り返しながら3回塗布



〈修復中〉仕上げ塗装後、黒鉛を手で擦り込み光沢を調整



〈修復中〉ベースのコールテン銅部分の錆除去作業



〈修復後〉上部鉄板の溝に小石が敷き詰められた

2008年度 修復作品一覧

※表記のない場合は当館修復担当による

作家名	作品名	寸法(mm)	制作年	種別	外部委託※
アントニー・ゴームリー	Insider VII	535×275×h.1910	1998	彫刻	藤原徹
ジャン・アルプ	影のモニュマン	200×220×h.445	1965	彫刻	藤原徹
湯原和夫	不快な門	367×367×h.367	1972-1975	彫刻	藤原徹
吉村弘	ミ/ズ/ナ/リ	990×770×h.800	1991/2005	彫刻	渡辺林太郎
眞板雅文	静思空間	1600×1895×h.1560	1994/2009	彫刻	眞板雅文
若林奮	P/S後から来るC(復元)	1200×1600×h.1200	1967	彫刻	(有)修復研究所21
片岡球子	面構 徳川家康公	1622×1303	1967	日本画	(有)修復研究所21
福田豊四郎	山海図	871×1746	1961	日本画	瑤春堂
藤田嗣治	ちんどんや 職人と女中	1040×830	1934	水彩画	増田久美
山下菊二	〈松川裁判〉のための構想被告たち	271×380	1959頃	素描	米倉乙世
山下菊二	〈松川裁判〉のための構想謀議にでたのは幽霊か	252×354	1956頃	素描	米倉乙世
山下菊二	敗戦風景(国会議事堂付近・部分)	270×383	1946頃	素描	米倉乙世
原精一	髪飾りの少女	327×208	1943-1945	素描	米倉乙世
土方久功	まひるの夢	450×710×35	不詳	彫刻	
土方久功	何かきこえる	439×732×38	不詳	彫刻	
土方久功	蜥蜴占	470×900×37	不詳	彫刻	
土方久功	月	705×1000×31	不詳	彫刻	
土方久功	妖霊	581×1042×49	不詳	彫刻	
土方久功	南島閑語	819×1054×30	不詳	彫刻	
土方久功	ゆうべのアンニュイ	440×840×43	1952	彫刻	
吉田博	穂高山	243×335×26	不詳	油彩画	
矢嶋美枝子	えだ	457×380×22	1957	油彩画	
矢嶋美枝子	暴走	730×910	1957	油彩画	
原精一	野外の三人	1288×972	1937	油彩画	
関合正明	御宿風景	515×640	1955	油彩画	
中野和高	姉妹*	968×1300	1958	油彩画	
山口長男	能美江田島湾	243×273	1969	油彩画	
勝呂忠	六人(夜)	610×904	1953	油彩画	
有島生馬	英夫像*	450×370	1922	油彩画	
佐藤哲三	大道商人*	910×1170	1932	油彩画	
佐藤哲三	苦悩*	806×653	1934	油彩画	
山口薫	千手(黒夫人)像	1180×910	1957	油彩画	
山口薫	神話II	910×653	1934-1937	油彩画	
飯田三吾	横たわる裸婦	251×332	不詳	素描	
チャールズ・ワグマン	雲	138×193	1876	素描	
アンリ・マティス	Poemes de Charles d'Orleans	409×530	1950	版画	
鷹山宇一	静物	590×452	1931頃	版画	

\* 寄託作品

## 調査研究活動

### 研究・調査報告

#### 当館蔵の中原悌二郎《老人の頭像》(1910年)石膏原型について

水沢勉

当館には、明治43(1910)年の第4回文部省美術展覧会に出品された中原悌二郎(1888-1921)の初期の代表作である《老人の頭像》の、石膏とブロンズによる素材の異なる彫刻作品が一体ずつ収蔵されている<sup>1</sup>。ここでは、この石膏原型(挿図1)についての最近の二度にわたる調査によって明らかになった事実を確認し概略を報告しておきたい<sup>2</sup>。



挿図1 中原悌二郎《老人の頭像》  
1910年、石膏 当館蔵

近年、北海道旭川市で、個人所蔵の同じモチーフによる石膏像(以下、「旭川市個人蔵石膏原型」と表記する)の現存が確認され、ふたつの石膏像を直接比較する機会が訪れたことが本調査のきっかけとなった(挿図2)。以下、当館蔵のものについては、「当館蔵石膏原型」と表記する。なお、当館蔵のものを含め現存する複数のブロンズ像については、原型の損傷との関係などを含め、複雑な経緯が推定され、さらなる調査が必要である。



挿図2  
左:「当館蔵石膏原型」  
右:「旭川市個人蔵石膏原型」

<sup>1</sup> 作品名については、従来、当館では「老人」または「老人の頭部」と呼びならわされてきた。ここでは第4回文部省美術展覧会の目録記載の表記に従った。

<sup>2</sup> 第1回の調査は、2009年8月15日に鎌倉別館で行われた。筆者のほか、当館からは、橋秀文専門学芸員が立ち合い、館外からは、松本透氏(東京国立近代美術館副館長)、堀越誠氏(空間造形コンサルタント)、高平雅史氏(同)が参加された。第2回の調査は、2009年12月11日に同じく鎌倉別館で行われた。筆者、橋秀文、伊藤由美(専門研究員)、三本松倫代(学芸員)、館外からは、黒川弘毅氏(武蔵野美術大学教授)、高橋裕二氏(ブロンズスタジオ)、高平雅史氏が参加した。写真は筆者が撮影したものであるが、挿図7のみ黒川氏撮影のものを使用した。

「当館蔵石膏原型」は、現在、当館のデータベースに、高さ57cm、幅37cm、奥行36cm、1981年に伊藤忠雄氏(当時、伊藤铸造社長)より寄贈されたものとして登録されている。また、「旭川市個人蔵石膏原型」は、1981年に、伊藤铸造から旭川市の個人が購入したものと伝えられている。当館は、石膏像寄贈時にブロンズ像を一体購入している。

第1回の調査では、《老人の頭像》に関する基本文献や資料を確認したうえで、美術史的な視点から検討を行った。発表時は、石膏像であったことが、文部省美術展覧会図録に掲載された写真によって推測することができる。当時の中原悌二郎に関する伝記的な事実や、彫刻界を含む時代背景については、現在もなお、匠秀夫『中原悌二郎』(木耳社、1969年)が最重要の基礎的文献でありつづけている。「旭川市個人蔵石膏原型」と「当館蔵石膏原型」を並べて比較すると、全体的な所見として最初に気づくのは、前者のほうが、全体に褐色に変色しており、一見、古びて見えるという点である。また、形状の点では、像の底面が水平に整えられているか(前者)、あるいは不規則にわずかに波打っているか(後者)の相違が顕著である。

全体の傷みと修復については、「当館蔵石膏原型」のほうがより傷み、修復された形跡が各所に認められる。「旭川市個人蔵石膏原型」を伊藤铸造から旭川市の個人が購入したあとに、この個人蔵の石膏像こそがオリジナルの初期石膏原型であると関係者に受け取られたという伝聞が残されている。単体として見る限り、その傷みの少なさと、離型剤によると思われる古色を考慮すれば、そのような推定も十分に理解することができる。

しかし、発表時点での第4回文部省美術展覧会図録の写真図版、そして、その後、大正10(1921)年3月の彫刻家の天逝後まもなく7月に編集が開始され、同年9月の日本美術院での遺作展に合わせて出版された最初の作品集『中原悌二郎作品集』(平岡田中編、西東書房)に掲載されている野島康三撮影によるコロタイプ印刷の写真図版を参照するかぎり、それらは石膏像であり、その底面も波打っていることが確認できる<sup>3</sup>。通常、粘土で塑像を制作する際には、心棒のついた作業台を回転させて作業をする。その結果、底面はほとんど水平になる。その点で、この波打ちのある底面は、きわめて特殊であるが、作家本人のなんらかの意図あるいは了解がそこに反映していると考えてよいであろう。

また、旧知の事実に属するが、中原悌二郎の親友であった中村彝は、自身の最重要のパトロンであった福島県白河の素封家・伊藤隆三郎に、経済的な苦境にあった中原の援助を願い出る書簡を残している(『芸術の無限感』(新装版)中央公論美術出版、1977年、収載の1916年7月8日付の伊藤隆三郎宛書簡、234ページ)。「モデル代としての三十圓計り」は、まもなく隆三郎から彝宛てに届き、悌二郎に手渡されたことは、同年7月13日付の彝からの伊藤隆三郎宛書簡(前掲書、236ページ)によって確認することができる。

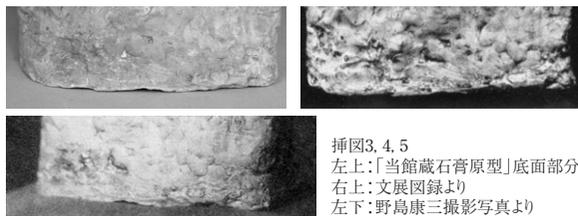
7月8日の手紙で彝が「その代り出来上つた彫刻は御禮として進呈致します。」と書いた、「女の全身像」を、結局、悌二郎は完成させ

<sup>3</sup> 『中原悌二郎作品集』については、越前俊也「中原悌二郎と野島康三」『生誕120年 野島康三 ある写真家が観た日本近代』(企画・編集:京都市立近代美術館、2009年)参照。

ずに途中で放棄することになった。そのかわりに伊藤隆三郎のもとには「御禮」として《老人の頭像》(ブロンズ)と《憩える女》(ブロンズ)が届けられることになった(その正確な時期は不明)。そして、さらに、昭和3(1928)年9月5日、前年の金融恐慌のために伊藤隆三郎は財産を銀行家の荒井治右衛門に売り渡すことを余儀なくされる。そのときの目録が、2009年秋に福島県立美術館で開催された「文化の力——福島と近代美術館」展の際に紹介されている。同カタログの132ページに掲載されている「資料-II-24 茶器、書画売渡證書(伊藤隆三郎から荒井治右衛門へ)」の図版によって、この時点で売却されることになる「老人胸像(銅製)」「老人胸像(石膏)」「憩<sup>やす</sup>める女胸像」の3点は、中原悌二郎作品と推定することができる。ということは、《老人の頭像》の石膏原型もまた作者本人から伊藤家におそらくブロンズ像とともに「御禮」として贈られていたと考えてよいであろう(ただし、没後、1921年以後の可能性も否定できない)<sup>4</sup>。

ブロンズ像については、その後、昭和5(1930)年に白河中学(現在の福島県立白河高等学校)に荒井治右衛門ではなく伊藤隆三郎から(なんらかの事情が働いていたと思われる)寄贈されていることも、「文化の力」展を機に明らかにされ、同展にそのブロンズ像も展示されている。悌二郎生前(あるいは没後まもなくの時期)に制作された可能性の高いブロンズ鑄造の基準作の存在が確かめられた点で、きわめて重要な発見であった。なお、このブロンズ像の底面は水平になるように最終的に一部補填して鑄造されている。おそらく鑄型(砂型)の底面を窺で水平に整えたのではないかとと思われる。一方、石膏像については、1928年に売却以後、その所蔵についての詳細は、残念ながらまだ明らかにされていない。

しかし、記録写真との照合によって、この石膏像と当館蔵石膏原型とは、形状の点で、波打っている底面などが符合する(文展図録の写真は明暗のコントラストが強く、そのために影が濃いこともあって、細部がやや不鮮明であるが、野島康三が撮影したものと「当館蔵石膏原型」の底面は一致することが容易に確認できる)。そして、上述のように初期石膏原型が、作者からおそらく直接、支援者の手に届けられたであろうという事情も勘案するならば、所蔵歴に不明点がいまだに残るとはいえ、「当館蔵石膏原型」が、発表時の初期石膏原型そのものである可能性はかなり高い。



挿図3.4.5  
左上:「当館蔵石膏原型」底面部分  
右上:文展図録より  
左下:野島康三撮影写真より

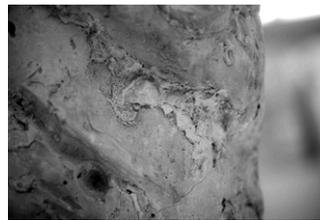
第2回目の調査では、ふたつの原型の物的な特性を、鑄造の技術的な視点に立って、高橋裕二氏、黒川弘毅氏のふたりの専門家が分析を行った。ここでは、詳細は、別途発表予定のそれぞれの報告書に譲り、要点のみ確認することに留めた。

「旭川市個人蔵石膏原型」には、「直径1mmから1.5mm程度の球状突起が散見でき」(高橋)、「表面にはシリコン型取りで生じた多数

の気泡(直径1~1.5mm程度の球状突起)をみることができる」(黒川)。しかも、「凹凸のエッジの鋭さから見て、ブロンズ像からではなく、他の石膏像から型取りした可能性が高い」(高橋)。さらに「当館蔵石膏原型」には「球状突起は全く観察されなかった」(高橋)。



挿図6 「当館蔵石膏原型」背面



挿図7 同上 石膏の残留痕の一例(背面の右肩寄り)

また、「当館蔵石膏原型」の左胸底面付近背面をみると、作者自身の手が粘土に残した形状とは明らかに異なる石膏の部分的な付着が認められる。これは「作家の制作した塑像からおこす、初回の石膏型取りでミスが犯しがちな雌型石膏一層目の(不完全な割り出しによる)残留痕」(高橋)である。これは「当館蔵石膏原型」を「作成した際に使用されたモールド(捨て型)の石膏が顕著に残留」(黒川)したものにほかならない。一方、「旭川市個人蔵石膏原型」では、「その痕跡は石膏像と一体化しており、明らかに、他の石膏像からの複製であること」(高橋)が確かめられる。

ほかにもふたつの石膏像の原型と複製の関係について指摘されているポイントがいくつかあるが、「球状突起」、そして「作家自身の手による作業」(黒川)であることを裏付ける「残留痕」の二点をもってしても、「旭川市個人蔵石膏原型」がブロンズ鑄造のために「当館蔵石膏原型」に基づいて制作された複製であろうと、両氏は結論づけている。

以上、歴史的にも、物的にも、ふたつの石膏原型の比較検討によって、当館蔵石膏原型が、作者である中原悌二郎自身の手によるものであり、第4回文展出品作そのものである可能性がきわめて高いことが明らかにされた。

さらに、ふたつの石膏原型には、それぞれ真土型とシリコン型による型取りの痕跡が複数残されていることが第2回の調査によって明らかにされている。それらの鑄造作業がどのような順番で、どのような時期に、だれの手によってなされたかについての検証は、今後に残された大きな課題である。

\*本報告は、2009年度に行われた調査にもとづくものであるが、今後の研究のために本年報にて発表することとした。

<sup>4</sup> 同展カタログ所載の酒井哲朗「文化の力——福島と近代美術」、増鏡鏡子「第1章 中村彝と白河南湖に集まった芸術家たち」、「資料・本文」参照。

2007年に、神奈川県立近代美術館で「佐伯祐三と佐野繁次郎展」を開催した<sup>1</sup>。その展覧会を開催するまで、佐野繁次郎と佐伯祐三が大阪で幼なじみであったことは以前からよく知られていたが、芸術的な影響関係はあまり踏み込んで考察されることがなかった。

この10年くらいの間に、佐野繁次郎の調査が進み、佐野繁次郎の1930年前後の創作活動がかなり明らかになってきた<sup>2</sup>。

今回、さらに、佐伯祐三と佐野繁次郎の関係が密であったことを示す文献を見出したので、その報告を兼ね、その時代の画家および文学者の創作活動について、焦点を当て、1930年前後の佐野繁次郎らの青年芸術家の動向を考察することにする。

佐野繁次郎が、文章を書きながら、絵画の創作活動にも熟を入れていったことは、その活動記録から想像のつくことではあった。「三田文学」の劇評あたりから手を染め、小説などにも挑戦していた佐野繁次郎が、幼なじみの佐伯祐三から激励を受け、絵画の創作活動に力を入れていったことは、今までも判明していた事柄であった<sup>3</sup>。今回紹介する雑誌『Ⅲ』掲載の佐野繁次郎の文章は、さらにそうした事柄を裏付けることになる。

1929(昭和4)年8月に創刊された『Ⅲ』という雑誌は、東京赤坂にあったポントンのというレストランの主人が文芸春秋社の編集者に依頼して発行したお店をPRする宣伝雑誌であった。この雑誌でレストラン主人中川三吉郎は、約22、3年前に起きた「パンの会」におけるメゾン鴻巣のような存在を意識して、画家や文人の交流の場としてレストラン・ポントンを多くの文学ないし美術愛好家に提供したかったようだ。さらに雑誌『Ⅲ』は明治創刊の美術・文芸雑誌『方寸』

のようなものになりえたらと考えていた<sup>4</sup>。しかし、結局、3号で終わってしまった。

なぜ、このような雑誌に佐野繁次郎が文章を寄せたのか、さらには3号に佐野自身の裸婦デッサンも掲載されているが、今となっては、その理由を問うのに推測するしかない<sup>5</sup>。おそらく、文壇的には、横光利一や川端康成といった文藝春秋社の関係の文人がかかわり、絵画としては、二科会の画家である佐伯米子や西脇マジョリといった人々がデッサンを掲載しており、佐伯米子が、急死した佐伯祐三のデッサンを掲載することを編集部に働き掛け、さらに、友人だった佐野に思い出話をお願いしたのであろう。

ここで、赤坂にあったレストラン、ポントンの宣伝雑誌『Ⅲ』のなかの佐野繁次郎が書いた「佐伯のハイカラ」から一部分を引用してみよう。

「(前略)僕は佐伯の、繪の、人の、心の「なんとハイカラであつたか」が、随分すきな一つなのだ。(ハイカラといふ字を、ずつと輕薄に考へてしまふ人は、勝手に……)

佐伯は生前いつも、重い靴、黒い上衣、ダブダブズボンで、所謂かまはない性として有名で、實際それは、一寸目には随分無造作な形だつたが、あれで、ワイシャツは必ず隔日にかへてゐたし、なんでも皮膚に直接つくものは、とてもおごつてゐて、更に、その自身の皮膚を大事にしたことは、殊にその周到さから考へて、慥かに立派なお洒落といつていいものだつた。……佐伯は、皮膚、骨格からが第一、すでにハイカラだつた。(人は皮膚の色にもハイカラ、明治時代、都會、山國、いろいろのものを出してゐるものだ)

佐伯の繪のなかにあるハイカラは、心ある人は既に充分よろこばれてゐるだらうが、實にそれは、當り前のことだが、もう佐伯の人、その體からがさうなのだ。……佐伯のトランクの底に、うすいオーグルジヨンの地に、派手な藤紫の太い縞のある西洋寝間着が一枚残つてゐたが——(それは、あのズボンのない上衣だけの式の奴で、上衣の裾が膝まで位あり、カフスも手のすつかり見えなくなる位の長さで、だから着ると、丁度大人のワイシャツを子供にさせた感じだ)——あれをあの細そ身に着て、夜半寢室に立つた佐伯なんて、實になんてハイカラだと思ふ。

<sup>1</sup> 2007年4月7日(土)～5月20日(日)まで神奈川県立近代美術館 葉山で「佐伯祐三と佐野繁次郎展(主催:神奈川県立近代美術館、特別協力:大阪市立近代美術館建設準備室)」が開催された。

<sup>2</sup> 佐野繁次郎の1930年前後の画業を中心とした行動は、「佐伯祐三と佐野繁次郎展」図録所収の年譜を参照のこと。さらに、佐野繁次郎の装幀については、西村義孝編著・林哲夫構成「佐野繁次郎装幀集成 西村コレクションを中心にして」(みずのわ出版 2008)に詳細なデータが図版とともに掲載されていてとても参考になる。特に、6頁に掲載された「芸術派ヴァリエター 第1集」(博文館 1930年6月)の表紙に描かれた男の像やさらに、70頁に掲載された同時制作の「婦人サロン」(文藝春秋社 1930年6月:2巻6号)の女性像は、1928年に佐伯祐三が制作した、絶筆とも言われている《ロシアの少女》の画像を意識して描いたのは、一見して明らかである。いかに、この時期、佐野が佐伯に傾倒していたかが分かる。また、「横光利一と川端康成展」図録(世田谷文学館 1999)所収の小池智子「佐野繁次郎と横光利一についての覚書」(86～88頁)も佐野繁次郎の初期の芸術を理解する上で参考になる。

<sup>3</sup> 「佐伯祐三と佐野繁次郎展(神奈川県立近代美術館 2007)図録所収の拙文「佐伯祐三の装幀本」(40頁)で、装幀の仕事に悩む佐野繁次郎に、佐伯祐三は、装幀とはこうしてやるものだとして具体例を示したのが、中河与一著「恐ろしき私」の装幀であったと推測した。なお、1930年発行の『Ⅲ』以前に、佐野繁次郎は佐伯祐三の回想ないし彼への追悼文をすでに二つの雑誌に寄稿している。「佐伯祐三を憶ふ(追悼)」『三田文学』第3巻第11号/1928年11月号と「レストランの繪」『美之國』第5巻第2号/1929年2月号【近代画家研究資料 佐伯祐三 Ⅰ】(東出版(1979年)に再録)である。また、拙論「佐野繁次郎と『三田文学』」、『三田文学』2005年夏季号No.82も参照のこと。

<sup>4</sup> 雑誌『Ⅲ』創刊号の編集後記を参照のこと。「昔パンの會と言ふ文人畫家の集りがありました。Ⅲの會も昭和のパンの會として、もつと廣い範圍で存在されたら面白いだらうかと思ひます。」というように、パンの會をしのび、レストランが文化を生み出す場所となることを願っている気持ちが記されている。パンの會が生まれてから22、3年たつて、当事者だった木下圭太郎や長田秀雄、吉井勇らに文章を依頼しているのも興味深い。なお、パンの會については拙論「アート・ディレクター北原白秋」、『誌上のユートピア 近代日本の絵画と美術雑誌1889～1915』展図録(2008年、神奈川県立近代美術館他)314頁～320頁参照。

<sup>5</sup> 雑誌の創刊号に、ほとんど無名だった佐野繁次郎の佐伯祐三の思い出のエッセーがいきなり掲載されるというのも、驚くべきことのように思われる。雑誌に掲載された文章の中には、堀口大学の名前も見えるので、のちの1934(昭和9)年に、堀口大学が詩集『ヴェニユス生誕』を上梓するにあたって、棟方志功の木版画の挿画を嫌い、別冊にしたという出来事があった時に、詩集の表紙に、実は、佐野繁次郎の裸婦デッサンを使用していたことを想起すると、その人選には、雑誌『Ⅲ』で結ばれた人間関係から察して、すでに堀口大学と佐野繁次郎とは面識があったことがうかがわれる。しゃれた雰囲気を買った堀口大学のことであるから、当時のモダンな表現として評価されていた佐野繁次郎の裸婦デッサンに、満足を得ていたに違いない。

佐伯が労働者やパリの裏町を描いたことから、それを社会意識の下になされたこととして、又、佐伯のあの精力主義から、佐伯を所謂野獣派画家として、その素朴、野生を特に指摘する畫人、文人が尠くないが、僕は佐伯には、寧ろ反対の、灰汁ぬけ、ハイカラをその正體として感じるのだ。僕は一見こそ多少小汚なくはあつたが、佐伯こそ、實は日本人中稀れにみる、本當の體、心の底からの灰汁ぬけした、ハイカラの男だつたと思つてゐる。——そして僕は、そのハイカラ、灰汁ぬけをした、本當の意味に於いての佐伯のおしゃれを、實は仲々容易のものではないと思ふのだ。』<sup>6</sup>

佐伯祐三を周囲の人が「ずぼら」からとって「ずぼ」といったあだ名で呼んでいた<sup>7</sup>が、実はしゃれていたという佐野繁次郎のエッセーは、一見野暮に見えるが實はおしゃれなのだということが、佐野自身にも当てはまるということをも、言いたかつたのだと考えられる。

一見不器用に見える佐野の描写の裏には、うまさか潜んでいる。それをしたたかな表現と見る者もいるだろうが、いずれにせよ、こうした、一見相反するものを共存させた美意識のなかに、厚みのある人間味を感じさせるのが、佐伯と佐野の芸術に共通したものといえよう。

以前、筆者が佐野繁次郎の芸術を評して「器用でぶきつちよな画家」といった<sup>8</sup>のには、佐伯祐三のハイカラに通じるこのような美意識を感じ取ったからであつた。

1929(昭和4)年9月発行の第2号の『皿』編集後記には、「佐野繁次郎二科に入選す。彼毎月三田文学へ小説戯曲を発表して好評噴々たる新人。「画と文学で有鳥生馬だね」と言へば本人我と我が身をつねつて見て「一体之は夢ぢやないかしら。」といった評が載っている。有鳥生馬は、文筆もよよし、絵も描くという、文学と絵画の両面に秀でた芸術家として、当時、大いに名を上げた人物であつた。当時の有鳥生馬の存在は、二科展の中心的存在として若者のあこがれであり、まさに芸術家として目標となる存在であつたのだ。佐野繁次郎が、劇批評をしたり、小説を書いたりしているうちに、絵も描きはじめ、ちょうど二科展に初入選したのだから、佐野繁次郎にしてみれば、有鳥生馬にたとえられて、感無量であつたことは容易に想像がつく。

ところで、昭和初期のモダニズムのなかで、佐野繁次郎の初期の芸術をどのように位置付けてゆけばよいのか。佐野繁次郎は、二科会に初入選し始めた昭和4年ころ、古賀春江、阿部金剛、東郷青児らとモダニズムの絵画を牽引していった。横光利一の『機械』の装幀、雑誌『作品』の表紙絵や蝙蝠座の舞台装置などモダニズムの雰囲気をも漂わせた作例を見出すことができる。その後、徐々に、自分自身の個性に磨きをかけていくことに専念したと考えるべきか、モダニズムという枠でとらえきれない、大きな個が輝きを放って、生育していったように思われる。その後、戦中の厳しい時代に

直面して、制作自体が抑制されていたということもあつた。

戦後、二紀会の創設に参加して、佐野はさらなる伸びのびとした創作活動を展開していくのだが、そこで、一貫して見せたのが、一見するとやぼったく見える佐伯のハイカラさとなつてい、不器用な風の下での器用さといった美意識であつた。昭和4年当初、この雑誌『皿』で「佐伯のハイカラ」を論じた美意識は、その後も、着実に佐野のなかで育まれてゆき、戦後の彼の創作活動の骨格をなしていったと思われる。

<sup>6</sup> 雑誌『皿』第1号9頁を参照。なお今回、筆者は早稲田大学図書館所蔵のものを閲覧した。見開き右頁である8頁には、佐伯祐三の《裸婦デッサン》が掲載されている。ちなみにこのデッサンは、『山本發次郎氏蒐蔵 佐伯祐三画集』(1937 座右宝刊行会版)所収の《104. デッサンⅡ》と類似している。

<sup>7</sup> 特に旧制中学時代の友人だった坂本勝の想い出の文章『佐伯祐三』(1970年日動出版部)51-52頁を参照のこと。

<sup>8</sup> 『佐野繁次郎』展(東京ステーションギャラリー、常葉美術館 2005)図録所収の拙文「器用でぶきつちよな画家 佐野繁次郎の人と芸術」(10-13頁)を参照のこと。

## 鎌倉別館収蔵庫の空気環境調査と考察

伊藤由美

### 1. はじめに

本研究は「海浜地域に建設された美術館における、室内、室外汚染物質の伝播、汚染の実地調査と収蔵管理の対策」をテーマとした研究の一環として実施された調査と考察である。当美術館は葉山館、鎌倉館、鎌倉別館共に海や緑地に隣接し、塩害や高湿度、徘徊虫など、作品に悪影響を及ぼす可能性の高い要因に囲まれた環境にある。美術館ではこれらの要因を遮断し、作品に対し良好な空気環境を保つため、建築、設備、人為的な面から様々な工夫を試みている。その対策を講じるための基礎資料に利用し、また、対処法の結果を把握するため、館内の空気環境測定を行った。本調査報告は、葉山館収蔵庫の調査結果を踏まえて、平成19年度に行った鎌倉別館収蔵庫の空気環境調査報告の要旨をまとめたものである。

### 2. 調査方法

美術館における収蔵庫の空気環境管理に当たっては、化学的要因、生物学的要因、物理的要因を総合的に検討する必要がある。化学的要因としては、粉塵、窒素酸化物、オゾン、硫化水素、塩化物などの屋外由来汚染物質、埃、アンモニア、蟻酸、酢酸、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒドなどの室内由来汚染物質が考えられる。生物学的要因としては、カビ類などの細菌や虫などがある。物理的要因としては、温湿度や空気の循環など空調の状態がある。各要因について、鎌倉別館収蔵庫においても葉山館収蔵庫と同様の方法で調査を行うこととした。また、以前、葉山館収蔵庫において実施した空気組成調査では、微量ではあるが通常では存在しないガス成分が複数検出され、作品の素材特有の発生ガスにも注目した。同時に、壁、棚、保存箱など収蔵品が設置される箇所の環境が、カビ菌を生育させうる度合いを測定した。

### 3. 空気環境測定調査

測定は、3回に分けて行った。

#### 3-1. 第1回調査

調査箇所：1階-荷解き室、前室、収蔵庫  
地下-前室、収蔵庫



1. 空気および浮遊菌の採取

#### 3-1-1. 空気組成調査

①目的-収蔵庫内空気の化学物質の組成を把握する。

②方法-インピンジャーを用いて室内空気を採取し、ガスクロマトグラフ質量(GCMS)分析計により有機化合物などの組成分析(定性分析)を行った。

③結果および考察

今回の測定で、通常、空気に存在しないと考えられる有機化合物(沸点40℃~340℃までのもの)は検出されなかった。

#### 3-1-2. 細菌検査(落下・浮遊菌検査および拭き取り検査)

①目的-作品の搬出入や空調により、室外より汚染したカビ類などによる細菌学的汚染の状態を調査し、作品に影響を与える生物学的要因の存在を把握する。

②方法-室内を通常、空調管理を行っている状態でスリットサンプラーにより室内空気を所定量採取し、空気中の浮遊菌数、落下菌数を測定、また落下菌の拭き取り検査をする。

③結果および考察

室内浮遊細菌検査および落下細菌検査(カビ類を対象とする)については、全体的に菌数は少なく、浮遊細菌が検出されているのに落下細菌が検出されない傾向が全体的に観察された。

室内付着細菌検査(カビ類を対象とする動態検査)については、入り口付近に比べ奥の方が菌種数が少ない傾向が見られた。特に収蔵庫内では数種の菌しか存在していないことがわかった。これは、おそらく優勢種が何らかの条件の元で単一化したのではないかと推測される。優勢種はペニシリウム(青カビ)とムコール(毛カビ)で、赤橙色や黒褐色の色素を産出していると考えられる。168時間経過するまで培養保有着していた発芽菌を再確認したところ、色素を産出するものがあることが分かった。また、限りなく単一菌(ピュアなもの)であることが分かり、菌体保存(3℃)でも微かに活動し色素を産出することが分かった。菌種数は少ないものの、概ねカビ類が存在することが判明したので温湿度管理の徹底が必要であることが再認識された。

#### 3-1-3. 空調制御に伴う物理学的調査

①目的

微生物の生育環境に影響を与える室内の空気環境(温度、湿度、 airflow、粉塵濃度など)について観測し、空気環境状況を把握する。

②方法

カノマックスを用いて温度、湿度、airflow速度を、またデジタル粉塵計を用いて粉塵濃度を測定した。測定地点については、空気組成測定および細菌検査試料採取地点の内、airflowが発生していると思われる、もしくは、温度および湿度の変化が起こっていると思われる地点で測定を行った。

③結果および考察

粉塵濃度は極めて少ない状況であった。また、airflowはほとんど発生していなかった。温度、湿度は一定に管理されている状態であった。庫内には浮遊菌および細菌類の生育も観察されたが、落下菌がほとんど検出されなかったことは、温湿度管理が功を奏していると考えられる。

#### 3-2. 第2回調査

調査箇所：1階-荷解き室、前室、収蔵庫

搬入口シャッター近くの建物外周部

1階収蔵庫内において、作品収納棚や展覧会のために搬入、仮置きされていた作品の梱包材など、拭き取り検査箇所も追加した。

#### 3-2-1. 空気組成調査

①目的

室内外の空気組成を再度、分析し、一回目の調査結果と比較検討し、結果の信憑性を図る。

### ②方法

インピンジャーを用いて室内および室外空気を採取し、ガスクロマトグラフ質量分析計により有機化合物等の構造組成スクリーニングにより組成成分を観測した。

### ③結果および考察

今回の測定においても、通常、空気中存在しないと考えられる特徴的な成分は検出されなかった。外気と比較すると、外気では多種の化学物質が混在しているにもかかわらず、室内では外気に見られるような特徴的な物質の存在はなかった。

## 3-2-2. 細菌検査(拭き取り検査の実施箇所の追加)

### ①目的

前回の拭き取り検査においては色素を産出する菌がいることが分かった。そこで今回は作品周辺について、拭き取り検査実施箇所を追加し、作品への影響を検証した。

### ②調査条件

1階収蔵庫内において主に作品周辺を対象にし、細菌が存在していると思われる場所を任意に選定し、拭き取り検査を行った。



2. 落下菌の拭き取り採取

### ③結果および考察

前回の調査に比べ、今回追加した箇所の作品周辺の細菌類は非常に少ないことが分かった。特に、長期間開封していない軸装作品などについては、包装あるいは木箱の内側の菌の発育が見られなかった。これら開封を行っていないものは、以前の燻蒸処置の効果であると考えられる。作品を包装している紙から観察された菌種数の少なさに関しても、燻蒸など何らかの要因が無い限り、通常ではこのような結果は考えにくい。ただし燻蒸以外にも、菌種を淘汰させる菌の存在の可能性も考えられなくはない。

## 3-3. 第3回調査

### 3-3-1. 空調設備と空気組成の関わりの調査

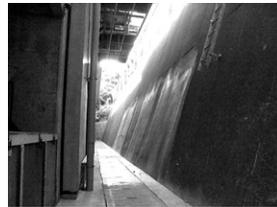
#### ①目的

3-2の調査により収蔵庫内の菌種数が少ないことには、何らかの要因が推測された。実際この調査結果は、収蔵庫の出入りや作品の搬出入の頻度、空調設備の性能からみて通常では考えにくい状況を示していた。そこで今回は菌種数の少ない要因と空調設備との関係に着目し調査を行った。

#### ②空調設備の所見

鎌倉別館は築25年である。1階収蔵庫と地下収蔵庫は独立した空調設備を持っていて、1階の収蔵庫の方が性能は高い。地下収蔵庫は温湿度に影響されにくい素材の彫刻や展示ケースなどの収蔵に使用している。第1回目の調査においては、両収蔵庫内において差圧、気流はほとんど観察されなかった。いずれにしても空調設備やその性能が細菌の生育条件に影響を及ぼしているか調査をすることにし、まず、設備の

観察を行った。空調設備は地下機械室に設置してあるが、冷却装置は建物裏手の外周部上方に設置してある。冷却装置の内側は銅製であり、下方から見上げたとき、銅製の部分が底面にも露出している構造になっているのがわかる。冷却装置の真下の建物外壁には収蔵庫用の空気取り入れ口がある。この空気取り入れ口の対面にはドライエリアの山側面をコンクリートで覆った壁があり、概ね、コケ類で覆われている。しかし、空気を取り入れ口がある付近、すなわち、冷却装置の下方部分のみ、コケ類の繁殖が見られず、緑青の結晶と思われるものが付着していた。これは雨などにより冷却装置の銅が溶け出し、その銅の成分がコケ類の繁殖を阻んでいると推測された。このような状況が収蔵庫内の空気環境に影響を与える可能性を検討する必要があると考えた。



3. 冷却装置(上方)の下方のみ、コンクリート上にコケ類の繁殖がみられない



4. 空気取り込み口付近の空気採取

### 3-3-2. 空気採取調査

#### ①目的

所見により得られた総則に基づき、空気取り入れ口から銅などの重金属類が取り込まれているのではないかと考え、空気取り入れ口直前で空気を取り、組織成分分析を行った。空気取り入れ口から少し離れた位置でも、比較試料の採取を行った。

#### ②方法

インピンジャーを用いて空気を取り、高周波誘導プラズマ発光分析法により、重金属などの組織スクリーニング分析を行った。同時に、濾紙を用いて粉塵を採取し、粉塵を蛍光X線分析装置により組織スクリーニング分析した。

#### ③結果および考察

空気吸収液(蒸留水)

空気取り入れ口前

Si, K(0.5~5), Ca, Na, Zn, Mg(0.1~1) 単位:  $\mu\text{g/g}$

濾紙捕集(粉塵の分析)

空気取り入れ口前

S, Si, Ca, Cl > Al, K, Fe, Na, Mg > P

比較試料(空気取り入れ口の横で同様に採取したもの)

S, Si, Cl, Ca > Al, K, Fe, Na, Mg > P

コンクリート壁表層からの採取

コンクリート壁表面付着物

O, C > Ca, Si, Cu, Fe, Al, Zn > Mg, K, Ti, S, P, Mn > Cl, Pb, Cr, Sr, Ni, Zr

K, Fe, Na, Zn, Mgは海からの塩分を含んだ空気、Siは大気汚染、Siは埃、Caはコンクリートや石などから由来すると考えられる。空気取り入れ口フィルターおよび山側コンクリート壁

(銅の定量)空気取り入れ口に設置されていた除塵フィルターから採取した粉塵および、冷却装置下方のコンクリート壁表面付着物を分析した。

分析の結果、コンクリート壁表面付着物から銅が検出されたが、そのほかの検体からは銅は検出されなかった(極微量のため、検出感度に達しない量であったと推された)。また、空気取り入れ口前および、比較試料には硫黄(S)が目立って存在することがわかった。これに併せ、1回目の組成分析(室内空気のGCMS分析)で250℃付近に水が検出されていたことから、外気の取り入れに伴い、空気取り入れ口フィルターに捕集された粉塵からもたらされた室内吸気の銅とSが結合し、硫酸銅として存在している可能性があるとして推測された。通常は、水は140℃でガスとして脱離してゆき、250℃での検出は考えられない。組成分析で検出された水は、250℃で硫酸銅から脱離してくる硫酸銅の構造に含まれる水和水を示しているものと思われた。硫酸銅は毒性を持つことから、収蔵庫内の細菌類がこの影響を受け、発育抑制、阻害等の影響を受けて、室内細菌が淘汰されている可能性が考えられる。

#### 3-4. カビセンサーによる環境調査

##### ①目的

空気環境調査において、収蔵庫の菌類が空気環境の何らかの要因で生育が抑制され菌種も淘汰されている状況が考えられた。一方、収蔵庫の壁や棚、保存箱など、作品が接する面や躯体自体が、場所により、どの程度に菌類の発育条件を満たす環境を有しているのかを把握するため、カビセンサーを使用して観察をした。

##### ②方法

カビセンサーは内部に休眠状態のカビの胞子と栄養分が封じ込まれた環境調査用の試験片である。カビは外部には漏れ出さないような構造であるが、カビセンサーを乾燥状態(休眠状態)から出して、ある一定期間、測定箇所を設置すると、その環境の酸素や水などを感じ取り、環境に応じた発育状況を示す。胞子や発育した菌糸の長さより指数を出し、「発育する環境」「発育しないが生存できる環境」「死滅する環境」など、大きな目安が得られる。測定箇所は収蔵庫壁面、棚、保存箱内など10箇所を選び、7日間設置した。

##### ③結果

指数は低いものであり、収蔵庫環境としては問題がなかった。また、すべての箇所ではほぼ同様の指数であり、収蔵庫内で特に環境の偏りは無いと考えられる。しかし、菌糸長を見る限り菌は発育しているので、温湿度の管理が重要であることが認識される。

#### 4. 考察

本研究は、以前行った葉山館の調査結果と比較検討を行う目的で実施された。結果として、空気組成に関しては、新築で内装材も新しく、作品も合成樹脂など新しい素材が使用されている作品が多く収蔵されている葉山館では、微量ながらも多くの種類の有機ガスが検知されたのに対し、鎌倉別館では、通常では存在しないような成分は検知されなかった。建物も内装材も作品の素材も年月

を経ていることや、内装が木張りであることが、比較的清浄な空気環境を保つのに貢献している可能性は大きい。

細菌検査において見られた菌類の生育抑制や菌種の淘汰については、温湿度管理の効果だけではなく、ペニシリウムやムコールなどの一定の菌種の持つ抑勢力が貢献している可能性も考えられる。しかし繁殖が進めば作品には有害であることは明白である。一方、GCMS分析において例外的に250℃で検出されたH<sub>2</sub>Oの存在は、外気からもたらされた硫黄(S)と空調の室外冷却機から発生する硫酸銅が作り出す副産物であることも示唆された。非常に微量であるが、偶然にもこれが菌の生育抑制に貢献している可能性もある。しかし、ある量を超えれば、その存在が作品の顔料や他の素材に悪影響を及ぼさないと限らない。

検査結果を総合的に考察すると、浮遊菌の一定量の存在にもかかわらず定着すべき落下菌が少ない状況は、現時点においては、菌生育抑制の複数の要因がバランスよく存在している状況が考えられる。それは、室内、室外両者からもたらされている要因でもある。一方、そのバランスを崩すと作品には悪影響を及ぼす可能性もある。今後はこのバランスが崩れることなく、また各要因が悪影響をもたらす方向に偏ることのないようにしなければならない。常に変化する環境に対しては状況を観察し続けることが重要である。いずれにしても、収蔵庫の周辺および庫内の定期的な清掃と温湿度管理が日常の管理作業として非常に重要であることを認識し、実行することが必要である。今回の調査において、想像の範疇を出なかった作品収蔵環境の実態を把握することができたことは、大きな成果であった。

本研究は、ポーラ美術振興財団の助成金により行いました。また、空気環境調査は、(株)日本衛管指導センター 古矢光正氏、古矢晃敬氏、(株)ビステム・イー 石橋良助氏の協力を得て行われました。ここに記して謝意を表します。

## 調査研究・執筆等の発表

### 1) 当館開催展覧会に伴う調査研究・発表

展覧会図録への発表:7点18件(詳細は展覧会活動ページの各展図録内容を参照)

外部の媒体への発表:5媒体14件

### 2) 所蔵作品や館内の活動に対する調査研究・発表

当館の発行物への発表:3媒体(年報、たいせつな風景、DVD)8件

外部の媒体への発表:11媒体16件

### 3) 専門分野での調査研究・発表

外部の媒体への発表:16媒体18件

### 4) 外部資金を活用した調査研究・展覧会

科学研究費補助金(文部科学省)「美術館活動を素材とした汎用的教材の開発」(稲庭彩和子)

ポーラ美術振興財団補助金(ポーラ美術振興財団)「アール・デコの装丁芸術—ヴラチスラフ・H.プルンネルを中心に」(榎山昌夫)

社団法人 企業メセナ協議会 助成認定制度(社団法人 企業メセナ協議会)「伊庭靖子展」

## 講師派遣・外部委員等就任

### 1) 講演会講師等派遣(学校連携プログラム以外の講師派遣)

実施日	内容	対象	会場	参加者数	主催	実施
平成20年 6月25日	美術スクールセミナー	中学2年生	北鎌倉女子 学園中学校	106名	北鎌倉女子 学園中学校	太田泰人
平成20年 7月5日	「Museum Box 宝箱」を活用した 図画工作科における鑑賞の指導	小学4年生	中井町立 井ノ口小学校	80名	中井町立 井ノ口小学校	山内舞子
平成20年 7月31日	平成20年度葉山町教育研究所夏季研修講座 「美術館活用ワークショップ」	葉山町内 教職員	神奈川県立近代 美術館 鎌倉	20名	葉山町	稲庭彩和子
平成20年 8月19日	平成20年度逗葉三浦合同初任者研修会 「美術館と学校との連携について」	逗子市・葉山 町・三浦市 新採用教員	神奈川県立近代 美術館 葉山	30名	逗子市教育委員会	稲庭彩和子
平成20年 8月20日	教科等専門研修事業 美術館との連携による教育活動研修講座	小・中・高・ 特別支援 学校教員	神奈川県立近代 美術館 葉山	30名	神奈川県立 総合教育センター	太田泰人
平成20年 11月19日	「Museum Box 宝箱」を活用について	逗子市内小・ 中学校教員	逗子市立 逗子小学校	10名	逗子市教育研究会	稲庭彩和子
平成20年 11月20日	文化庁事業「学校への芸術家派遣事業」	高校生	神奈川県立 大清水高等学校	30名	神奈川県立 大清水高等学校	丸尾尚子
平成21年 2月28日	群馬・学校と美術館の連携による美術鑑賞 教育研究会講演会 「学校と美術館の連携—神奈川県立近代 美術館の場合—」	群馬県立近代 美術・館学芸 員・群馬大学 職員・群馬県 内小・中・高 美術教員	群馬県庁	40名	群馬大学	稲庭彩和子

2) 外部委員等就任

職員名	内 容	
	団体名	職名
山梨俊夫	広島県立美術館	広島県立美術館美術品等収集評価委員会委員
	静岡県立美術館	静岡県立美術館第三者評価委員
	愛知県美術館	愛知県美術館美術品収集委員会委員
	県民部文化課	神奈川文化賞・スポーツ賞審査委員会委員
	横浜市	横浜市美術資料収集審査委員
	国立美術館	独立行政法人国立美術館運営委員会委員
	国立民族博物館	国立民族博物館運営会議委員
	(財)神奈川芸術文化財団	財団法人神奈川芸術文化財団評議員
	平塚市美術館	平塚市美術館協議会委員
水沢勉	横浜市	横浜トリエンナーレ2008総合ディレクター
	文化庁	平成20年度(第59回)芸術選奨推薦委員
	群馬県立館林美術館	群馬県立館林美術館作品収集委員会委員
	福岡アジア美術館	福岡アジア美術館美術資料収集審査員
	長野市	長野市野外彫刻賞選考委員会委員
	鳥取県立博物館	鳥取県美術資料収集評価委員会委員
	平塚市美術館	平塚市美術品選定評価委員会委員
太田泰人	東京大学大学院	博士学位申請論文審査委員
	東京国立近代美術館	東京国立近代美術館美術作品購入等選考委員
	東京都	東京都現代美術館美術資料収蔵委員会委員
	東京都	東京都写真美術館作品資料収蔵委員会委員
伊藤由美	東京藝術大学	非常勤講師
橋秀文	湯河原町	湯河原町美術品等選定委員会委員
	山口蓬春記念館	山口蓬春記念館美術品評価委員
	県民部文化課	「あいさつをしよう」紙芝居コンテスト選考委員
	神奈川県民共済生活共同組合	夏休みに描くクレヨン画コンクール 審査員
	神奈川県女流美術家協会	神奈川県女流美術家協会展審査委員
是枝開	神奈川県社会福祉協議会	かながわシルバー美術展審査委員
	東京藝術大学	非常勤講師
李美那	生涯学習文化財課	文化財保護ポスター審査委員
榎山昌夫	茅ヶ崎市	美術品審査委員会委員
	県民部文化課	神奈川県美術展審査委員
稲庭彩和子	美術史学会	美術館博物館委員会専門委員

# 運営・管理報告

## 概 況

### 1) 沿 革

昭和26年11月17日	神奈川県立近代美術館として開館
昭和41年 3月31日	収蔵庫及び常設展示室並びに附属棟を増設
昭和44年 3月31日	学芸員室を増設
昭和49年 8月 1日	神奈川県立近代美術館組織規則(昭和49年神奈川県教育委員会規則第9号)により、管理課、学芸課の2課を置く。
昭和59年 7月28日	別館を開館
平成 3年10月30日	本館の改修工事完了
平成13年 7月 5日	PFI事業契約の締結
平成15年 6月 1日	神奈川県立近代美術館組織規則の改正により、管理課、企画課、普及課の3課体制となる。
平成15年10月11日	葉山館を開館

### 2) 所 掌 事 務

県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を実施する。

### 3) 施設の状況

#### ア 土 地

県 有	(葉山館分)	面 積	15,034.8㎡
		※生涯学習文化財課管理	
	(鎌倉別館分)	面 積	4,937.0㎡
借 用	(鎌倉館分)	面 積	4,243.1㎡
		(有償分)	1,547.2㎡
		(無償分)	2,695.8㎡

#### イ 建 物

県 有	面 積	4,034.0㎡
	(鎌倉館分)	2,435.0㎡
	(鎌倉別館分)	1,599.0㎡

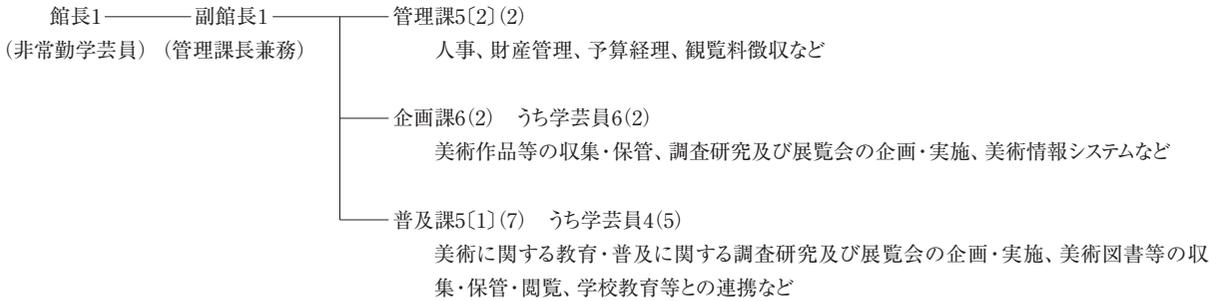
PFI事業の概要については、2007年度運営・管理報告(年報 2007年度、p.63)を参照

## 収入・支出の状況

収入			支出(人件費含まず)		
科 目	金 額	内 訳	事 業 名	金 額	内 訳
行政財産使用料	251	鎌倉館喫茶建物使用料等	維持運営費	78,583	維持管理・事業運営
使用料	54,240	観覧料収入	美術館事業費	127,457	展覧会開催費
立替収入	1,458	レストラン他	調査研究事業費	329	調査研究謝礼
		電気・ガス・水道代			資料購入
雑入	15,646	図録等販売	教育普及事業費	3,070	教育普及事業
教育受講料収入	136	県立機関活用講座	美術作品整備事業費	8,895	美術作品の修復
計	71,731				美術作品の購入
			特定事業費	233,326	維持管理業務(PFI業務)
			県立機関活用講座開催事業費	277	講座の開催
			計	451,937	

## 組 織

葉山館の整備による組織の改編を行うため、神奈川県立近代美術館組織規則を改正(平成15年6月1日施行)し、従来の管理課・学芸課の2課体制から、管理課・企画課・普及課の3課体制となった。平成20年4月1日現在の職員配置状況は次のとおり。



※〔 〕内は再任用で外数 ( )内は非常勤で外数

職員数合計 32人 〈常勤17人(うち学芸員10人)、再任用3人、非常勤12人(うち学芸員8人)〉

施設別配置状況

葉山館	23人	〈常勤12人(うち学芸員7人)、再任用2人、非常勤9人(うち学芸員6人)〉
鎌倉館	6人	〈常勤 4人(うち学芸員3人)、非常勤2人(うち学芸員1人)〉
鎌倉別館	3人	〈常勤 1人、再任用1人、非常勤1人(うち学芸員1人)〉

職員一覧

館長	山梨俊夫			非常勤学芸員	朝木由香
副館長	戸来丈一			非常勤学芸員	安部沙耶香(10月末まで)
				非常勤学芸員	和田菜穂子(11月1日から)
管理課	課長(兼)	戸来丈一			
	課長補佐	松本清史	普及課	課長	太田泰人
	副主幹	會津 勉		主任学芸員	是枝 開
	副主幹	高麗克美		主任学芸員	長門佐季
	主査	中嶋哲志		学芸員	奥野美香
	主事	江成真実子		非常勤学芸員	稲庭彩和子
	管理業務専門員	林 弘一		非常勤学芸員	平井鉄寛
	管理業務専門員	大貫一郎		非常勤学芸員	山内舞子
	非常勤事務補助員	加藤直美		非常勤学芸員	土居由美
	非常勤事務補助員	北口正子		非常勤学芸員	丸尾尚子
企画課	課長	水沢 勉		[美術図書室]	
	専門研究員	伊藤由美		副主幹	遠藤裕邦
	専門学芸員	橋 秀文		図書業務専門員	野田容子
	主任学芸員	李 美那		非常勤司書	村上尚子
	主任学芸員	糺山昌夫		非常勤司書	溝口 綾
	学芸員	三本松倫代			

年報 2008年度

発行日:2010年3月31日

編集・発行:神奈川県立近代美術館

葉山 〒240-0111 三浦郡葉山町一色2208-1 電話046-875-2800

鎌倉 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-1-53 電話0467-22-5000

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

製作:求龍堂

ANNUAL REPORT 2008

Edited & Published by The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2010

Produced by Kyuryudo

© The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2010

The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama